

お茶の水女子大学国際教育センター
海外交換留学派遣生
留学報告書 2017



Study Abroad Annual Report 2017



留学のすすめ

いうまでもなく大学は高等教育機関である。大学では、社会のニーズにあった人材を育成すべく、高等教育機関にふさわしい高度な教育を行なっている。そこでは既存の知識をクリティカルに見つめ、新たな知を創造することはいうまでもなく、自己や社会に対してもクリティカルに見つめながら、よりよい自己、よりよい社会を築く担い手としての人材を育成している。

グローバル時代を迎えた今日、大学にはこのグローバルな社会をよりよいものとし、そこで暮らす多様な人々がともに生きることを可能にするための知恵と視点、さらにはそれらをもって社会を変革できる行動力を持った人材を必要としている。

そのような人材は一体どのようにしたら育むことができるであろうか。自身の経験から考えると、それは教室で学ぶだけでは限界があり、自らが教室を飛び出し、グローバル化した社会において様々な他者と出会い、ともに生きるための経験を積むことが何よりも有効であると考えます。日本も急速にグローバル化しており、東京にも海外から多くの人が訪れ、生活するようになってきたことを考えると、こうした経験は必ずしも海外に出ずとも可能であると言えるのかもしれない。しかし私はあえてここで海外への留学を勧めたい。それは、住み慣れた世界を離れ、自らをマイノリティの立場におくことで、今まで当たり前としていた言語、文化、価値観などを相対化し、またマイノリティが置かれた立場を理解することで、グローバル時代に最も必要とされる多様性の受容や、自国や自文化を中心とした価値観やアイデンティティを、よりインターナショナル、インターカルチュラルな価値観やアイデンティティへと高めてくれると思うからである。また親元を離れ、親しい友人のもとを離れ、多様な価値観を持った他者と協働しながら一人暮らし経験は、将来、世界を舞台に、能動的、かつ協調性を持って活躍するリーダーシップを育んでくれるであろう。

そのような観点から、本学では、国際化を重要な課題の一つと位置づけ、毎年多様な国際交流イベントやプログラムを実施している。その中で何よりも重要なのが、この長期交換留学である。本学は現在、海外の76大学と国際学術交流協定を結び、学生・研究者の派遣、受入れを積極的に行なっている。留学を経て大きく成長して帰国した学生たちの姿を目にするたびごとに、留学こそが高等教育機関としての大学に必須の教育プログラムであると痛感している。

本報告書は今年度交換留学から帰ってきた学生の学びと体験をつづったものである。これを読みながら、留学を考える学生や、留学に行こうかと迷っている学生が、一人でも多く、感受性豊かなこの学生時代に、海外へと羽ばたき、時代のニーズにあったグローバルな観点を備えた人材へと成長していくことをから祈ってやまない。

2019年3月7日

国際教育センター長 森山 新

CONTENTS
交換留学生 留学報告書 2017

WHO ?

2017 年度交換留学派遣生

WHEN ?

交換留学プロセス

WHERE ?

留学先・協定校・提携校一覧

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

WHO?

2017年度交換留学派遣生

2017年度 大学間交流協定に基づく派遣学生

2017年度交換留学派遣生

南オレゴン大学（アメリカ）	高田七海	通年：H29.9-H30.6
ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院（イギリス）	土肥慶子	半期：H29.9-H30.2
ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院（イギリス）	高田実穂	通年：H29.9-H30.6
ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院（イギリス）	佐藤琴乃	通年：H29.9-H30.6
国立ナポリ大学オリエンターレ（イタリア）	君島英恵	半期：H29.10-H30.3
梨花女子大学（韓国）	五十嵐陸	通年：H29.9-H30.6
リンショーピン大学（スウェーデン）	田邊采佳	通年：H29.8-H30.7
プリンス・オブ・ソクラー大学（タイ）	大垣志織	半期：H29.8-H30.1
タマサート大学（タイ）	伊藤真帆	半期：H29.8-H29.12
国立政治大学（台湾）	前田佳菜絵	半期：H29.8-H30.1
北京外国語大学（中国）	杉本優花	通年：H29.9-H30.7
北京外国語大学（中国）	木下奈旺	通年：H29.9-H30.8
北京外国語大学（中国）	伊藤真季江	通年：H29.9-H30.7
バーギシェ・ブッパタール大学（ドイツ）	新倉梨加	半期：H29.9-H30.3
バーギシェ・ブッパタール大学（ドイツ）	千葉まどか	通年：H29.10-H30.7
ブレーメン応用化学大学（ドイツ）	三浦桃子	通年：H29.10-H30.6
タンペレ大学（フィンランド）	光野静	半期：H29.9-H29.12
パリ・ディドロ大学（フランス）	根建真衣子	半期：H29.9-H30.1
パリ・ディドロ大学（フランス）	渡辺采香	通年：H29.7-H30.6
ブカレスト大学（ルーマニア）	小山未空	通年：H29.10-H30.6

WHEN?

交換留学プロセス

STEP1 学内選考への応募

4月中旬 海外留学説明会…交換留学を含むお茶の水女子大学からの留学について、全般的な説明を行います。

7月～10月 協定校派遣学生募集要項配布……国際課で募集要項を配布します。

10月 海外留学説明会…交換留学に関する最新情報や申請書類の作成方法について説明します。

10月下旬 応募締切…申請書類（*1）を国際課へ提出します。*1 交換留学の申請書類
<提出物>

申請書、志望校一覧、留学計画書、指導教員の推薦書、誓約書、学部以上の全課程にかか
る成績証明書、健康診断書、語学試験結果の写し

※英語能力を証明する試験結果を必ず提出すること

STEP2 学内選考

11月上旬……第1次選考（書類審査）

11月中旬……第2次選考（面接、外国語口頭試問）

12月下旬～1月上旬……結果発表

選考基準

- ・学業成績（学部以上の本学在籍時の general GPA により評価する）
- ・外国語能力（派遣先大学にて講義、演習および研究指導を受けるのに必要な語学力を有していること）
- ・派遣先大学が要求する語学基準を満たしていること。
- ・留学の目的および計画が明確であること。
- ・明確かつ具体的な理由により派遣先大学を選定していること。
- ・留学後の進路・就職に対する計画・意識が明瞭であること。
- ・国際交流活動への意欲や経験があること。
- ・本学の代表としての適性・資質が備わっていること。
- ・派遣国および派遣先大学での学業および生活に必要な適応性があること。

STEP3 留学まで

2月～5月……派遣先大学への留学申請手続き

4月～6月……事前研修

7月以降 ……留学開始（各大学の新学期に準ずる）

WHERE ?

留学先・協定校・提携校一覧

大学間交流 協定大学

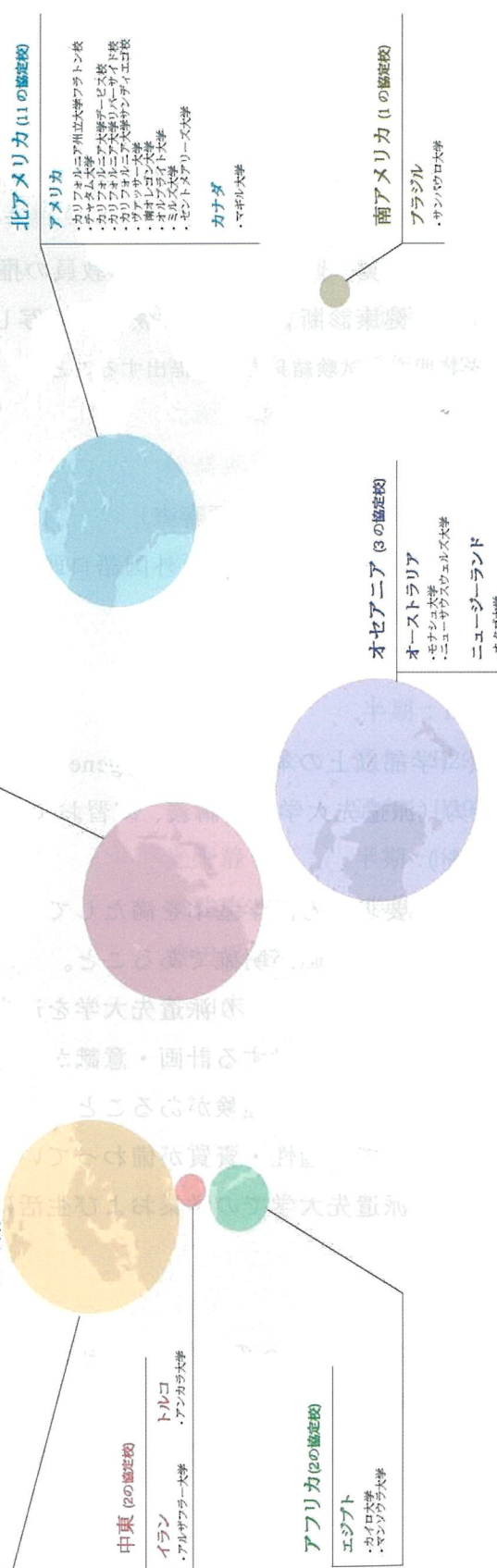
■ 海外協定校: 29の国と地域、80 大学 ※2019年3月現在

ヨーロッパ (34の協定校)

- イギリス**
 - ・ロンドン大学キングスカレッジ
 - ・オックスフォード大学リカカーカレッジ
 - ・ロンドン大学バークベックカレッジ
 - ・ロンドン大学経済・アフリカ研究学院(SOAS)
 - ・マンチェスター大学
 - ・ハル大学
 - ・ブリティッシュ大学
- イタリア**
 - ・サピエンツァローマ大学
 - ・国立ボローニャ大学
 - ・コッレージュ・スモーグマ
- オーストリア**
 - ・ウィーン工科大学
- スペイン**
 - ・アルゴス大学
 - ・バリアドリード大学
- スロバキア**
 - ・スロバキア工科大学
- スロベニア**
 - ・リュブリャナ大学
 - ・リュブリャナ大学
- チェコ**
 - ・カレル大学
- ドイツ**
 - ・バーゼル・フツバール大学
 - ・ケルン大学
 - ・ブレンテンブレン工科大学
- ノルウェー**
 - ・ノルウェー科学技術大学
- フィンランド**
 - ・セントヘリヤ保健科学大学
 - ・タンペレ大学
- フランス**
 - ・クレルモン・オーベリニク大学
 - ・パリ市立工務管理(化学)専門学校
 - ・フランス共和国農林業(パリ)大学
 - ・ヨーロッパ工科大学
 - ・ヨーロッパ工科大学
 - ・ポルト大学
 - ・ストラスブール大学
- ポーランド**
 - ・ワルシャワ大学
- リトアニア**
 - ・グナイタウナス・マグナス大学
- ルーマニア**
 - ・ブカレスト大学
- ロシア**
 - ・トムスク国立教育大学

アジア (27の協定校)

- インドネシア**
 - ・インドネシア国立芸術大学サンボサール校
- 韓国**
 - ・釜山外国語大学
 - ・慶熙大学
 - ・梨花女子大学
 - ・東国大学
 - ・延世大学
 - ・釜山大学
 - ・慶明女子大学
 - ・韓国芸術総合学校舞臺院
- タイ**
 - ・アジア工科大学院大学
 - ・チェンマイ大学
 - ・プリンス・オブ・ソングクラーク大学
 - ・タマサート大学
- 中国**
 - ・北京外國語大学
 - ・北京外國語大学
 - ・復旦大学
 - ・北京大學歴史学系
- 台湾**
 - ・開南大学
 - ・國立政治大学
 - ・國立成功大学
 - ・台北医学大学
 - ・國立台北芸術大学
- ベトナム**
 - ・国立ハノイ教育大学
 - ・ハノイ大学
 - ・ベトナム科学技術アカデミー・ゲノム機関



アメリカ留学

文教育学部言語文化学科

1610247 高田七海

南オレゴン大学

2年生の9月から3年生の6月までをアメリカのオレゴン州にある南オレゴン大学で過ごしました。今までで一番必死になって宿題をやったと思うほど勉強は大変でしたし、泣いたことも何度かありましたが、それ以上に多くの素晴らしい経験と楽しい思い出ができました。

1. 留学準備

私は2年生で留学したいという気持ちが強かったため、1年生の始めの方から学内で開催されていた留学説明会に参加して情報をなるべく多く入手するようにしていました。この時は特にアメリカがいいと強く思っていたわけではなく、最初に派遣先を決めた時にはイギリスの大学を選び、その大学に行くのに必要なIELTSを1年生の夏に受けました。しかしその後南オレゴン大学の枠がまだ残っていることを知り、希望を変更しました。理由としては南オレゴン大学のホームページなどを見て雰囲気や授業に魅かれたこと、また派遣定員が1名だったので新しい環境で知っている人のいないところで約1年過ごすのも楽しそうだったことなどがあります。南オレゴン大学が要求していたIELTSスコアはクリアしていたのでさらに語学試験を受けることはありませんでした。ビザに関しては、私はアメリカ大使館が開催していた Student Visa

Day というイベントに参加してそこで面接も受けました。ビザの面接はスムーズに進んだのですがこの時はまだ派遣先からの資料が何も届いておらず、後日メールで送らなければなりませんでした。2年生から留学するには入学してからすぐ考え始めないといけないので早めに行動し始めるのが大切かなと思いました。

2. 留学中のことに関して

南オレゴン大学では2人部屋の寮に住んでいました。寮に住む学生はミールプランを取らなければならなかったのですが、基本は大学の学食のようなところでご飯を食べていたので日常にお金を使うことはほぼありませんでした。ちなみにその学食はビュッフェ形式でした。秋、冬、春の3つの学期と12月いっぱい冬休みを過ごしました。だいたい各学期には10週間あります。まず秋学期に関して、一番印象に残っているのはネイティブアメリカンの授業です。留学生は自由に授業が取れるので、何か日本でやったことのない授業を取ろうと思いこの授業を取りました。この授業はとにかくリーディングが多くて、授業はディスカッションメインだったため最初はついていけず、教授と話しているときに泣き出したこともありましたが、クラスメイトと教授のおかげで無事に多くを学びました。秋学期が終わり、冬休みは寮からでなければならなかったため、オレゴン州のポートランド、ニューヨーク、ロサンゼルス旅行し、クリスマス以降は大学の近くでホームステイしました。クリスマスをアメリカの一般の家庭がどのように過ごすのかを知れて、たくさんの料理と

WHAT ?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

プレゼントに囲まれてとても良い時間を過ごしました。年末年始は Leadership conference というものに参加し様々な国の学生と交流しました。そして冬学期と春学期は慣れてきたこともあり幅広くいろいろな授業を取り、多くの人と関わって、新しいことをたくさん学ぶことができました。普段の授業もそうですが、宿題がかなり多くて図書館には毎日のように通いました。冬学期からはハワイアンクラブに入りフラダンスを練習し、春学期の間にはショーにでました。

私はこのハワイアンクラブと留学生が多く入る International Student Association というクラブに入っていたのですが、クラブ活動は留學生活の中でもとても楽しかった思い出の一つです。留学に行く前はホームシックになるのかなとか、友達ほんとにできるのかなとか、不安は尽きませんでした。実際始まってみると忙しさと楽しさでホームシックにはならず、あっという間に時間は過ぎ、友達も日本人、他の国からの留学生、現地の学生とたくさんできました。とりあえず何でもやってみたり、誰にでも話しかけていったりすること



で、自分が想像していた何倍も楽しく、充実した留學生活になりました。

3. 留學後の進路

留學から帰ってくると、周りはインターンシップに参加していたりして就活を意識するような状況でした。私は留學する前までは英語を使った職業がいいから航空系の仕事がいいかなと漠然と考えていましたが、いろんな人と関わる中で考えも少し変わり、今はもう少し違う分野も視野に入れようと思うようになりました。留學先では就活に追われているような友達はいなくて、卒業後はとりあえず休むという人もいて、日本との違いに驚きました。まだ就きたい職業は決まっていますが、自分も周りに流されすぎずやりたいことを見つけていけるように、そして残りの大学生活もしっかりと勉強していけるように頑張ろうと思います。



WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

派遣されていた期間

2017/10/01-2018/6/30

【留学前】

語学能力試験のための準備はどうしましたか？（必要だったスコアは？）

IELTS 6.0 以上必要だったので1年生の夏ごろから勉強し始めた。

ビザの取得はどのようにしましたか？

アメリカ大使館の student visa day でインタビューを受けて J1 ビザを取得した。

航空券の手配、海外旅行保険などの準備はどのようにしましたか？

海外に行ったこともなくよくわからなかったためエクスぺディアで航空券を取った。そのせいなのか周りの人より高かった。保険はエマージェンシーアシスタンスの保険に入った。

宿泊先はどのように選びましたか？

派遣先からの資料から選んだ

【留学中】

居住形態と住み心地はどうでしたか？

キャンパス内の寮の2人部屋に住んでいた。シャワートイレ、キッチンが共同だったが特に不便だとは感じなかった。

1ヶ月の居住費はいくらくらいでしたか？

1ターム 10週間で26万円程度だった。なので1ヶ月8万~9万円程度

1ヶ月の生活費はいくらくらいでしたか？また、物価は東京と比べてどうでしたか？

寮に住んでいる人はミールプランというご飯のプランに入らなければいけなかった。ミールプランは1ターム15万円程度で1ヶ月だと5万円ほど。ミールプラン以外に食費などはほとんどかからなかった。スーパーでも特に高いとは感じなかった。

勉学にかかる費用はどれくらいでしたか？

教科書が高いものは1万円を超えるものもあったので、レンタルして3分の2ほどの値段で使っていた。

大学周辺の雰囲気はどうでしたか？

自然が豊かで鹿やリスがいた。とても良い雰囲気で安全な場所だった。

現地の気候はどうでしたか？

過ごしやすかった。私がいた年は雪がほとんど降らなかったが、少し吹雪になると学校が休みになった。

生活する上で日本から持って行った方が良いものは？逆にいらぬものは？

医薬品。ミールプランに入るなら調味料などはいらぬと思う。

現地で注意した方がよいことはありましたか？

特になし

現地で語学学習に特化したクラスを受講しましたか？受講していた場合、クラスの形態（開催時期）・内容・レベルを教えてください。

受けてない

学部または大学院での授業は自由に選択あるいは受講できましたか？また、制約があった場合、どのような制約でしたか？

自由に選択できた。

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

1 週間に何コマ履修していましたか？また、制度上何コマまで履修できますか？

1 クラス 4 単位で交換留学生は 12 から 16 単位取れるため、秋タームは 3 つ、冬と春は 4 つの授業を取っていた。1 つの授業は 2 日に分かれていて(月曜と水曜など)1 日 2 時間。

授業についていくのは大変でしたか？また、授業のための準備や課題はどのようなものでしたか？

ディスカッションやリーディングが多いと大変だった。同じクラスにいる人に質問したり、教授に直接質問しに行った。課題はリーディング、リーディングのサマリーなどが多かった。プレゼンも結構あった。

授業内で現地の学生と親しくなる機会がありましたか？

留学生が他にいと留学生同士でかたまりがちだったが、留学生 1 人とかだと、周りの人から声をかけてくれることもあり、ライティング課題を手伝ってくれる人もいた。

課外活動には参加しましたか？もし、参加していれば具体的に教えてください。また参加しなかったのならば、どうして参加しなかった・できなかったのかを教えてください。

ハワイアンクラブには行ってフラダンスをやっていた。ルームメイトもハワイ出身で、周りにハワイの友達も多かったため参加した。4 月にあったショーのために週 3 回練習した。

授業のない期間はどのように過ごしましたか？(週末あるいは長期休暇)

週末はほとんど課題をやっていた。長期休暇は寮から出なければいけなかったため旅行に行ったり、ホストファミリーを探してそこでクリスマスをお過ごししたりした。

何か大きなトラブルはありましたか？どのように対処しましたか？

なし

【留学後】

帰国する前に準備しておくことはありますか？

とくになし

就職活動あるいは大学院入試のために現地でやっていたことはありますか？

とくになし

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

ロンドン大学SOASへの 半期留学を経て

文教育学部 人文科学科

1610138 土肥慶子

ロンドン大学 東洋・アフリカ研究学院

(イギリス)

1. 留学準備に関して

私の留学は、学部1年の10月末の志望理由書と推薦文の提出から始まりました。その後11月にIELTSを受験し、書類選考通過後面接を受け、翌年2月に内定を頂きました。IELTSの点数に関しては、全項目で7.0以上が求められていましたが、ライティングが6.5に留まってしまったため、本科開始前に開講されるプレセッションコース（以下「プレ」）参加が義務付けられました。内定後は、ビザの取得・保険の加入・寮の手配・航空券の手配・授業料（プレのもの）や寮費の支払い等具体的準備を進めました。ビザの取得は、時間も手間もかかり一番苦労したように記憶しています。ネット予約後、全ての書類を揃えて港区にあるビザセンターへ赴かなければならず、少しでも不備があると再度ネット予約が必要というような具合でした。また2万円程支払えば、優先してビザの手続きを行ってもらえるサービスなどありました。保険に関しては、大学推薦のものに加入しました。また相手先校でもオリエンテーション内で国の保険に加入するよう勧められました（私はそのオリエンテーションを逃してしまったので加入しませんでした。個人でも加入が可能なので必要であればいつでも加入を検討できます。低容量ピルなどを無料で処方してもらえるので、環境の変化

やストレスによるホルモンバランスの乱れの相談などにも活用できると思います。）しかし歯の治療は基本的に留学保険では適用されないため、渡航前に親知らずの治療を済ませました。寮は相手先校からレコメンデーションという形で指定されるため、その通りに従い手続きを進めました。基本的に学部生はDinwiddyハウスに寝泊まりすることになっているようです。この寮はユニットバス付きのWi-Fiの通ったワンルームで、机・椅子・ロッカー・ベッド（シーツや枕等無し）・カーテン・運が良ければ全身鏡が備え付けられています。キングスクロス駅まで徒歩5分、大学まで徒歩20分程でとても立地が良いです。警備もしっかりしており、男女別や国籍別などにはなっていませんが特に事件もありません。（ただ頻繁に火災報知器の誤作動が起こり、深夜でも構わず起こされることがあります。）寮の手続きについてですが、契約書等全てが英語であることを始め、不明点は英国に直接電話・メールで連絡をとらなければならない点でやや苦労しました。また、相手先も多くの生徒を扱っているからか連絡がとても遅く、不安になることが多かったです。寮の手配後に航空券をとり、渡航日に向けて準備をしていきました。

2. 留学中のことに関して

基本的に留学中の生活は「よく読んで、よく遊ぶ」というものになりました。まず「よく読む」ことに関してですが、少なくともイギリスの大学ではひたすらに授業に関係する文献のリーディングが大量に求められます。週に一コマあたり80ページ

WHAT ?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

程読んでいる学生もいました。単語を一つずつ丁寧に拾い上げるよりはむしろ斜め読みをしながらも内容をしっかり把握する力が求められます。授業を聞くためのリスニング能力、ディスカッションの際のスピーキング能力、エッセイを書く際のライティング能力とどれもかなり高いレベルのものを要求されますが、否が応でも授業は進み、課題の期日はやってくるのでなんとかなりがちです。しかしそれをベースから支えるのがリーディングだと強く感じました。フラットメイトだったアメリカ出身の学生が日々、「リーディングしなきゃ、」と口癖のように言っていたのを見ても、いかに大変なことであることがわかります。また授業についてですが、学部生は計四コマの履修が定められていました。一コマは一時間の講義と一時間のディスカッションで構成されており、連続で行われるものもあれば、日を跨ぐものもあり様々でした。

さて「よく遊ぶ」ことに関してですが、個人的には勉強と同等に大切なことのように思えます。留学前に大学の先生方から「『遊』学ではないのだから誠心誠意勉学に励むように」と口ずっぱく言われておりました。しかし、部屋にこもって本を読むことは最悪日本でもできてしまいます。今、ここにいるからこそできることを見つけ、行動に移すことが留学の醍醐味ではないでしょうか。そこで私は「いろいろな自分」として能動的に毎日を過ごすように心がけました。例えば、大学で映画制作サークルに参加している自分として、留学先でも映画制作サークルに参加して現地の大学

生と映画を製作しました。日本人である自分としては留学先でできた友達と大英博物館を回って自身の文化を紹介しあったりもしました。映画好きな自分としてロンドン市内で行われている映画イベントを片っ端から調べ、毎月第1水曜日に開催される短編映画上映会に毎月通いそのイベント会場であるパブの店員さんに顔を覚えられるなどしました。せっかく一緒になったフラットのメンバーの一員としてクリスマスにはシークレットサンタなどイベントを盛り込んだクリスマスパーティーも企画しました。ヨーロッパに滞在している留学生としては激安チケットでアイルランドに外国人留学生と旅行に行き、歴史的建造物や美術品をみにいきました。また現代を生きる大学生として、世界各国からの同世代と机とお酒を囲みながら人生観・宗教観・恋愛観・環境問題について・薬物について・自分の将来についてなどを朝まで語り明かすこともありました。

3. 留学後について

帰国後は留学先への最終課題の提出、弊学の授業の課題提出、更には成人式にも追われてこなすだけで随分大変だったことを覚えています。留学で得ることは多くありましたが、半年日本を留守にしていたことは同じ専門を研究する同期に大きい遅れをとることと同義でもありました（留学先では研究を深めるよりはむしろそのベースを広げる勉強をしていたため）。そのようにして若干の「浦島太郎状態」になった私は日本にいたらしてたであろうタスクを長期休暇で消化しながら、弊学の三年生としてしっかりと新年度を迎えられる

WHAT ?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

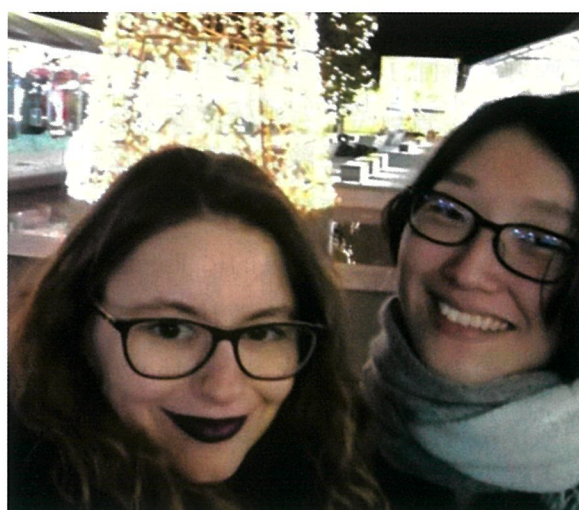
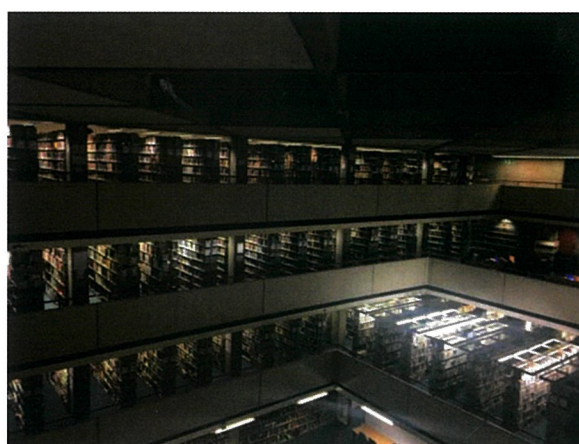
よう準備をしました。

また全体を通して自身が変わったこととしては、あまり人の目を気にしなくなりました。何を着るのも、何を買うのも、何を食べるのも、日々何をみてどう思うのも、それをどのような言葉でどのように発信するかもなにもかもが自由な環境だったことが大きいように思えます。当たり前だといわれてしまえばそれまでですが、当事者意識を持って日々生活することは案外大きなことであり、自分自身としっかり奥深くまで向き合い無限の選択肢の中から自分で毎日をカスタマイズする重要性を私はこの留学で学びました。自信とそれに基づく言動に後ろめたいものはなく、結果として今までより人の目を気にせず自分らしくいようと意識的に思えるようになりました。これは就職活動やそれ以降の人生プラン（という大げさですが）にも強く影響を及ぼしています。蛇足ですが、留前のTOEICスコアが880で、留学後は965と85点アップしました。感覚的スピーキングのハードルが低くなった他、ライティングのスキルが上がったように思えます。自身の経験や周囲の学生を見ても段違いに見違えるほど語学ができるようになることはほぼないと言えるので、留学の一番の目的に語学力向上を掲げることはおススメ

しません。しかしその国・大学で自身のやりたいことができ、経済的余裕（寮費からお土産などの雑費まで全て含めてイギリスの場合半期辺り150万円程を目安としてあげますが個人差はあります。）があれば是非学生時代に留学をしてみてください。

写真上：弊学の比にならないほどの図書が開架されているSOASの図書館

写真下：留学先でできた親友との写真



WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

SOAS で学んだ 10 ヶ月

を振り返って

文教育学部 人文科学科
1510131 高田実穂
SOAS University of London (イギリス)

私は 2017 年 8 月 23 日から 2018 年 6 月 15 日まで、イギリスのロンドンにある SOAS で約 10 ヶ月間学んだ。国際関係を学ぶ身として、世界有数の移民都市であるロンドンで、さらに留学生が全体の 6-7 割を占める SOAS で学べた時間はとても豊かで幸せなものだった。なぜなら、それまで日本人の立場でしか発展しなかった議論も、多様なバックグラウンドを持つ学生同士で話し合うことでより議論の幅が広がり、複雑で変動の激しい国際情勢の“今”をリアルに感じる事が出来たからだ。ここでは、そんな 10 ヶ月の留学生生活を振り返る。

1. 留学準備

【語学スコア】IELTS は弱点の Writing と Speaking のスコアを伸ばすため留学コンシェルジュ beo の講座を数ヶ月受講。定期的に IELTS を受験し対策本を反復して解くことで、問題数をこなしつつ語彙を増やしていった。結果的に Reading や Listening は 6.5 以上を取れるようになったものの、Writing と Speaking が伸び悩み、4 週間のプレセッションルコースを条件とした留学受け入れとなった。

【ビザ申請】7 月以降 SOAS とメールのやり取りが始まる。先方からビザ申請や滞在に必要な書類について様々な指示があ

る。少しでも不安や質問があった場合は、こまめに連絡を取って確認を取るようしていた。8 月初旬にビザ申請を行い、1 週間ほどで自宅に到着。

2. プレセッションルコース

主に英語によるアカデミックエッセイの書き方を学んだ。最終週に 1500 字のエッセイ提出がある。それまで慣れていた日本式のアカデミックエッセイとは異なる論展開に戸惑うことも多かったが、citation の仕方も含めアカデミックコースに入る前にきちんと英語論文のスタイルを学べたことがとても役立った。また、文化の違いによるコミュニケーション方法の違いについても学んだ。会話のテンポや話題展開の仕方の違いを実際に教室内で実践して事前に頭に入れておくことで、アカデミックコースが始まってからの戸惑いが少なく済んだと思う。この時期に知り合った友人とは、留学中に旅行や食事へ行くなど親密な関係を長く保つことができた。

3. アカデミックコース

【勉学】国際関係学部の科目を中心に、計 5 つのモジュールを取った。

① War and International: “戦争” という事象を様々な視点から掘り下げる。映画やゲーム、スポーツなどの娯楽と戦争の繋がりや戦争が現代の国際関係システムに与えている影響、冷戦、ゲリラ戦、市民戦争など。

② International Relations of East Asia: 中国、朝鮮、日本を中心に、欧米各国の影響や東南アジアも視野に入れながら、東アジア地域の国際関係を紐解く。

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

チュートリアルでは、日本からの交換留学生として日本の歴史や政治について尋ねられることが多かった。海外から見た日本の印象も肌で感じることができ新鮮だった。

③ Comparative Political Sociology of Asia and Africa : 南アジア、東アジア、南アフリカ諸国を舞台に比較政治学の基礎を学んだ。1学期のエッセイでは台湾と日本の学生運動を比較しその成功要因を分析した。2学期はジンバブエとザンビアの比較によって権威政権の長期化に必要な要素について考察した。

④ Pop and Politics in East Asia : 中国、韓国、北朝鮮、日本の音楽と政治の関係性を学ぶ。授業中に YouTube を皆で視聴するなど、ユニークな授業で学生に人気だった。

⑤ Going Global: An Introduction to International Migration : アフリカ、アジア、中東諸国の様々なケーススタディを用いながら、現代の移民問題について考える。国際的に見ても移民受け入れに厳しい日本の受け入れ事情は、講義の中でも特異な例として取り上げられた。なかなか日本の対応について、国際的な理解を得るのは難しいと感じた。

【休日の過ごし方】

基本的にはリーディングやエッセイ課題に多くの時間を費やしたが、1週間の Reading Week や長期休みには、現地で知り合った学生や日本人交換留学生と一緒に旅行に行った（フランス、ドイツ、ポーランド、スペイン、スコットランド等）。

普段はロンドン市内でミュージカルやバレエを鑑賞したが、博物館・美術館も無料なので日本よりも気軽に鑑賞を楽しめた。現地で出来た友人とホームパーティを楽しむこともあった。

【寮生活】 キングスクロス駅近くの Dinwiddy House に滞在。1フラット7名、キッチンシェアの Ensuit タイプの部屋だった。フラットには中国、韓国、ドイツ、イギリス、インドからの学生がおり、普段はキッチンで顔をあわせる程度だったが、時に外食に出かけたり、カレーパーティーをしたりするなど親交を深めた。留学中は知らぬ間にストレスを溜めこんでしまうので、身近な友人の存在はとても大きかった。

【課外活動】 ボランティアで日本学科4年生向けのクラスに参加。日本の外国人差別や憲法改正などについて現地学生と意見交換を行った。その他、Japan Society の言語交換にも参加。Japan Society の学生には留学期間中様々な面で助けてもらった。

また、3月に桜ライン 311 制作の映画「あの街に桜が咲けば」の映画上映会を自主企画した。桜ライン 311 は私が大学2年次にグローバル文化学環の実習で訪れた岩手県陸前高田市の NPO 法人である。ロンドンで東日本大震災関連のイベントが企画されないことを残念に思ったことがきっかけだった。少しでも多くの人に被災地の思いを届けたい、また私が日本での経験や学びを還元できる機会だと感じて企画を決意。SOAS の教授や Japan Society の友人に宣伝や教室予約の協力

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

を得て、15名ほどの観客が集まり無事開催できたことが嬉しかった。

4. 留学を終えて

10ヶ月間のロンドン留学は、様々な面で私の視野を大きく広げてくれた。議論の活発さ、“個”を尊重する社会風土、多文化に身を置くからこそ痛感するコミュニケーションの大切さ、世界の目に映

る日本の姿など、それまでの“当たり前”を覆された経験は数えきれない。それまで日本社会が価値判断の全てだった私にとって、それが絶対的なものではなく、所変われば異なる論理や規範で動く社会が存在することを学べたのは大きかった。今後もロンドンで得られたこれらの学びと経験を糧に、自分が自分らしく居られる場所を求めて、邁進していきたい。



写真1：友人たちとのホームパーティ



写真2：トークイベントの様子。多様性あふれるSOASには日本では見られないソサエティが多くある。これはNorth Korea Society主催の脱北者による講演会。

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

行動力が培われた留学生生活

文教育学部 人間社会科学科

1610415 佐藤琴乃

SOAS, University of London (イギリス)

1. 留学準備に関して

英語が好きであったことから、入学前から長期交換留学を目指していました。

4年で卒業するためにも、第2学年での留学開始が望まれたので、学内の留学フェアと国際交流センターの個別面談で情報を集めました。SOASに留学先を定めた決め手は、イギリスに行ってみたかったこと、IELTSのスコアの要求が他大学より高かったこと、専門分野の勉強に特化していたこと、でした。早速、IELTS対策を開始すると、リスニングとライティングが苦手だとわかり、合計5冊の教本に取り組みました。スコアが伸びた学習法は、インターネットで公開されているIELTSのTask2を、通学時間に何問も解いたことです。おかげですぐ構成を練り、難しい単語も含められるようになりました。

派遣が決まった後、ビザの準備にかかりました。ネットで情報を集めると、どうやら日本語での正式な説明は見当たらなかったもので、イギリス政府のページを熟読して提出書類を集めました。また、ビザと並行してSOASに申請書を出す必要があり、厄介なことに教授からの英語推薦書が必要だったのでコースの教授にお願いしました。これは知り合いの教授がいないと難しかったと思います。最後に、渡航前準備としては、滞在先との契

約と航空券の入手があります。大学指定の寮は家賃が高すぎるものの、ゾーン1という好立地と友達を作りやすそうなことから、ホームステイやシェアハウスより無難だと判断しました。航空券はビザの発行を待っていたために購入時期が遅くなり、あまり安くなかったです。

2. 留学中のことに関して

新入生歓迎のウェルカムウィークでは、学部の説明を聞いたり、ソサエティ(サークル)を選んだり、大学のバーでクイズ大会、クラブでパーティがあり、かなり圧倒されました。在籍する学生の約半数が留学生なため、国際色豊かで友達はつくりやすいです。実際、この期間で知り合った人たちは今も交流が続いています。

授業に関して、前期後期で合計8つのモジュールを選ぶことができ、人類学の授業から7個、他学部から1個の授業を選択しました。基本的には留学生は3年生の授業以外は自由に履修可能ですが、人類学の授業は事前に教授へのお伺いが必要でしたので、お茶大の成績証明書英語版をメール添付し、履修の許可を得ました。授業はほとんどのものがレクチャー(講義)とチュートリアル(ディスカッション)のセットで、リーディングスという課題を読んでくるよう言われます。これがなかなかの分量で、毎週この読み物に追われていました。また、SOASは東洋研究に特化しているため日本語学科があり、その授業にも日本語会話の練習相手として参加しました。ここも友達がつ

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

くれる良い機会でした。

テストは3学期に全て集約されているため、1、2学期中の提出課題はエッセイと呼ばれるレポートです。1500~3000字の範囲で指定されているので、計画的に取り組まないと納得のいくものはできません。私はまだ表現に自信がなかったので、友人にプルーフリーディングをお願いしました。3学期のテストは、2~3時間で3~6問を論述する形式です。テスト用ノートを作成し、授業で扱ったキーワードやリーディングスで主張されていた事柄をまとめて暗記し、過去問を参考に何度か練習をしました。エッセイで通常の点数を取れていれば、テストで落とすことはまずないと思います。

学校に併設されたランゲージセンターでは、単位とは別に様々な言語を学ぶことができます。私は広東語を選択し、週に1回、午後7時から10人ほどのクラスで全10回の授業がありました。最終回はクラスでチャイナタウンへフィールドトリップがあり、実践的に学びました。他にもスワヒリ語やヒンディー語など、SOASらしい言語が学べるのでとてもおすすめです。

続いて、生活面について。ロンドンの物価は高いので、特に外食は控えました。お昼なら10ポンド前後、夜は15ポンドくらいです。これにサービスチャージが加わります。私はクレジットカードでほぼ全ての会計をしました。寮ではキッチンフラットでのシェアとなるため、冷蔵庫のスペースを奪い合ったり、勝手に食器が使われていたりします。しかし

私のフラットはみんな生活時間が異なるようで、キッチンが混みあうこともなく、外食派が多かったのか冷蔵庫もすっきりとしていました。食料品購入のコツは、閉店前に行き、大幅値下げがされているものを得ることです。

放課後の過ごし方としては、だいたい図書館で課題、週1回ソサエティに顔を出す、夜は家事、ときどき他のフラットのパーティに行くことでした。友人と出掛けることもしばしば、その際はカフェやパブで喋ったりしていました。また、寮の最寄り駅がキングスクロス駅であることもあり、交通の便は最高で、週末は遊びにでかけました。学期の半ばに設けられているリーディングウィークという1週間の休みを利用して、寮で仲良くなった日本人留学生などと国内の10都市を回りました。また、ロンドンから他のヨーロッパ諸国に行くことは比較的安く、他の留学生はたくさん旅行をしていた印象です。実は、2学期に大学でストライキがあり、合計1週間ほどの授業がなくなったため、さらに旅する時間が増えたという背景もあります。帰国前に一度、3日間だけのホームステイに参加し、イギリスの家庭というものを体験しました。料理のイメージがわからないイギリスですが、伝統料理のパイと一緒に作り食べたことはとても楽しく、さらにイギリスが好きになりました。

3. 留学後の進路について

留学先での経験は毎日楽しく、辛かった経験は少ないです。自分が変わったと

WHAT ?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

感じる瞬間はあまりないですが、久しぶりに会った友人には態度が丸くなったと言われました。実際、世界を見据えて勉学に励む人々との出会いで、相手を素直に尊敬する心や、自分も挑戦してみようというポジティブな力を得た気がします。

進路について、留学前と後で意識の違いはありません。直近は就職活動が待ち受けているので、過去から憧れていた企業を何社か調べています。留学中も就職フェアがありましたが、その時はあまり真剣に取り組んでいませんでした。海外での就職は現在のところ考えていませんが、将来的に海外での活躍や英語の活用

は、働いていくなかで探っていければと思います。

最後に、長期交換留学という経験は、留学先で日本人学生と会うことであまり珍しくないように考えていましたが、日本でいま過ごしていて、実はとても貴重な経験だったと実感しています。留学までの準備が大変なこと、そして新たな地で一から自分でコミュニティを見つけていくこと、どれも自分の行動力を試してくれました。イギリスの一学生として過ごした9か月は、これからも振り返って自分に力を与えてくれると思います。



WHAT?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

派遣されていた期間

A さん：4 ヶ月半 / 半期

B さん：10 ヶ月

C さん：2017/9/25～2018/6/15

【留学前】

語学能力試験のための準備はどうしましたか？（必要だったスコアは？）

A さん：IELTS 全分野 7.0 以上が必要で、ライティングの点数が足りなかったので過去間で対策しました。が、結局足りずプレセッションナルコースに参加しました。

B さん：IELTS6.5（各技能 6.0 以上）を目指しひたすら受験

C さん：IELTS7.0 が必要であったため、市販の教本を買って合計 3 回受験しました。Writing のスコアが要求より 0.5 低く、3 度目の受験でやっと要件を満たしました。ウェブで公開されている Task1 と Task2 を、移動時間と早朝に取り組むようにしていました。

ビザの取得はどのようにしましたか？

A さん：ネット予約のち港区のビザセンターに赴きました。

B さん：7 月末に申請。不備のないよう派遣先とこまめに連絡を取ったり、インターネットや過去の派遣学生から情報収集を行った。

C さん：ネットで英国大使館のページから情報を集めました。提出物の準備は容易ではなく、銀行の講座証明書英語版など発行に時間を要するには要注意だと思いました。

航空券の手配、海外旅行保険などの準備はどのようにしましたか？

A さん：JAL を利用・大学推薦のオスマに加入しました。

B さん：自分で、両親と相談して決めた。

C さん：保険はお茶大と連携している OSSMA にしました。航空券は、ビザが出てから片道分だけ購入しました。

宿泊先はどのように選びましたか？

A さん：相手先の大学に指定されました。

B さん：派遣先に用意された学生寮のリストの中から、確実に受け入れられる可能性が高いものを選んだ。結果的に、最も低価格でスタンダードな Dinwiddy House に。

C さん：寮に関しては、事実上一択しかなかったので Dinwiddy house になりました。他に、ホームステイという選択もできましたが、値段と大学からの距離を考え、指定されている寮が一番無難だと思いました。

【留学中】

居住形態と住み心地はどうでしたか？

A さん：決して悪くはありませんでしたが、水回りの勝手が随分異なっていたので慣れるのに少し時間がかかりました。

B さん：1 フラット 7 名、シェアキッチンの Ensuit タイプ。冬場はシャワーが温まらず寒い思いをしたが、住めば都&衛生的。日本のクオリティを求めない。

C さん：flat に 5～7 名が住みキッチンシェアするスタイルでした。部屋は思ったより広く、ground floor であったこともあり快適でした。寮は古いですが、部屋は全然問題なかったです。

1 ヶ月の居住費はいくらくらいでしたか？（日本円で）

A さん：確か 10 万円くらいでした。

B さん：約 9 万 5000 円

C さん：約 9 万円。ロンドンの zone1 に住むとしたら妥当です。

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

1ヶ月の生活費はいくらくらいでしたか？また、物価は東京と比べてどうでしたか？

- A さん：確か 10 万円くらいでした。随分高かったです。
- B さん：10 万円を少し超える程度。奨学金 10 万円があったのでその分負担は少なかった。物価は東京の 1.5 倍。旅行が多い人はその分出費も増える。
- C さん：物価は 1.5 倍でした。日用品は問題ないですが、外食が高いです。私は倹約な方なので、一ヶ月、6 万くらいかなと思います。

勉強にかかる費用はどれくらいでしたか？

- A さん：かかりませんでした。
- B さん：教科書代はなし。コピー代に数十ポンド費やした。
- C さん：教材費は基本なしですが、50 ポンドくらいで分厚い教科書を一個だけ買いました。

大学周辺の雰囲気はどうでしたか？

- A さん：学生の街といった雰囲気で過ごしやすいです。
- B さん：博物館や大学が多く治安は良い。カフェや公園があり気晴らしもできる。寮へ戻る道は夜道は大通りを通ることを勧める。
- C さん：とても都会で、学校帰りに遊ぶことが多々ありました。

現地の気候はどうでしたか？

- A さん：曇りばかり、ということは全くなく晴れの日が続くこともありました。あと寒かったです。帰国してから日本の方が寒いなと思いました。
- B さん：曇り時々雨。春・夏は晴れることも。湿気は少ないので過ごしやすい。
- C さん：基本的に寒かったです。夏になる前に帰ってきたので、ほとんどずっと長袖でした。雨が多いので、折りたたみ傘は必須です。

生活する上で日本から持って行った方が良いものは？逆にいらぬものは？

- A さん：最初数日を凌ぐためのインスタント味噌汁等。水筒とかフォーク類とかハンガーは現地調達で十分です。
- B さん：ホッカイロやダウンなどの防寒具。リクルートスーツ（ロンドンキャリアフォーラムへ行く人）。テープのりやルーズリーフなど日本の文房具は使いやすい。
- C さん：服と本はいらぬです。服は primark など安く買えます。本も、結局あまり読みません。日本食も簡単に手に入るので必要ないです。One pound shop もあるので、なんでも手に入ります。

現地で注意した方が良いことはありましたか？

- A さん：夜遊びに出かける時は最初のうちは現地の人といくこと。
- B さん：夜道はなるべく一人で出歩かない、人通りの多い明るい道を選ぶこと。街中で知らない男性に声をかけられることが多いので絶対に着いていかない、連絡先を教えないこと。スキミング被害に遭ったので会計時にカードから目を離さない、街中の ATM 利用では暗証番号がバレないように意識を高めておくこと。
- C さん：スリはいます。友達何人かは、気づいたらカバンが開けられていた、ということがありました。

現地で語学学習に特化したクラスを受講しましたか？受講していた場合、クラスの形態（開催時期）・内容・レベルを教えてください。

- A さん：プレセッションルコースは、午前のライティングの部 2 時間と午後のスピーキングの部 2 時間に分かれていました。午前の部は完全ランダムな編成です。午後の部は自分で分野を決められます。私は人文科学を選択しました。計四週間のコースで最後に 1500words のレポート提出と 10 分のプレゼンがあり、出席点なども

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

加味で合格しないと本科に進めさせてくれません。基本的に学生は院生さんで構成されていて、大人っぽい雰囲気です。すごく楽しかったです。

B さん：8 月末から 4 週間。英語のアカデミックエッセイを書く方法や文化によるコミュニケーション形態の違いを学んだ。最終的に 2500 字の英語論文を書いて提出。

C さん：受講していません。

学部または大学院での授業は自由に選択あるいは受講できましたか？また、制約があった場合、どのような制約でしたか？

A さん：学部生対象の授業であればどれも履修可能でした。

B さん：基本的に自由。一部 3.4 年生向けの高度な内容のものは選択できない。

C さん：人類学コースは、自由に履修できません。事前に、コースの Convener にメールで履修したい科目を相談する必要があります。日本の大学での成績証明書を英語版で添付します。

1 週間に何コマ履修していましたか？また、制度上何コマまで履修できますか？

A さん：ピッタリ 4 コマ履修しなければいけないということでした。

B さん：週 8 コマ。1 年間で 4 ユニット取得する必要があるのですが、私は通年授業を 3 つ、半期授業を 2 つ取った。

C さん：制度上、学期ごとに 4 科目履修するようになっています。一つの科目は 2 コマあるので、一週間で 8 コマでした。

授業についていくのは大変でしたか？また、授業のための準備や課題はどのようなものでしたか？

A さん：大量のリーディングとその上で自分がどう考えたかまとめるのが大変でした。それだけ器用に手を抜けるかが要だと思います。

B さん：大変だった。リーディングを出来るだけ読んでいくこと。事前にコメントできそうな内容を考えておくこと。課題はプレゼンテーション、エッセイ、学期末テスト。プレゼンテーションは成績評価対象になく、ほとんどが学期末テストで成績の 6-7 割を占める評価形態だった。

C さん：Tutorial には、事前に指定された文献を読んでいく必要があるため、とりあえず読み物が多いです。学期末に提出のエッセイは、2000～3000words のものでした。

授業内で現地の学生と親しくなる機会がありましたか？

A さん：たくさんありました。

B さん：Preessional コースで多くの友人ができた。アカデミックコースが始まってからは、話しかけてくれる人と仲良くなった。Society に入ると友達の輪は更に広がると思う。

C さん：授業内ではありませんでした。クラスという概念は薄いので、授業ごとに違った生徒に会います。

課外活動には参加しましたか？もし、参加していれば具体的に教えてください。また参加しなかったのならば、どうして参加しなかった・できなかったのかを教えてください。

A さん：映画制作サークルに入って一度だけ活動しました。活動頻度がかなり低かったので一度しか参加できなかったです。

B さん：Japan Society の言語交換に時々参加した。

C さん：サークル活動のような、ソサエティと呼ばれるものに入りました。そこで友達ことができました。基本的には英語と日本語でお喋りをする場所です。

授業のない期間はどのように過ごしましたか？（週末あるいは長期休暇）

A さん：友達と旅行したりでかけたりしました。

B さん：友達と旅行。リーディングや課題に多くを費やした。

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

Cさん：小旅行、買い物をしました。

何か大きなトラブルはありましたか？どのように対処しましたか？

Aさん：特にはないです。

Bさん：留学中にはない。留学後にデビットカードのスキミング被害が発覚。カード会社に保証手続き。

Cさん：クレジットカードに現金を引き出せる設定をしていなかったため、一切現金を持ってませんでした。それでも現金が必要な場面があるので、友人とスーパーに行った際に、友人の分を払って、あとで現金でもらう、ということをしました。

【留学後】

帰国する前に準備しておくことはありますか？

Aさん：留学中のギャップを埋めて浦島太郎にならないようにすること。

Bさん：帰国後の動きを考えておく。パック詰め。お土産。

Cさん：インターンの申し込みと、単位の計算です。後期に何が必要なのか、確認する必要があります。

就職活動あるいは大学院入試のために現地でやっていたことはありますか？

Aさん：半期留学はビザ的にインターンが許可されないのでできませんでした。が、サークルに入ったり良い成績をとったり日本文化伝達のための学内イベント開催などしました。

Bさん：自己分析。留学中に考えたこと、思ったことを記録しておく

Cさん：キャリアフォーラムに一度、参加しただけです。面接はせず、説明だけ聞きました。

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

Viaggio in Italia!

人間文化創成科学研究科
比較社会文化学専攻 歴史文化学コース
1740129 君島英恵
ナポリ東洋大学オリエンターレ
(イタリア)

ゲーテの著書『イタリア紀行』の『Vedi Napoli, e poi muri (ナポリを見てから死ぬ)』という一説は有名ですが、ナポリは単に美しい景色を擁する街ではなく、混沌とした庶民の街でもあります。ナポリの通りは人と物が溢れ、聖と濁が共存しつつ、また壮大な歴史と美術のコレクションが私を迎えてくれました。半年間だけの留学生活でしたが、すっかりカオティックな街の虜となりました。

2017年10月から2018年2月にかけて、国立ナポリ東洋大学オリエンターレで勉強する機会に恵まれました。私自身、中世後期におけるヨーロッパ人とイスラム世界の交流についての研究を行っており、オリエンターレはヨーロッパの最古の東洋研究機関の一つで、イスラム研究も盛んです。イタリア語のレベルが0の状態です。旅立った留学ですが、様々な経験を通して、自分が一回りたくましくなったと感じています。

留学を通して留学前の準備期間が最も強く不安を感じていました。航空券、アパートメント、学校生活、留学費用、ビザ等、全てのことを自身で準備しなければならず、海外へ一人で行くこと、長期間滞在することも初めての経験でした。

そのためお茶大へ留学中であつたオリエンターレの学生と知り合いになり、彼女に多くのことを相談することができたのは、非常に良い機会でした。ビザに関しては必要書類も多いため、時間に余裕を持ち書類を準備することをおすすめします。

そのような不安の多い中での出発でしたが、オリエンターレはお茶大と同様、留学生一人に対し現地の学生がチューターとしてサポートをしてくれます。滞在許可証や住居、学校生活やシラバスに関してなど、様々な手続きを一緒に行ってくれました。またオリエンターレには日本語学科があり、日本語を勉強するイタリア人も多く、非常にフレンドリーな彼らとすぐに友人となることができます。ナポリで開催されたチョコレートフェスティバル、カーニバル、クリスマスなどで共に出かけたり、ホームパーティーを行ったりと、多くの友人を作ることができました。

ナポリへ向かう前に、トスカーナの街ルッカの語学学校に2週間通いました。ルッカはピサやフィレンツェに程近く、中世の城壁と街並みが残る、おもちゃ箱のような可愛らしい小さな街です。ルッカの語学学校に行こうと決めた理由は、イタリア語に慣れるためです。日本で少し勉強をしていたものの、大学の授業についていけるだけの語学力には程遠く、少しでも多くイタリア語を学びたいと思いました。授業はすべてイタリア語です。自分の思っていることを伝えたいけれど、どのように言えばいいのかわからない、

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

ということに非常に苦しみました。毎日少しずつ分かる単語が増えていくことが非常に嬉しかったです。語学学校の先生方も非常にフレンドリーで、多くの人のあたたかさに触れることができました。イタリア留学最初の一步としては、最高の2週間を過ごすことができたと思っています。

そしていよいよ10月から本格的な留学生活が始まりました。私は外国人向けのイタリア語の授業と、日本語の古典文法の授業、また中世ヨーロッパ史の授業を受講しました。オリエンターレには日本語を勉強しているイタリア人学生も多く、日本人留学生に対して積極的に声をかけてくれます。イタリア人の友人の一人が「ナポリ人は人を助けることが大好きなんだ。」と言っていたのですが、本当にその通りで、私の学校生活は彼らの助けがなければ成り立ちませんでした。中世ヨーロッパ史の授業は、一番苦しみました。最も達成感を感じた授業です。授業内では、中世の時代区分とナポリの歴史について発表を行い、最後に自身の専門である中世イタリアとイスラムの商業史のレポートを書きました。もちろんイタリア語です。非常に大変でした。しかし、せっかくナポリにいるにも関わらず、その歴史についてほとんど知らなかったため、ナポリ史を学ぶ良い機会となりました。街の通りや建物の名前、博物館や教会など、すべてが歴史と関連しており、ナポリをより深く知ることができました。また自分の読むことのできる歴史資料が、イタリア語の分広がったこと

は大きな収穫です。

留学の中でも一際大きな経験は、海の近くに位置する中世の城、Castel Nuovoの日本語版音声ガイドの手伝いをさせてもらったことです。Castel Nuovoの建物や歴史、中に展示されている美術品の情報を英語から日本語へと訳し、音声を録音します。世界遺産にも登録されている街ナポリで、今後多くの人にナポリの壮大な歴史を紹介する一端を担うことができ、貴重な機会に恵まれました。

巷では「ナポリは治安が悪い」というイメージがありますが、正直否定しがたい部分があります。ナポリはごみや移民についての問題を抱えており、日が落ちて一人で出歩くことはおすすめできません。しかしナポリは地中海性の穏やかな気候で過ごしやすく、物価も安く食も絶品です。またカポディモンテ美術館、カステル・サンテルモ、Palazzo Reale(王宮)、国立考古学博物館など、大小様々な美術館が点在し、高台から地中海とベスビオ火山を望む景観はヨーロッパでも随一の景観美です。

また市内からナポリ空港へのアクセスも良く、留学中にスペイン、ドイツ、エジプトへ旅行しました。またイタリア国内へはフィレンツェ、ローマ、ポンペイ、マテーラ、カゼルタなど、様々な地域を訪れることができました。

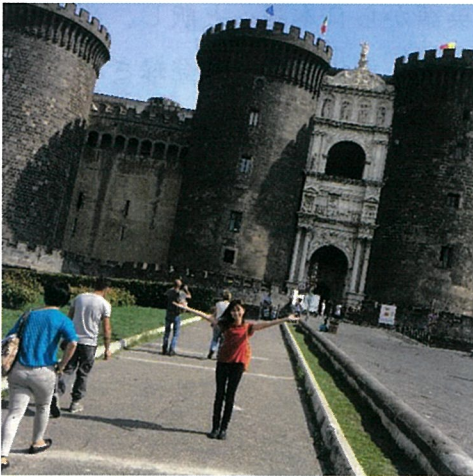
今回の留学での大きな収穫の一つは、自分自身で国を飛び越えることができるようになったことです。しかし見ず知らずの土地で生きるというのは、多くの人の支えがあってこそのものでした。また

WHAT?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

異なる文化の中で生活し多くの刺激を受けたことによって視野が広がり、改めて世界の多様性を肌で感じる事ができました。留学を後押ししてくださった先生方や桜蔭会の皆様、応援してくれた友人

や家族、イタリアで出会った多くの人々に感謝を込めて。ナポリでの留学は一生の宝物です。



翻訳を担当した Castel Nuovo の前



サンマルティーノ国立博物館からの景色

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

派遣されていた期間

2017.09.06-2018.02.18 半年間

【留学前】

語学能力試験のための準備はどうしましたか？（必要だったスコアは？）

必須となる語学のスコアは特になし。イタリア語に事前に触れておくと良いが、大学でイタリア語の授業もあるためそれほど心配しなくて良い。

ビザの取得はどのようにしましたか？

イタリア大使館のホームページを参照し必要書類に記述、申請。ビザの発行まで時間がかかるため、1カ月前には申請すること。

航空券の手配、海外旅行保険などの準備はどのようにしましたか？

航空券比較サイト、海外保険比較サイトを参照。航空券に関しては skyscanner というアプリを使用。お勧めです。

宿泊先はどのように選びましたか？

erasumus.com というサイトを通じて直接大家さんと連絡を取った。しかし他の日本人留学生は現地についてから家を探しており、大学と連携している留学生支援団体を通して家を見つける場合が多い。

【留学中】

居住形態と住み心地はどうでしたか？

女子3人でルームシェア。自分は二人部屋で過ごした。女子のみということもあり、不便なこともありながらも快適に過ごすことができた。

1ヶ月の居住費はいくらくらいでしたか？（日本円で）

家賃は二人部屋で月 300€。日本円で約 39000 円。

1ヶ月の生活費はいくらくらいでしたか？また、物価は東京と比べてどうでしたか？

3万-5万程度で十分生活が可能。東京に比べ物価は安く、特に食材が安い。

勉強にかかる費用はどれくらいでしたか？

イタリア語の教科書を買った程度。約 3000 円。印刷機が大学になく、大学周辺のコピー屋でレジュメやレポートの印刷をする。印刷代は日本に比べ格安。

大学周辺の雰囲気はどうでしたか？

若者が多く雑多な感じ。安いレストランが多く、庶民的な雰囲気。

現地の気候はどうでしたか？

秋から冬にかけて、日本より温暖で過ごしやすい。

生活する上で日本から持って行った方が良いものは？逆にいらぬものは？

WHAT?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート
生理用品くらい。向こうのものは質が悪いので…

現地で注意した方が良かったことはありましたか？

治安があまりよくないので、貴重品をきちんと管理すること。夜遅くに一人で出歩くのは控えた方が良い。

現地で語学学習に特化したクラスを受講しましたか？受講していた場合、クラスの形態（開催時期）・内容・レベルを教えてください。

クラスは週に 3 回、自分は B2 のクラスを受講。会話と文法がメイン。

学部または大学院での授業は自由に選択あるいは受講できましたか？また、制約があった場合、どのような制約でしたか？

自由に選択可能。特に制限なし。

1 週間に何コマ履修していましたか？また、制度上何コマまで履修できますか？

語学の授業、自身が選択した授業を含めて週 7 コマ。制限は特になし。1 コマ 2 時間、週に複数回授業があるため、履修のしすぎは注意。

授業についていくのは大変でしたか？また、授業のための準備や課題はどのようなものでしたか？

授業が基本的に全てイタリア語のため大変だった。授業の予習は特になし。課題も多くはない。

授業内で現地の学生と親しくなる機会がありましたか？

日本語を専攻している学生も多いため、学生と仲良くなる機会が多い。非常にフレンドリー。

課外活動には参加しましたか？もし、参加していれば具体的に教えてください。また参加しなかったのならば、どうして参加しなかった・できなかったのかを教えてください。

特になし。

授業のない期間はどのように過ごしましたか？（週末あるいは長期休暇）

博物館、美術館が多くあり、そのような場所に訪れることが多かった。ナポリ空港が近く、いろいろな場所に旅行に行くことができる。

何か大きなトラブルはありましたか？どのように対処しましたか？

特になし。

【留学後】

就職活動あるいは大学院入試のために現地でやっていたことはありますか？

修士論文に向けて論文の講読や史料・文献探し。

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

韓国ソウルでの生活で

得たこと

文教育学部言語文化学科
学籍番号 1510205 五十嵐陸
梨花女子大学 (韓国)

① 留学準備に関して

留学準備としてまず初めに行ったことは、韓国語能力を上げることでした。派遣先大学には韓国語能力試験のスコアを提出する必要はなく、公的機関では英語で説明が受けられたりもしますが、情報収集のためにはやはり韓国語がある程度読めた方が便利でした。ビザや派遣先大学への申請は準備する書類が多く、また発行までに数週間かかるようなものもあるため、要項が通知され次第できるだけ早めに取り掛かるべきだと思いました。特に健康診断や検査の結果を送付する必要がある場合は直前の予約が難しい場合があるため早めに調べておく必要がありました。同じ大学や地域に行く学生がいらない場合これらを一人で全て調べなければならないため、前述したとおり英語に加えてその国の言語が分かると思落としが少ないと思います。また留学前に以前同じ大学に留学していた方2名を紹介していただき、現地や大学の様子、必要なものなどを伺うことができたことも役に立ちました。他には日本の銀行から現地で現金を引き出せるようなカードを作ったり、ネットバンキングを作ったりということも日本にいる間に済ませておきました。私は留学直前まで大学の寮に入っていたので、退寮手続きや日本に置いて

いく荷物の管理なども7月辺りから始めました。梨花女子大学には留学生数人に韓国の学生1人がつくバディ制度があり、日本にいるうちからバディの方に連絡を取ることができたので学校生活や授業に関する質問などは比較的気軽にすることができました。留学してすぐの頃は、このバディグループでの交流や学内を案内してもらおうようなイベントもありました。

② 留学中のことに関して

留学先では前期は韓国語の授業と学部の授業、後期は学部の授業だけを受講しました。韓国語の授業は朝8時から75分間の授業を2コマ、週に4日受講しました。前期は教室まで歩いて10分ほどの大学の寮に住んでいたため通学は負担が少ない方ではありましたが、日本での授業よりも開始時間が早いため生活リズムを整えるのが大変でした。授業は隔日で文法と会話に分かれており、文法中心の授業では教科書のテキストを元に新しい単語や文法を学び、会話中心の授業ではパワーポイントを使った発表やディベートなどをグループに分かれて行いました。受講者全員がまだ韓国語を学習している段階のため、グループワークでは意思疎通が大変な場面もありました。韓国語以外では前期は日本の翻訳文化に関する授業、心理学の授業、英語で受講する韓国文化の授業の三つを受講しました。一つの授業が週に2コマあるため授業の内容を予習するのが初めは大変でしたが、前回の内容を思い出しやすいという利点もありました。韓国の大学の履修登録は先

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

着順で定員が決まっているため、受講するかどうか迷っているうちに定員に達してしまっただけの授業もありました。後期は自分の関心を元にジェンダーやセクシャリティに関する授業、社会学の授業、東アジアの歴史紛争に関する授業などを4コマ受講しました。後期は取りたかった授業が韓国語と重なっていたため韓国語を受講せず学部の授業のみになりました。そのため最初は韓国語を勉強しなくなるのでは、と心配しましたが、全ての授業で他の韓国人学生と同じ授業を聞き内容についていかなければならない環境に置かれたため、リスニング能力が急激に伸びたのを実感しました。ある程度内容が理解できるようになると、今度は授業中にふと飛び出す韓国で長い間暮らしているからこそ分かるような昔流行ったものや有名人などの話題についていけないことに気づき、語学力だけでなく文化に関するギャップを埋めることも必要だと実感しました。また韓国の大学ではどの授業も中間テストと期末テストが両方あり、それらに加えてレポートや小論文といった課題の提出もあるため、テスト期間は大学の自習室や図書館に空席がほとんどありませんでした。大学内のあちこちに座り込んで勉強をしている姿は印象的でした。私自身も授業が終わってから夜12時近くまで自習室で勉強したこともありましたが、テスト以外では本を一冊読んで書評を書くという課題が3つの授業で同時期に出たためかなり大変でしたが、韓国語を速く読む能力が身についたと思います。まだまだ分からない単語や知ら

ない文法はたくさんありますが、テレビ番組を見たり論文を読んだりする際の理解度は留学前と比べて大幅に向上しました。韓国語を使わざるを得ない環境にいたことで実力が伸びた面が大きいため、帰国後も語学勉強を継続していきたいと思います。

授業以外では、後期から大学の寮を出て近くの下宿に引っ越したことで行動範囲が大きく広がりました。休日は学外の交流会やイベントに参加したりする一方で、一日中図書館に籠って本を読む日もあり、楽しむだけでなく学業面でも充実していたように思います。有名な観光地は休みを使って行きましたが、ソウルの中でも行けなかった場所も多く、今後は旅行で行きたいなと思いました。下宿は繁華街の近くにあり生活には便利でしたが、窓が小さくあまり光が入ってこない半地下という住居形態のため湿気がこもり虫もよく出る部屋でした。寮に住んでいたときからソウルに住む学生の住居問題に関心を持ち、文献やニュースを集めていくうちに家賃が比較的安いことを理由にこのような半地下や窓すらない狭い部屋が主流になっていることを知りました。そこで実際にそのような環境で暮らしてみたらどうなのかと思い引っ越しましたが、慣れるまではやはり少し苦労しました。いずれは出ていくことが決まっている留学生と現地で実際に暮らす学生とでは感じ方も違うはずですが、韓国の地域格差や学歴社会などについて自分の目で見て学ぶ機会になりました。また留学生、外国人として暮らし、相手の言葉

WHAT ?

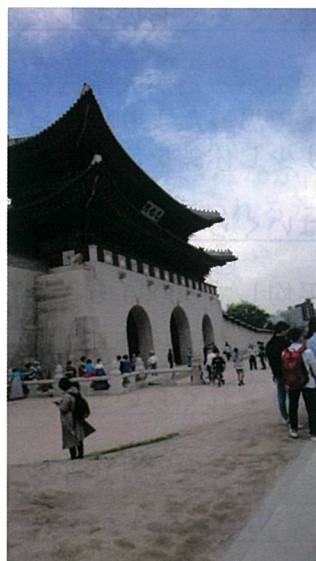
2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

が分からず自分の言葉も通じないという状況を実際に体験したことで、日本で暮らす留学生や外国人が現在どのような環境に置かれているのかより具体的に考えられるようになりました。

③ 留学後の進路について

留学中学外の交流会などに参加すると、大学生以外にも現地の会社に勤めている会社員の方やビザの関係でアルバイトとして働いている方など様々な境遇にある日本人の方に会うことが多く、海外で暮らすと一口に言っても多様なパターンがあるのだなと実感しました。語学留学のために仕事を休職や退職してきた方とも多数出会い、学ぶのに年齢制限はないということ、留学によって得たスキルがどのように役立つかはその人次第であるということ学びました。私自身の留学の理由に関心のある分野の研究のためと、海外で暮らすという体験をしてみたいという単純な動機からでしたが、約1年間費用や時間を費やして留学した分の成果を出さなければいけないという思いや、就職を含めた将来の進路に支障が出るのではないかという懸念もありました。実際に帰国した今現在具体的に進路が決まっているわけではなく不安も大きいままですが、将来に対する捉え方や考え方は以前より柔軟になったのではないかと思います。特に以前は韓国に留学する

のだから韓国語を使う仕事や韓国と関わりのある仕事に就かなければ勿体無いと考えていましたが、直接的な関わりがなさそうに見えても自分次第で接点を作ることができるということを知ったため、これからはそのような条件に囚われず自分がやりたいことが十分に選択できるように勉強していきたいと思うようになりました。



WHAT?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート 派遣されていた期間

2017/8/28~2018/7/15

【留学前】

語学能力試験のための準備はどうしましたか？（必要だったスコアは？）

特にスコアは必要なかった。

ビザの取得はどのようにしましたか？

7月中旬に申請し7月末頃には取得できた。

航空券の手配、海外旅行保険などの準備はどのようにしましたか？

航空券は一ヶ月前に取ったため少々割高になってしまった。保険は大学で勧められたものに加入した。

宿泊先はどのように選びましたか？

前期は事前に現地で下宿などを探す余裕がなかったため大学のアプリケーションと同時に大学の寮に申請した。後期からは知人の紹介で大学付近の下宿に入ることができた。

【留学中】

居住形態と住み心地はどうでしたか？

前期は二人部屋で狭かったが大学内に寮があったので通学は便利だった。後期に住んでいた下宿は1人部屋で思ったより広かった。ほぼ地下に位置しており冬だったこともあってか日光に当たれず少し体調を崩した。

1ヶ月の居住費はいくらくらいでしたか？（日本円で）

前期は二人部屋で狭かったが大学内に寮があったので通学は便利だった。後期に住んでいた下宿は1人部屋で思ったより広かった。ほぼ地下に位置しており冬だったこともあってか日光に当たれず少し体調を崩した。

1ヶ月の生活費はいくらくらいでしたか？また、物価は東京と比べてどうでしたか？

居住費を抜くと平均して30000万程度だった。物価は特に食費が東京よりも高い印象を受けた。

勉学にかかる費用はどれくらいでしたか？

定期的に本を買っていたので月に2000円分は使った。教科書以外に授業で指定された本を買うこともあった。

大学周辺の雰囲気はどうでしたか？

学生街のため夜中まで明るく賑わっていた。買い物をするには全く困らなかった。

現地の気候はどうでしたか？

WHAT?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

冬は雪が降り極寒だったため外に出られない期間があった。

生活する上で日本から持って行った方が良いものは？逆にいらぬものは？

100 円ショップのようなものも大型マートもあるため生活必需品は現地で一通り揃う。日本食も買うことができるが値段がかなり上がるため必要であれば持って行った方が安く済むかもしれない。

現地で注意した方がよいことはありましたか？

学内でも一人でいると宗教の勧誘に遭うことがある。現地の学生も被害に遭うと聞いたため、留学生はなおさら気をつけた方がいい。

現地で語学学習に特化したクラスを受講しましたか？受講していた場合、クラスの形態（開催時期）・内容・レベルを教えてください。

朝 8 時から 2 コマ計 150 分の授業を週に 4 回受けた。内容は文法と会話の二つに分かれており、事前のレベルテストによって 6 段階に振り分けられた。

学部または大学院での授業は自由に選択あるいは受講できましたか？また、制約があった場合、どのような制約でしたか？

基本的には自由に選択できるようだったが定員が決まっており先着順のためシステムに慣れていない留学生が不利になるのは確かだと思う。また授業によっては留学生の受け入れ人数が決まっているものもあった。

1 週間に何コマ履修していましたか？また、制度上何コマまで履修できますか？

前期は週に 14 コマ（内韓国語 8 コマ）、後期は 8 コマ履修していた。受講できる単位数が 9~18 単位と決まっていて、一つの授業が基本的に 3 単位のため 6 つまでしか受講できないという制約はあった。

授業についていくのは大変でしたか？また、授業のための準備や課題はどのようなものでしたか？

韓国語の授業はレベルに合っていたためついていく上での大変さはなかったが、グループワークや課題などが多く戸惑った。学部の授業は全て韓国語で行われるため現地の学生についていくには事前の予習が欠かせなかった。

授業内で現地の学生と親しくなる機会がありましたか？

ほとんどの授業が講義中心だったためそこまで親しくなる機会はなかったが、グループでの発表がある授業では授業期間中頻繁に連絡を取り合っていたので親しくなった。

課外活動には参加しましたか？もし、参加していれば具体的に教えてください。また参加しなかったのならば、どうして参加しなかった・できなかったのかを教えてください。

サークルなどには募集時期を逃した関係で参加しなかったが、学外の交流会には頻繁に参加していた。

授業のない期間はどのように過ごしましたか？（週末あるいは長期休暇）

基本的には溜まっている予習復習のために図書館で勉強することが多かったが突発的に

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

旅行することもあれば近所で買い物をすることもあった。

何か大きなトラブルはありましたか？どのように対処しましたか？

下宿が水漏れして廊下が水浸しになったことがあった。寮を管理している方と連絡がなかなかつかず寮生が自主的に掃除をしたが、大変だった。

【留学後】

帰国する前に準備しておくことはありますか？

私は帰国後大学の寮に入る予定だったので事前に申請する必要があった。航空券は帰国日がなかなか決まらず直前になってしまい割高だったので、あらかじめ目処を立てておくべきだった。

就職活動あるいは大学院入試のために現地でやっていたことはありますか？

インターン情報などには目を通していたが、あまり本格的に調べたりはしていなかったように思う。

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

リンショーピン大学への留学

ライフサイエンス専攻食品栄養科学コース

1740533 田邊采佳

リンショーピン大学 (スウェーデン)

1. 留学準備に関して

①語学に関して

大学側の語学基準はなかったが、定員2名に対し、希望者が4名であったため、より高いスコアの取得が求められた。またヨーロッパの大学であったため、IELTSを受験した。専門書を購入して主に独学で勉強したが、ライティングは大学で添削をお願いした。(Hein先生には大変お世話になりました)結果はoverall 6.0であった。自己目標点6.5には到達できなかったが、受験料が2万5千円と高額であったこと、研究室との両立が厳しかったため、6.0点で提出した。結果、他希望者と比較し上位ではあったが、個人的には留学前の語学勉強にもっと力を割けていたらと思った。国際課の皆様の尽力あって、希望者4名全員がリンショーピン大学へ行けることとなった。

②ビザについて

スウェーデンでの90日以上の滞在にはresident permitと呼ばれる許可書が必要であるが、日本国発行のパスポート所持者はビザは必要ない。申請は移民局のウェブサイトを通じて行った。全部で4点の書類が必要であった。(1)有効なパスポート、(2)留学先の大学からの受け入れ許可書、(3)銀行残高証明書(1年間の

滞在中で口座残高100万以上が望ましい)、(4)海外保険加入証明書。大学からの受け入れ許可書が発行されない限りアプライができないため、渡航2か月前程度からしか申請が行えないのが難点である。また銀行残高証明書は銀行によっては発行に申請から1~2週間要するため、あらかじめ用意しておくことをすすめる。書類を揃え申請してから、実際に許可が下りるまでに1~2か月かかる。出国日によっては許可書が間に合わない可能性があり、非常に緊張したが出発の約1週間前に取得することができた。

③その他準備に関して

スウェーデンの冬に備え、前年度の冬から冬服の確保は行っていた。特にウルトラライトダウンやヒートテックは冬のシーズンが終わるころのセールで安く大量に仕入れておいた。また、IKEAがあるものの、日本の100均ほど安い店はないため、必要なものは揃えて持参することをおすすめする。日本食に関しては、しょうゆやのり、みそなどは限定的ではあるが現地で調達できるため持参する必要はない。ただし、めんつゆや柚子胡椒といったニッチな商品はなかなかない。ラーメンのクオリティーは非常に低いため、日本から持参したインスタント麺が活躍した。

2. 留学中のことに関して

①留学中の主な生活について

大学から自転車で約15分、徒歩20分程度のリドと呼ばれる場所に住んでいた。

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

リドは主にリンショーピン大学（以下、本大学と記載する）の正規学生、留学生が住む場所であり、加えて移民を含む一般市民が住む巨大な住宅地一帯であった。生活には自転車が必要ないため、到着4日目程度で自転車を購入した。自転車購入方法は中古店での購入か、学生間の交渉取引である。スウェーデンは物価が高いため、学生間の中古品のやり取りが非常に活発である。Facebook にグループがあり、自分が売りたいものをポストし、購入希望者が出品者に連絡を取る。留学生が到着する8月と1月は自転車の需要が上り、値段も高騰する。私は中古の自転車を950kr（14000円程度）、ロックを100kr（1200円程度）で購入した。学食を含む外食が非常に高いため、基本的に自炊していた。授業が昼をまたぐ日はほとんどの学生が弁当を持参していた。リドの中にはHemköp（ヘムショップ）と呼ばれる大型スーパーがあり、基本的に買い物はここでしていた。

②大学の授業について

各学期、37.5ETS ずつ授業を履修していたが、授業数は総数9つと周囲と比較しやや多かった。Intensive Swedish Course は学期が始まる前に留学生を対象としたスウェーデン語の授業であり、8月に履修した。ほとんどがヨーロッパからの留学生であり、アジア勢は少ない印象であった。同じレベルのクラスが6つほどあり、1クラス20人程度であった。留学当初ということもあり、アットホームな雰囲気であったため、友達を非常に

作りやすい環境であった一方、スウェーデン語の文法事項を英語で説明されるため、最初は授業についていくのに苦労した。スウェーデン語自体は英語に似ている単語が見受けられ、リーディングはさほど苦戦しなかったが、発音が難しくリスニングとスピーキングは厳しかった。友人たちと助け合いながらテストを乗り越えた後は、達成感があり、また友人との仲も深まった。その他の授業は主に英語で履修し、授業に応じてテストやレポート提出をこなした。教科書や参考文献を読み込む必要があり、苦労もしたが自分自身の英語力の向上に繋がったと考える。

③課外活動について

本大学は、ISA や ESN といった留学生をサポートする学生団体が充実しており、パーティーや学生交流、旅行ツアーなど授業以外のコンテンツがおおく用意されていた。パーティーはあまり参加しなかったが、ISA が開催していたノルウェーへのツアーに参加した。リドからバスが出る上、低価格で旅行できるためよかった。飛び込みの一人参加であったが、本大学の留学生が参加者であったため、新たな友達ができただけでなくよかった。ツアー以外にも、ヨーロッパ諸外国やスウェーデンの別の都市を訪れるなど、勉学の合間にうまく旅行をはさむことで、新たな価値観や刺激を得られたと思う。また、週末に友人と近隣の湖や森へ出かけて散歩した。森や湖といった自然に囲まれる環境は東京にはない癒しがあると言える。

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

3. 留学後の進路について

留学前と比較し、多様性を受け入れる態勢が整ったと思う。海外学生が、自らの進路、ひいては人生に主体性を持って選択していく姿勢は見習うべき点が多くあった。留学を通し、自分は何者で、本当にやりたいことは何か、そのために必

要なことは何か、ということ突き詰めて考えられたことも自分にとって大きな進歩である。現在私は大学院を休学し、本当にやりたいことを実現するべく海外も視野に入れたインターンシップ・就職活動を行っている。



図 1. リンショーピンで見えたオーロラ



図 2. 授業で訪れた Åre にて

WHAT?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

派遣されていた期間

A さん：2017/8/1~2018/7/31

B さん：2017 年 8 月~2018 年 8 月

【留学前】

語学能力試験のための準備はどうしましたか？（必要だったスコアは？）

A さん：明確な語学基準はありませんでしたが、IELTS で overall 6.0 点を取得しました。

B さん：スコアは必須ではなかったため、TOEIC の勉強のみしていました。単語、文法、リーディングを中心にやっていました。これだけでは、英語を話せるようにはならなかったため、リスニング・スピーキングをしっかりと勉強すべきだったと感じました。

ビザの取得はどのようにしましたか？

A さん：スウェーデンの移民局のホームページを通じ行いました。

B さん：学生の居住許可を取得しました。移民局のウェブページから手続きをしました。

航空券の手配、海外旅行保険などの準備はどのようにしましたか？

A さん：航空券は Skyscanner で安いチケットを検索し予約しました。海外旅行保険に関しては、大学からご紹介いただいた OSSMA へ加入しました。

B さん：ネットで一番安い航空券を探しました。なるべく早めに買うのが良いです。保険は大学で紹介していただいたオスマの保険に入りました。

宿泊先はどのように選びましたか？

A さん：大学寮を希望しました。

B さん：派遣先の大学から届いたウェブページから、学生寮の申し込みをしました。

【留学中】

居住形態と住み心地はどうでしたか？

A さん：コリドーと呼ばれる、自立型の寮でした。個室にトイレとシャワー、洗面台があり、広さは 12 畳くらいあったと思います。キッチンも共用でしたが、設備はきちんとしていました。リノベーション直後だったため、全体的に綺麗でキッチンには食洗器もついていました。

B さん：学生寮で、8 人 1 組のコリドーに住んでいました。部屋は 1 人部屋で、お風呂、トイレもついていました。キッチン・リビングは共用でした。部屋は広く、プライベートな空間も守られているのでとても快適でした。

1ヶ月の居住費はいくらくらいでしたか？（日本円で）

A さん：5 万円程度

B さん：4 万 5000 円くらいでした。

1ヶ月の生活費はいくらくらいでしたか？また、物価は東京と比べてどうでしたか？

A さん：食費 3~4 万程度、その他必要経費 1~2 万程度。東京と比較して物価は少し高い程度。スーパーは物を選べば良心的な価格です。外食やサービスなどは非常に高いです。

B さん：7 万~8 万円くらいでした。物価は、スーパーに並んでいるもの（食品、日用品など）は東京と同じくらいかむしろ安いくらいでした。外食は 1 食 800~1000 クローナ（だいたい 1500 円くらい）だったと思います。ただ、外食することはあまりなく、ほとんど自炊、また移動は自転車ですべてどこでも行けるくらいの街だったので節約すればかなり抑えられると思います。

勉学にかかる費用はどれくらいでしたか？

A さん：教科書代が高いです。一冊あたり日本円で 4000~7000 円します。中古が出回っているため、うまく活用すれば抑えられます。

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

B さん：教科書代が 7 千円（1 冊）ほどかかりました。（教科書を使わない授業がほとんどだと思えます。）また、授業で研修旅行に行った際に 1 万円くらいかかったと思えます。

大学周辺の雰囲気はどうでしたか？

A さん：自然が豊かです。

B さん：学生寮やスーパーがすぐ行ける距離にあり、とても便利でした。寮の周辺は夜に出歩いても特に危なくはなかったです。

現地の気候はどうでしたか？

A さん：夏でも気温の日内変動が大きいです。冬の寒さは意外と耐えられました。（平均 -3~5℃）

B さん：8 月から肌寒く、ずっと寒かったです。外はとても寒いですが、室内はセントラルヒーティングでとても暖かく快適で、半袖で過ごしている人もいます。

生活する上で日本から持って行った方が良いものは？逆にいらぬものは？

A さん：必要なものはユニクロのヒートテック、ウルトラライトダウンです。不要だったものは変圧器とカイロです。

B さん：ウルトラライトダウンと調味料。その他の日用品に関しては、基本的に買えないものはほとんどありませんでした。生理用品は持って行った方がいいと言われていましたが、現地の物も問題なく使えました。行くときに嵩張るので、なくても良いと思えます。日本食は高かったのも、醤油や海苔などを持っていくと何かと使えると思えます。

現地で注意した方がよいことはありましたか？

A さん：スウェーデン全体の治安はとてもよかったです。留学生が住むリドという地域は移民の家族も多く、治安はさほどよくありません。寒暖差が激しいので常に上着は必要です。

B さん：盗難。自転車はよく盗まれていました。

現地で語学学習に特化したクラスを受講しましたか？受講していた場合、クラスの形態（開催時期）・内容・レベルを教えてください。

A さん：Intensive Swedish Course: 8/3~2 週間程度

1 クラス 20 人程度のクラスで、レベルに応じて 6 コースありました。ほとんどの学生は、全くの初心者で A1 を取ります。ヨーロッパからの留学生がクラスの大半を占め、友達を作りやすいアットホームな雰囲気です。2 週間程度で中学校で習う英語の基礎レベルの文法まで習うので予習復習は必須でした。授業は英語で行われますが、ドイツ人はドイツ語とスウェーデン語が非常に似ているため上達スピードがとても速いです。アジア勢はあまりおらず、ヨーロッパの学生に比べハンディキャップがあるため、脱落者も多くいました。

Swedish Course A2

A1 の一つ上のクラスです。授業はほとんどスウェーデン語で行われました。先生によって授業の展開方法が異なり、人気の先生の曜日は人数が 30 人を越えたのに比べ、そうでない先生は 10 人程度でした。

International Communication in English

工学部の授業でしたが、申請を出し履修することができました。主にオーラル発表で評価が行われる授業であり、チームで課題に取り組み、パワポを作成、他生徒の前で発表しました。アジア勢とヨーロッパ勢が半分半分で、留学生を対象にした授業でした。

学部または大学院での授業は自由に選択あるいは受講できましたか？また、制約があった場合、どのような制約でしたか？

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

Aさん：教育学部は、基本的には Educational Faculty か Arts and Science Faculty の授業からであれば自由に選択できました。工学部など他学部の授業は申請が必要ですが、比較的融通がききました。

Bさん：自分が所属する学部の授業は自由に選択できました。所属外の授業は受講できなかったと思いますが、教授に相談すればできる限り対応してくれたようです。

1週間に何コマ履修していましたか？また、制度上何コマまで履修できますか？

Aさん：平均3コマ程度。一学期あたり45.0ETSが最大。授業により取得可能ETSが異なる。

Bさん：1週間に2コマ履修していました。

授業についていくのは大変でしたか？また、授業のための準備や課題はどのようなものでしたか？

Aさん：スウェーデン語の授業を英語で受けるのは厳しかった。語学は教科書と文法書を用いて予習復習した。参考文献や教科書を読むタイプの授業もあった。

Bさん：語学力不足のため、本当に大変でした。授業によって違いますが、予習課題がある授業は準備していました。課題は、レポート、グループワーク・プレゼン、ディスカッションがありました。

授業内で現地の学生と親しくなる機会がありましたか？

Aさん：あった。日本語を専攻するスウェーデン人学生がいたため。

Bさん：とっていた授業が留学生向けのものだったので、授業内で現地の学生と親しくなることはなかったです。

課外活動には参加しましたか？もし、参加していれば具体的に教えてください。また参加しなかったのならば、どうして参加しなかった・できなかったのかを教えてください。

Aさん：大学主催の旅行やパーティーに参加した。旅行はノルウェーへ4泊5日で行き、フィヨルドなどを観光した。パーティーはキャンパスで行われたビアフェスなど。チケットとパスポートが必要でありセキュリティはかなり厳しい。

Bさん：スウェーデン在住の子どもたちに日本語を教えるボランティアを2つと、現地に移住した方（日本人）にインタビューをしました。

授業のない期間はどのように過ごしましたか？（週末あるいは長期休暇）

Aさん：ジムや旅行、友人とホームパーティーなど

Bさん：1週間に2コマしか授業がなかったため、ほとんどの時間がフリーでした。勉強のため、図書館で過ごすことが多かったです。また、旅行にもよく行っていました。

何か大きなトラブルはありましたか？どのように対処しましたか？

Aさん：感染症にかかり、病院へ行く必要があった。保険を頼り、なんとか病院へかかれた。歯が折れたため、歯医者へ行った。当日受付で行くことができました。

Bさん：特になかったです。

【留学後】

帰国する前に準備しておくことはありますか？

Aさん：留学前後の語学向上状況を比較するため、TOEICのテストの申込みをした。

Bさん：特になくはないと思います。

就職活動あるいは大学院入試のために現地でやっていたことはありますか？

Aさん：友人がロンドンキャリアフォーラムへ参加し、複数社から内定をもらっていました。興味のある会社が来る場合、行ってみてもよいと思います。また、Web面接

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

を行っている会社のインターンシップへ応募しました。

Bさん：特に何もしていませんでした。しかし、時間がたくさんあったので就職活動のためにSPIの勉強くらいはしておけば良かったと思っています。

タイ Asian Institute of
Technology

文教育学部人文科学科
1510110 大垣志織

私が今回留学した Asian Institute Technology (AIT) で学ぶ正規の学生の半数以上は、タイからではなくアジアを中心に世界各国から学びに来ています。そのため、初対面の学生との会話は必ず「Where are you from?」から始まるなど、AIT はなんともグローバルなところでした。タイにいながらもタイ以外の文化や言語、そして20カ国を超える国からの友人と出会うことができ、とても充実した留学生活を送ることができています。（ただ、AIT の中では「タイにいる」という実感はあまり湧きませんでした…（笑）

① 留学準備に関して

まずは、ビザの取得に関して書いていこうと思います。私は半年間の留学だったので、いくつかビザの種類がありますがシングルエントリービザを取得しました。（これしか取得できなかった）ビザ取得のために、大使館に提出しなければならない書類がいくつかあるのですが、その中の1つにAITからのAcceptance letterの「原本」があります。私の場合は、「原本」がなかなか送られて来ず、結局ビザ申請の際に原本のコピーで対応していただきました。今回は幸運にも対応してもらえたのですが、内心とてもヒヤヒ

ヤしたので、入学が許可されたらすぐに「原本を送ってほしい」と先方に伝えた方がいいかと思います。

また、シングルエントリービザの場合、長期留学期間中に1度はビザの期限が切れてしまいますが、AITではVISAの心配はあまりしなくても大丈夫です。学生の大半が海外から来ているので、学内にパスポート管理室(GRU)があり、パスポートは普段、そこに預けておくことになります。そして、VISAの更新時期になるとGRUからメールで連絡が来ます。また、お願いすれば煩雑なVISAの更新手続きを一括してGRUが受け持ってくれます。

次に語学力に関してです。交換留学の場合、AITは語学のスコアは条件として明記されていませんが、論文講読(1回の授業につき3-5本)、小論文(1ヶ月に1題)などの課題が出されたので、特に読み書きできる語学力を事前につけておくことをおすすめします。

② 留学中のことに関して

ここでは、主に授業・大学寮・生活の3点について触れていきたいと思います。

* 授業

私は学部3年生の時に留学したのですが、Regional and Rural Development Planningという大学院内にある学科への交換留学を行い、院の授業を受講していました。ここではお茶大と同様に少人数で授業が展開されています。私が受講した授業の学生数は少ないものだと3人、多いものでも15人程度の規模でした。ま

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

た、様々な国から学生が集まるので、クラスメートの構成は1人1国といった状況でした。

授業で課される課題の量が多く、また、学生だけではなく、教授も世界各国から来ているので、その国独特の聞きなれないアクセントの英語で繰り返される授業に、初めのうちはとても苦労しました。しかし、クラスメートと助け合いながら、予習・復習や課題をこなしていくうちに、最終的には授業中に積極的に質問ができるほどに成長できました。継続は力なりだと感じた瞬間でした。

* 大学寮

AIT の敷地内に大学寮があり、学生は基本的にここに住むこととなります。また、学生だけではなく、先生や学内スタッフも学内アパートに住んでおり、キャンパス内は1つの小さな村のような感じです。毎週1回クリーニングが入るので、家事等の負担はありませんが、シャワーが水しか出なかった点だけは、最後まで慣れることができませんでした…！

* 生活

キャンパスはバンコク市内からバスで1時間ほどの郊外にある為、平日は基本的にキャンパス内で過ごしていました。AIT にはカフェテリアのほか、スナックバーと呼ばれる南アジア料理専門の食堂、タイ料理・シンガポール料理などのレストランも幾つか併設されていました。また、キャンパス内にあるセブンイレブンとローソンは日本人である私の食を支える1つの拠点になっていました(笑) タ

イの物価にしては少し高いですが、コンビニではおにぎりや味噌汁などが売っています。日本食といえば…。AIT からタクシーで20分ほどの場所に「Future Park」という大型ショッピングモールがあり、すき家や大戸屋など日本食料理店が入っているため、そこで日本食を食べることができます！

AIT の隣にはタマサート大学というタイ屈指のエリート校があり、そこでは毎週2回、夕方にナイトマーケットが開かれます。現地大学生に混じりながら買い物ができ、タイのローカルな雰囲気を味わうことができるのでオススメです。

様々な学生活動を取りまとめる学生団体、Student Union(SU)を中心に、学内イベントが多く開催され、勉強以外のキャンパスライフも充実していました。例えば、カルチャーショー、宝物探し大会(Scavenger Hunt)、ミニオリンピック、ハロウィンパーティー、プチ旅行(AIT関係者なら誰でも参加でき、200人ほどでバスを貸し切って行く1泊2日の旅行)など、イベントが目白押しでした！実は、私もSUのボランティアとして、式典などの学内イベントの企画・運営に携わらせてもらいました。時には徹夜もしながら、国籍も年齢もバックグラウンドも全く異なるメンバーと共に試行錯誤して、イベントを作りあげた時の達成感は格別なものがあります。これを機に交友の幅も



WHAT ?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

一気に広がったので、機会があれば是非参加してみてください。

また、AIT では国際学会等が行われることも多く、学生も参加できる機会が多々あります。私も留学中に AIT でお世話になった教授の推薦で、International Forum on Education for Rural Transformation(IFERT)の Youth Forum に



(AIT で行われた IFERT に参加した時の様子) 参加する機会がありました。ここでは海外から来た学生と Rural Transformation について活発な議論を行ったり、他大学の教授・学生と知り合ったりできるなど、刺激的な経験ができました。このように、留学生でもフォーラム参加の機会があるのは魅力の 1 つなのではないでしょうか。

③ 留学後の進路について

先ほども少し書きましたが、私は 3 年生後期から翌年の 1 月初めまで、半

年間のプログラムで交換留学を行いました。そして、そのまま 4 年間で卒業する予定です。3 年生の後期から留学を考えている方は、就職活動など不安に思うかもしれません。実際、私も留学前まで不安でした。しかし、何とかなるものです。(笑) 私は、3 年生の夏のインターンには一切参加せず、帰国後本格的に就活を始めました。もともと、将来の進路についてぼんやりとしたビジョンしかありませんでしたが、AIT で自国の発展のために熱意や強い意志を持って学ぶ新興国出身のたくさんの仲間に出会い、共に学んだことで、私の価値観は大きく変わりました。そして、留学前は想像すらしていなかった「開発コンサルタント」という職に関心を持ち、そういった方面でも活躍できそうな会社で勤務しようと考えています。

これから留学するみなさんも、留学を通して様々な価値観や生き方をしてきた人に出会うことで、きっと自分の中の価値観が変化したりすると思います。変化を恐れず、たくさんの人と出会い、留学生活を楽しんでください！

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

タイでの 4 ヶ月半

文教育学部言語文化学科
日本語日本文学コース
16100209 伊藤真帆

タマサート大学 (タイ)

1. 留学準備に関して

IELTS の 5.5 が留学に求められたスコアだったので、2 回受験をして取得をしました。もう少し語学レベルがあった方が、大学の授業にもついていけるし、友達とも話すことが出来るので、もっと勉強をしていけばよかったと思っています。教育ビザを取得してから渡航しました。留学先からアクセプトンステーターが届いた後、大使館にて取得しました。大使館に行く前に予約が必要なこと、書類がたくさん必要なことから早め早めの準備が大切です。タイの教育ビザは 90 日で切れてしまうので、現地で延長をしないといけません。大学の職員さんが書かなければいけない書類を渡してくれたり、タイ語を話すことのできない私たちのために、手続きをしてくれたりしたので、問題なく延長手続きができたので良かったです。準備に関して、いちばん大変だったことは、滞在先を決めることです。私が留学したランシットキャンパスは留学生があまりいないところだったので、大学にもらった資料にも掲載されていませんでした。メールを送っても返信が全

然来なくて、渡航直前に滞在先が決まりました。日本で生活しているようにはできないのだということが留学前から分かり、少し不安になりましたが、この経験が留学中にいろいろな手続きを誰かに言われる前に、早いうちから取り組むということが意識できることにつながったと思います。

2. 留学中のことについて

滞在していたアパートの近くのキャンパスでは、3 コマ、バンコクのキャンパスでは、タイ語を週 2 回履修していました。経済の授業では、毎回小テストがあったので、勉強してから授業に臨んでいました。先生はタイ人だったり、イギリス人だったりしました。タイ人の英語はタイ語なまりが強いのですが、講義をしてくださった先生たちの英語はなまりもなく分かりやすかったです。日本の授業と違い、1 コマ 3 時間と 2 倍の長さでしたが、途中で 10 分休憩と称する 30 分休憩がありました。最初は驚きましたが、これもタイならではの文化だと思い、授業でも異文化に触れることができ、楽しかったです。タイ人以外の、特に欧米人の友達も作りたかったので、バンコクのキャンパスでタイ語の授業を履修していました。授業自体も楽しく、簡単な表現を覚えて日常生活で使うことはとても楽しかったです。空いた時間に、TOEIC の勉強をしていました。

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

放課後は友達と大学内のプールやナイトマーケットに行ったり、タイ語の語学学校に通ったりしていました。大学の周りにはたくさんの各国の料理が食べられるレストランがあるので、友達としばしば行っていました。寿司などの日本料理を出す店もありましたが、日本と少し味が違い、私はあまり好きではありませんでした。

留学していた学部はほとんどがタイ人であり、また、私が留学し始めたときになかなか積極的に話すことが出来なかったことと、語学力が低かったことから、あまり、同じ学部で友達が出来ませんでした。しかし、同じ学部のベトナム人の女の子が私ととても仲良くしてくれました。彼女は、私が分からなさそうにしていると日常会話でも授業内容のことでも、大学内で迷子になっていた時に助けてくれるなど、彼女のおかげで留学生活において大きな困りごとなく生活できたように思います。放課後も大学の中にあるプールと一緒に行って、夜ご飯を一緒に食べました。いろいろなことを知っている彼女の話聞くことはとても楽しかったし、日本のこともたくさん聞いてくれたので、お互いのことをよく理解できました。彼女の実家や友達の家泊まりながら、ホーチミンを案内してもらいました。ベトナム戦争で使われた、地下に掘られたクチトンネルに行った時には彼女からベトナム戦争について詳しく教えてもらうなど、ベトナムのことについて、深く知ることが出来ました。4ヶ月半の留学が楽しく、学ぶことが多いものになった



ことには、彼女などたくさんの人の助けがあってこそだと思います。いろいろな人に感謝をしたいと思います。

3. 留学中で楽しかったこと



留学をしていた時にはタイ国内、他の東南アジアの国などいろいろな場所を旅行しました。最もスリルもあり、感動もして心に残った旅行は、タイの最北のチェンライという県にあるラオスの県境にあるプーチーファーという山まで行ったことです。観光地であるチェンライの市街地までは簡単にいくことができたのですが、プーチーファーに行くまでには、バスのチケットを買うことが出来ず、困ってしまうなどいろいろなありましたが、

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

近くのタイ人が助けてくれて、一緒に行くことができました。ホテルへの行き方も分からなかったのですが、バスの運転手さんが電話をしてくれたので、無事着くことができました。また、ホテルの方も優しくしてくださって、帰りのバスを手配してくださるなどしました。山に向かって歩いていたら、すれ違ったタイ人の観光客が、トラックの荷台と一緒に乗せてくれました。タイ語で話しかけられたので、何を言っているのか分からなかったのですが、覚えたタイ語を使ったら、彼らにも通じて、タイ語を少し学んでいたからこそ、旅行ではなく留学をしていたからこそできる体験であると感じ、とてもうれしかったです。早朝に見た、雲海と日の出はこれまでの旅の苦労も思い出され、とても美しく、一生の思い出となりました。この旅行を通じて、見ず知らずの外国人を助けてくれるタイ人の優しさを感じ、また、私たちはいろいろな人に支えられているのだと言うことを再認識しました。さらに、自分たちだけで、外国人観光客が行かない所にも行くことが出来たことで、自信にもなりました。

4. 留学を通して

留学する前までは、初めて会った人と話したり、仲良くすることが苦手だったり、新しいことを始めることが苦手だったりしました。そのため、タイに行った頃は、空港で迎えに来てくれた、大学の職員の人に自分の英語に自信がないのも

あり、うまくコミュニケーションがとれませんでした。しかし、まったく生活習慣の違う国で生きていくためには、いろいろな人とコミュニケーションをとらなければなりません。私は、勇気を出して、いろいろな人に話しかけました。自分が言いたいことが通じたとき、自分がやりたいことができたときはとてもうれしかったし、自信になりました。ひとつひとつの積み重ねが自分を成長させてくれたように思います。留学前は外国を1人で旅行することなんて考えられませんでした。それらの自信をもとにして1人で旅行することもできるようになりました。住み慣れた日本ではなく、初めて行った国でも積極的に話しかけ、自分で考えて行動出来るようになったことは、日本に帰ってきてからも役に立っているように思います。日本に帰ってきてから、子どもたちに学習会を開いているNPOで、子どもたちと関わる活動を始めました。全く知らない人たちしかいない団体にいきなり飛び込むということは、自分にとっては大きな挑戦でもありますが、子どもたちとも緊張せずに関わることができ、よい関係を築けていると思います。これから私は就職活動が待っていますが、留学で手に入れることのできた体験や自信をいかして、これからの生活を送りたいと思います。



WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

派遣されていた期間

Aさん：2017年7月－2018年1月

Bさん：1学期

【留学前】

語学能力試験のための準備はどうしましたか？（必要だったスコアは？）

Aさん：特になし

Bさん：IELTS 5.5

ビザの取得はどのようにしましたか？

Aさん：タイ大使館にて

Bさん：大使館に行き、申請しました。アクセプタンスレターが届くのが遅かったのもう時間あまりありませんでした。

航空券の手配、海外旅行保険などの準備はどのようにしましたか？

Aさん：お茶大の事前研修を参考に個人的にチケット、保険は準備した

Bさん：ネットで買いました

宿泊先はどのように選びましたか？

Aさん：大学指定の寮

Bさん：留学先の担当者が進めてくださった場所にしました

【留学中】

居住形態と住み心地はどうでしたか？

Aさん：大学内の寮でルームシェア、シャワーは水しか出ないのでそこが難関！

Bさん：アパートのような感じで大学生がほとんどでしたが、いろいろな人が住んでいました。コンビニやレストランもあり住みやすかったです

1ヶ月の居住費はいくらくらいでしたか？（日本円で）

Aさん：1万円くらい

Bさん：約24000円（Wi-Fi、光熱費込み）

1ヶ月の生活費はいくらくらいでしたか？また、物価は東京と比べてどうでしたか？

Aさん：3-4万円くらい

Bさん：交通費を含めて2, 3万円ほど。東京よりとても物価が安かったです

勉強にかかる費用はどれくらいでしたか？

Aさん：テキストなどの購入はあまりなく、コピーしていたのでコピー代程度。

Bさん：教科書を買ってないのでほとんどかかりませんでした

大学周辺の雰囲気はどうでしたか？

Aさん：田舎なので、タマサート大学の他何もなく勉強には適した大学だと思います。

Bさん：大学生がたくさんいたこともあり、若々しいかんじでした。特に治安が悪いとうこともなかったように思います

現地の気候はどうでしたか？

Aさん：一年中夏で暑いです。

Bさん：ずっと暑かったです。突然のスコールもありました。

生活する上で日本から持って行った方が良いものは？逆にいらぬものは？

Aさん：日本食は充実しているので、あまり必要ないと思います。一方で、お腹をよく壊していたので腹痛薬は必要だと感じました。

Bさん：虫にさされることが多いので、薬。また、お腹を壊すので胃薬も。

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

現地で注意した方が良かったことはありましたか？

Aさん：特に思いつかないです。

Bさん：タクシーはぼったくりをされる事も多く注意が必要です。

現地で語学学習に特化したクラスを受講しましたか？受講していた場合、クラスの形態（開催時期）・内容・レベルを教えてください。

Aさん：していない

Bさん：タイ語の授業を受けました。週2回でした。初心者レベルでした。

学部または大学院での授業は自由に選択あるいは受講できましたか？また、制約があった場合、どのような制約でしたか？

Aさん：自由選択

Bさん：自由に選択できました

1週間に何コマ履修していましたか？また、制度上何コマまで履修できますか？

Aさん：3コマ（1コマにつき2、3回授業がある）

Bさん：5コマ

授業についていくのは大変でしたか？また、授業のための準備や課題はどのようなものでしたか？

Aさん：大変。論文の講読（1授業に3本ほど）、個人・グループプレゼン、小テスト、エッセイなど

Bさん：毎週小テストがある授業もありました

授業内で現地の学生と親しくなる機会がありましたか？

Aさん：あった

Bさん：話し合う時間もあったので仲良くなることができました

課外活動には参加しましたか？もし、参加していれば具体的に教えてください。また参加しなかったのならば、どうして参加しなかった・できなかったのかを教えてください。

Aさん：生徒会ボランティア（SU Culture and Gender）

Bさん：剣道のサークルに数回行きました。現地でできた友達とプールに行ったりすることの方が多かったです

授業のない期間はどのように過ごしましたか？（週末あるいは長期休暇）

Aさん：タイ国内及び、インド・ミャンマー旅行

Bさん：現地でできたともだち（アメリカ人や日本人と）タイ国内、他の国を観光しました

何か大きなトラブルはありましたか？どのように対処しましたか？

Aさん：とくにない

Bさん：特に大きい問題はありませんでした

【留学後】

帰国する前に準備しておくことはありますか？

Aさん：TOEICなどの申し込みをしておくとう帰国後スムーズに受験できる

Bさん：特にありません

就職活動あるいは大学院入試のために現地でやっていたことはありますか？

Aさん：いろいろな人に会って話すこと

Bさん：留学時は2年生だったため、特に何もしていません

WHAT ?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

私の台湾留学生活

文教育学部 言語文化学科

学籍番号 1410276 前田佳菜絵

国立政治大学 (台湾)

■ 留学理由

私は2017年9月から2018年1月までの5ヶ月間、台湾にある国立政治大学の教育学部に留学した。私が台湾に長期で留学に行こうと思ったのは、大学2年生の春休みに3週間台湾大学の語学研修プログラムに参加したからだ。そこで自分の語学力の無さを痛感し、また、そのプログラムに参加していた他の日本人大学生の視野の広さに感銘を受け、1年卒業を延ばしてまでもちゃんと留学に行きたいと思うようになった。教育実習との兼ね合いで半年しか交換留学が出来ないため、期間内でしっかりと結果を出すためにも、一度行って慣れた環境である台湾に再び留学することを決めた。目下の関心事であった教育学を学びたかったため、教育学部のある政治大学を選択した。

■ 留学前

台湾は近場で治安も良いため人気の留学先で、インターネット上に留学に関する情報が多く載っている。それらのサイトを参考にしながら基本的に自分で準備を進めていった。ビザや航空券も自分で手配し、保険は学校で紹介されたものに加入した。また、デビットカードを新たに作って、現地のATMでお金を下ろせるようにした。語学面の準備に関しては、交換留学先から提示された語学力の条件が、中国語で授業を受ける場合はHSK4

級、英語で授業を受ける場合はTOEIC700点だったが、勉強をして留学前にHSK5級、TOEIC755点を取得した。

交換留学の申請後、トビタテ！留学JAPANの奨学金の存在を知り、奨学金はそれを利用した。トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラムは、交換留学以外のインターンシップやボランティアなどの海外での活動も留学と見なす奨学金で、自分で決めたテーマに基づいた留学プランを実行する必要がある。私は「台湾の親子関係及びそれを取り巻く環境・制度について調べる」というテーマで、交換留学先での教育学の履修・学校ボランティア・NPOなどへのインタビューを行うプランを立てて応募し、7期生として採択された。留学前には事前研修もあり、留学プランのブラッシュアップをしたりグローバルリーダーとしてのマインドセットを学んだりした。

■ 留学中

留学前にHSK5級を取ったものの、スピーキング力とリスニング力が著しく低く、授業の参加は大変だった。9月上旬にそれに気づいてからは、日本人の友人に教えてもらったネット掲示板で知り合った台湾人と、週4日ほど言語交換をしていた。ネット掲示板で知り合ったにもかかわらず、3人の政治大学の現役生と卒業生と知り合うことが出来たのは運が良かった。彼女たちからは台湾の生活や文化だけでなく、勤勉な姿勢を教えてもらった。言語交換のおかげで私の中国語力は上がったと言っても過言ではない。

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

授業は4種類、計11コマ履修した。留学生向けの中国語の授業、日本人と台湾人がお互いの文化などを紹介し合う授業、青少年心理学と比較教育学の授業だ。

留学生向けの中国語の授業では、クラス分けテストを経て、6クラス中上から2番目のクラスに入った。日常会話や基本文法に難がない人向けのクラスで、先生は現地の人の会話速度で教科書の文法や語彙を説明していった。15人程クラスメイトがいたが、私を含め日本人は2人しかおらず、台湾の他の大学に比べると日本人が少ないと思う。毎週作文などの課題やテストがあった。校外学習と称して、パイナップルケーキ作りや豆腐作りにも行った。

日本人と台湾人がお互いの文化などを紹介し合う授業では、台湾人2人、日本人2人でグループになって、台湾人は日本語を使い、日本人は中国語を使って、与えられたテーマに沿って毎週発表かレポート提出があった。

青少年心理学は、現地の学生と一緒に受けた。約80人が履修する授業で、本科生として留学している日本人も2人いて、グループ発表の際に同じグループになり、一緒に頑張った。また、毎回ディスカッションの時間があり、そこでは現地の大学院生に助けてもらった。授業を担当されていた先生に、台湾の教育事情が知りたいと告げると、帰国前に一緒に政治大学附属高校にも見学に行かせていただいた。

比較教育学も現地の学生と一緒に授業を受けたが、先生が課題を多く出すこと

で有名な授業で、12人程度の小規模なクラスだった。この授業ではペアを組んで先生に添削をしてもらいながら2回レポートを書かなければならないのだが、そのときペアだった現地学生には沢山助けてもらった。休日には彼女のルームメイトと3人で遊びにも行き、今でも親交が続いている。レポートのテーマは比較教育学の論文を読んで、比較教育学のメソッドの観点からその論文を評価するというもので、それを通して台湾・アメリカ・イギリス・オーストラリアの大学入試制度と家庭の経済力の関係について理解を深められた。

上記の通り、毎週何かしらの課題があり、言語交換もし、忙しい毎日だったが、週1回、学校ボランティアにも行った。僻地の小学校に行き、授業に参加したり文化を紹介したりして異文化交流をするという留学生向けの政治大学のプログラムで、そこでは他の留学生とも仲良くなった。ボランティアを通して知り合った



WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

小学校の先生には、トビタテの実践活動としてインタビューもさせていただいた。

ところで、台湾と言えば美味しいご飯を想像されると思うが、「網美（インスタ映え）」なカフェも有名で、言語交換のときによく訪れた。また、「自助餐」というビュッフェ形式の店は安く沢山野菜が摂れるので頻りに利用した。日常的にタピオカミルクティーを飲めたり美味しい中華料理を食べられたりするの、やはり台湾留学の魅力だと思う。

大学の寮は4人部屋で韓国人3人がルームメイトだった。2人とは中国語で、1人とは英語で会話をした。クリスマスや誕生日のときは一緒にケーキを食べた。韓国が自分にとってぐっと身近な国になった。寮の建物は古かったが、家賃が月9000円である上に、山の上にあって街の中心部より空気が綺麗なので、晴れの日には布団を外に干せたのは良かった。政治大学は街の中心部に出るまでにバスで15分はかかるやや辺鄙なところにあるが、だからこそ勉強に集中することが出来、有意義な留学生活になったと思う。

■留学をして、これから

トビタテの実践活動の一環で、現地で家庭支援を行うNPOにインタビューに行った際、ソーシャルワーカーの方へ中国語でインタビューすることが出来、この留学で自分がきちんと中国語を身につけたことを実感した。また、青少年心理学の先生からは「あなたは毎回一番前の席に座ってレポートもびっしり書いてきて、最初は中国語を聞き取れていなかったから凄く心配したけれど、とても真面目にやっていた」と最後に言われ、他の授業でもそれなりの成績をいただけた。留学を通して、自分の真面目さに自信を持てるようになった。

また、ソーシャルワーカーの方へのインタビューなどを通して、児童福祉の課題は行政・学校・民間など様々な人々の連携が不可欠だと実感した。大学卒業後はそういった課題を解決するために、産官学を繋ぐ役割を担っている財団に就職する予定だ。

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

派遣されていた期間

2017 年 9 月～2018 年 1 月

【留学前】

語学能力試験のための準備はどうしましたか？（必要だったスコアは？）

HSK と TOEIC を受けました。HSK は 5 級、TOEIC は 755 点を取ってから留学に行きました。必要だったスコアは中国語で授業を受ける場合は HSK4 級、英語で授業を受ける場合は TOEIC700 点でした。

ビザの取得はどのようにしましたか？

自分で行いました。インターネット上で経験者の方が情報をまとめられているのでそれも参考にしました。

航空券の手配、海外旅行保険などの準備はどのようにしましたか？

航空券の手配は自分で行いました。海外旅行保険は学校で紹介されたものに入りました。

宿泊先はどのように選びましたか？

交換留学先の寮に入りました。抽選だったので不安だったのですが、無事入れました。

【留学中】

居住形態と住み心地はどうでしたか？

4 人部屋で、洗面所にアリが年中いるなどお世辞にも綺麗とは言い難かったのですが、慣れてしまえば大丈夫でした。山頂部に寮、ふもとに大学があり、徒歩で下山の場合は 15 分くらいで、登る場合は 20 分くらいかかりますが、バスも 23 時までには出ているので特に不便ではありませんでした。コンビニと食堂もありました。中心部から外れたところだったので大気汚染を気にせずお布団も干せました。

1 ヶ月の居住費はいくらくらいでしたか？（日本円で）

約 9000 円

1 ヶ月の生活費はいくらくらいでしたか？また、物価は東京と比べてどうでしたか？

日本円で 6～7 万。食費は 1 食 200～400 円くらいで済まそうと思えば済ませられます。物価は東京より少し安いくらいだと思います。

勉強にかかる費用はどれくらいでしたか？

学期の初めに教科書（大体 2000 円くらい）を 1 冊買って、ほとんどの授業はプリントを使っていたので、それ以外はかかっていません。

大学周辺の雰囲気はどうでしたか？

病院・レストラン・薬局・コンビニ・スーパー・八百屋などがあり生活する分には困りませんが、娯楽やショッピングはバスで 15 分くらいかかるところまで行かないと何もありません。

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート
ません。比較的落ち着いたエリアだと思います。

現地の気候はどうでしたか?

夏は暑くエアコンがないと厳しいです。秋から冬は雨の日が多く、暖房がないので日本よりも屋内は寒いです。

生活する上で日本から持って行った方が良いものは?逆にいらぬものは?

冬は雨も降り寒いのでレインブーツを持って行って良かったなと思いました。風邪薬などの常備薬は必ず持って行って下さい。緑茶のティーパックは日本と味が全く違うので、好きな人は日本から持って行くといいかもしれません。お菓子・洗剤・化粧品・シャンプー・生理ナプキンなどは日本のものが売られているので持って行く必要はありません。

現地で注意した方が良いことはありましたか?

電車やバスの中で飲食をすると罰金を払わなければならないのでそこは気をつけました。

現地で語学学習に特化したクラスを受講しましたか?受講していた場合、クラスの形態(開催時期)・内容・レベルを教えてください。

受講していました。前期の間、週に1回3時間、1クラス15人のものに参加していました。初回授業でクラス分けテストがあり、全部で6クラスある中の上から2番目のクラスにいました。そのクラスは基本文法・日常会話は問題ないクラスで、先生が普通の速度(現地の人の会話速度)で授業をしてくれます。教科書に載っている話題を通して少し難しい文法と語彙を習う授業で、作文や語彙のテストなど、何かしらの課題が毎週ありました。日本人は私を含めて2人だけでした。校外学習と称してパイナップルケーキ作りや豆腐作りにも行きました。

学部または大学院での授業は自由に選択あるいは受講できましたか?また、制約があった場合、どのような制約でしたか?

比較的自由に受講出来たと思います。制約は、英語や参加型の特別な授業は特定の学部の人しか受けられないので駄目だったくらいです。

1週間に何コマ履修していましたか?また、制度上何コマまで履修できますか?

4種類の授業を取っていました。コマで言うと、11コマ(11時間)履修していました。25コマ以上は履修出来ないそうです。

授業についていくのは大変でしたか?また、授業のための準備や課題はどのようなものでしたか?

正直に言って、とても大変でした。私はリスニング力とスピーキング力が弱かったため、ディスカッションの時間はペアの人にかかなり迷惑をかけてしまいました。また、課題そのものも日本よりも多く、レポートか発表がほぼ毎週ありました。

授業内で現地の学生と親しくなる機会がありましたか?

ありました。2人1組や4人1組で発表したりレポートを書いたりする授業ばかりだったので、仲良くなって遊びに行きました。

課外活動には参加しましたか?もし、参加していれば具体的に教えてください。また参

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

加しなかったのならば、どうして参加しなかった・できなかったのかを教えてください。

参加していました。週に1回程度、僻地にある小学校に行って、異文化交流をするという留学生向けの活動に参加していました。日本の文化を紹介したり、現地の授業に参加したりしました。留学生同士で仲良くなることも出来ました。

授業のない期間はどのように過ごしましたか？（週末あるいは長期休暇）

言語交換をしていました。授業が週に2日しかありませんでしたが、週4日は言語交換をして、あとの1日は課題をやったり、課外活動をしたりしていました。

何か大きなトラブルはありましたか？どのように対処しましたか？

風邪を3回引きました。現地の薬局で買った薬を飲んで寝て、頑張って治しました。

【留学後】

帰国する前に準備しておくことはありますか？

特になかったと思います。

就職活動あるいは大学院入試のために現地でやっていたことはありますか？

私は帰国後すぐ就活を始めなければならなかったのですが、セミナーやイベントの予約などインターネット上で出来ることはしていました。

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

中国・北京外国語大学

の交換留学を終えて

文教育学部

言語文化学科 グローバル文化学環

1510233 杉本優花

派遣先：北京外国語大学（中国）

1. 留学準備に関して

私が留学へ行くまで実際に行ったことを順に書いていきたいと思います。

（1）北京外国語大学（以下、北外）への申請

ホームページ上からの申請でした。留学生用の申し込みページがあるので、アカウントを作り、必要事項を記入して申請をします。

（2）アクセプタンスレターを受け取る
しばらくすると、大学へ書類（アクセプタンスレター）が届きます。

（3）ビザの取得

中国大使館ではビザ業務を行っていないので神谷町にあるビザセンターへ行き手続きをしました。取得するビザは「X1ビザ」といい、これは半年以上1年以内の留学ビザで、入国後、30日以内に居留許可の手続きが必要になるものです。また、このビザは1回だけ入国可能です。以後、居留許可をとれば期間内は出入り自由になります。

（4）健康診断と予防接種

私は日中友好病院へ行きました。ごく普通の身体検査を行い、1週間後に結果が分かるというような流れです。そのあと予防接種もしました。予防接種の値段はかなり高く、強制ではないので不安な

ら受けるという感じでいいと思います。

（私はA型肝炎と狂犬病を受けましたが、実際は何事もなく過ごせたので受けなくても良かったかなと思っています）

（5）保険

お茶大ですすすめられたものに参加をしました。北外でも留学生は年間600元の保険に加入することになります。

（6）航空券

荷物が多かったのでJALで往復便をとりました。復路の時間を変更できるSemi Flex-Sがおすすめです。

（7）スマホ

使用しているスマホiPhoneならSIMロック解除して持っていくのが一番楽だと思います。ですが現地で安いスマホと、SIMカードを買うことも可能です。ただ、中国ではアプリを使って何でもできるので、スマホの容量は多めだといいのかなとも思います。

準備については以上です。

2. 留学中のことに関して

今季は3人北外に留学していたので、私は北京外国語大学の寮について重点的に書きます。

留学生は基本的に大学内の寮に住みます。全部で4種類あるので、比較して自分に合った寮を選ぶことをおすすめします。



クラスメイトとの写真

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

ただし、最初の学期は寮を選ぶことができず、2人部屋になります。2学期目からは寮を変えることもできます。以下は、4種類の寮を簡単にご紹介します。

①国交楼(東院)…最も新しい寮です。2人部屋と1人部屋があります。授業をする建物と直結なので、開始5分前に出れば授業に間に合うくらいに便利です。

②1号楼(東院)…2人部屋のみで、一番安い寮です。建物自体は古く、よく不満を言っている留学生がいましたが、慣れてしまえば平気という人もいました。

③白楼(西院)…西院は授業を行う東院からは少し

遠く、徒歩で15分くらいかかります。こちらにも2人部屋と1人部屋があります。国交楼よりも少し安いです。

④留学生6号楼(西院)…2人部屋しかありませんが、わりと広く、収納スペースも多めです。

寮は基本的にトイレ・シャワー・キッチン・洗濯機が共用です。トイレとシャワーがついている部屋もありますが、少し高いです。

部屋の設備についてですが、机とベッドはどの部屋にもあります。シーツは週一回交換できますが、自分で買ったものを使っている人もいます。ベッドは少し硬めかもしれません。二段ベッド式だった友達は、硬かったのでマットレスを買って敷いていました。留学生の寮環境は恵まれていて、中国人学生の寮環境を聞くとびっくりします。(女子は4人部屋、

男子は6人部屋。シャワーを使うときはお金を払う、など。)

私の場合は、はじめの学期は④の6号寮、2学期目からは①の国交楼に引っ越ししました。国交楼は授業に行くのに便利ですが、歩かなくなるので運動不足になります…。

また、連休が多いので余裕があれば国内旅行へ行ってみるのもおすすめです。中国は広いので、地域によって温度や食事はもちろん、中国語の方言も全く違うのでとても面白いです。私は内モンゴルや西安、南京などいろいろなところに行きました。

3 留学後の進路について

私は3年の後期から留学へ行ったので、卒業年度を1年伸ばすつもりです。留学に行くまでは、正直自分の進路を全く考えていませんでした。留学先でいろいろな国から来た留学生に会い、いろいろな生き方を聞き、視野が広がりました。また、留学中に自分はどういうことに興味があつて、将来何をしたいのか、とじっくり考える時間があったことは、私にとっては良かったと思っています。もし留学に行かなかつたら、やりたいことも分からないまま周りと同じように普通に就活をしていたと思います。

例えば、私は日本語教育に興味があつて、第二言語としての日本語を教える先生という道を考えていたこともありました。そのため、留学先でも実際に北外で日本語学科の日本語の授業を見学したり、日本語を学ぶ中国人学生と共同生活する合宿に参加したりしました。その経験の

WHAT ?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

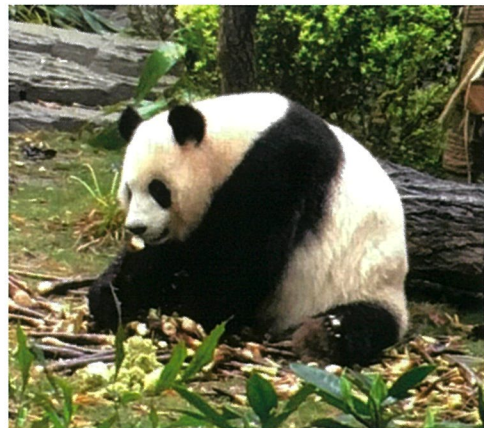
なかで、私は日本語教育に興味はあるものの、本当にやりたいことは「先生」ではなくて、違うことなのではないか？という気づきがありました。

他にも、北京にはたくさんの日本人がいますが、特に会社から派遣されている社会人の方も多いです。私は自分の出身である茨城県人会に参加したり、吹奏楽バンドに参加したりしたので、社会人の方から仕事の話聞く機会が多かったです。それによって、いろいろな働き方について考えるきっかけにもなりました。

現時点で、卒業したらどんな進路に進むかは確定しているわけではありませんが、留学で得た経験はきっとこれからの糧になると思うので、自分にとって納得のいく選択をしたいです。

(写真左・四川の成都で本場のパンダを見ました。日本みたいに並ばなくても見られますよ！

写真下・前述した、日本語を学ぶ中国人学生との合宿にて。濃い10日間でした。)



WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

近くて遠い中国での一年間

文教育学部言語文化学科

1510223 木下奈旺

北京外国語大学（中国）

1.留学準備

まずは、国際課の国際交流センターに中国大陸に留学したいことを伝えて、大学選びを手伝ってもらいました。わたしの場合、中国語を学びたかったのですが、中国大陸に行くか、台湾に行くか迷っていました。そのことをセンターの方に相談したら、純粋に中国語を勉強したいのなら、大陸に行ったほうが、人口も多く、日本語を話せる人も少ないからいいのではないかとアドバイスを頂き、北京外国語大学を第一志望、大連外国語大学を第二志望、復旦大学歴史系を第三志望にすることを決めました。大学を選んだら、留学申請書に必要な事項を記入して、また国際センターの方に内容を確認していただき、国際課に提出しました。その申請を元にした日本語と英語の面接が11月の終わりに行われました。わたしの面接は授業がある時間帯だったため、事前にその授業の先生に、その時間に交換留学の面接があることを伝え、その時間だけ授業を抜けさせていただきました。面接時間は15分くらいだったと思います。私のときは、海外留学をしたい理由やその大学を選んだ理由、海外生活に耐えられるかどうかなどを聞かれました。私は英語が苦手だったので、英語の面接にとっても緊張していたのですが、日本語で質問されたことをもう一度英語で聞かれると

いう感じでした。他の方はどうか分からないのですが、中国に留学する方は、自分の志望理由が英語で表現できればいいのではないかと思います。

私は、中国へ中国語を勉強しに留学したかったため、中国語の能力をはかる面接もありました。面接は12月の初めに行われました。とても緊張したのですが、中国人の先生お二人とゆっくりおしゃべりをしていたらいつの間にか終わっていた、という感じでした。いつも授業をしてくださる先生が面接官となっていたので、私のレベルに合わせて質問してくれたのだと思います。中国語の面接は、その時点までの中国語の授業をしっかりと受講していれば問題なく終わると思います。その後、2月ごろに交換留学内定の通知が国際課から届き、北京外国語大学からは、4月の初め頃にオンライン申請の案内が来ました。6月末にアクセプタンスレターが届き、ビザの申請をしました。大学から指定される必要な言語スキルは特になく、大学への言語スコアの提示もありませんでした。

2.留学中に関すること

お伝えしたいことはたくさんあるのですが、私からは以下の三点について詳しく述べたいと思います。

①通信

ご存知の方も多いと思いますが、Google、Gmail、Facebook、Twitter、InstagramなどのSNSは中国のネットを通すと使えません。アクセスしたい場合はVPNを使って、中国以外のサーバーからアクセスしないと使えません。お茶大

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

のメールアカウント (Outlook) も使えないことがあるので、ヤフーメールのアカウントがない人は、アカウントを作っておくことをおすすめします。

中国版 LINE の微信 (WeChat) というアプリがあると中国と日本でネット通信によるチャットはもちろん、ビデオ通話もできるので、家族にインストールしてもらい、友達登録をしてから中国に行くといいと思います。

② 食事

私は授業がある日は基本的に食堂でご飯を食べていました。主な学食は東院と西院に一つずつあります。東院のほうは地下 1 階、地上 3 階の計 6 階建てで、大きくて種類もたくさんあります。西院のほうはこじんまりしている印象があります。私は西院に住んでいたため、学食でご飯を食べるときは、朝は西院、昼と夜は東院で食べていました。学食の値段は非常に安く、大体のメニューが朝は 2~3 元、昼夜も 10~20 元で食べられます。ただし、量がとても多いので、全部食べきるのは基本的には難しいと思います。中華料理は油も多いですし、全部食べるとを想定されてはいないので、勿体無いですが適度に残すということを覚えないと、体重が恐ろしいことになります。私は 2 月に一時帰国した際、健康診断に行ったのですが、留学前よりも体重が増え、コレステロール値がかなり高くなっていて、中華料理の恐ろしさを感じました。また、学食以外にも、売店のようなお店が校内にいくつもあり、私は手抓餅や烤冷面などをよく買って食べていました。

一時帰国以降、中華料理ばかり食べていては体に良くないと思い、自炊を始めました。留学生の寮では自炊が出来るようにキッチンがあり、自分で器具と材料を揃えれば料理が出来るようになっています。私は、2 人部屋だったので同室の子と近くのスーパーへ毎日交代で買い物に行き、夜ご飯を一緒に作っていました。クラスメイトや外国の友達と自国の料理を作りあうのも楽しかったです。

学内だけではなく、北京外国語大学附近にも美味しいお店がたくさんあるので、オススメのお店を少しだけ紹介します。

国交楼の近くの門を出て、右に少し行ったところに、金掌勺という美味しい東北料理のお店があります。とても美味しいのですが、一品の量がとても多いので、大人数で行くのがオススメです。

そして、金掌勺よりもさらに少し行ったところに新疆料理店があります。羊肉の串焼きとヨーグルトがオススメです。イスラム教徒のクラスメイトとご飯に行く時に重宝しました。

また、西院を出て左に行くとパン屋さん、ピザ屋さんもあり、そこもかなりお手頃な値段で美味しかったです。日本のお店もかなり進出していて、地下鉄で移動すれば、丸亀製麺 (うどんのお店) や道とん堀 (お好み焼きのお店)、サイゼリアなどが食べられます。私は日本食が恋しくなったら行っていました。ですが、北京のお店は移り変わりが激しいので、実際に行ってみて、自分のお気に入りのお店を見つけるのが一番いいと思います。

③ 空気

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

おそらく多くの方が心配している点だと思います。私も行くまで北京の空気汚染がどんなものなのか全くわからなかったのですが、日本で大量の PM2.5 対応のマスクを購入して持って行きました。前年度に留学していた先輩に聞いたところ、冬の空気はかなり悪いとお聞きしていたので、覚悟を決めて行ったのですが、私が北京にいた年は、政府が規制を強化したようで、冬でも青空が見えるくらい綺麗な日もありました。ただ、汚い日は汚くて、先生にも今日はマスクをしたほうがいいですよと言われる日もありました。冬よりも春先の方が多かった気がします。100 枚入りのマスクを買ったのですが、実際に使ったのは一年間で 50 枚くらいでした。来年度以降どうなっていくのか全く読めないなので、多めにマスクを持っ

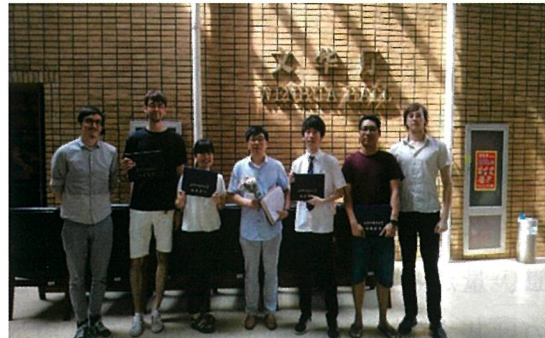


前期のクラスメイトと文化祭に出店

ていくのもいいかもしれません。マスクは中国でももちろん買えます（私は使っていないので品質は保証できません）。

3.留学を終えて

中国で知り合った日本語を勉強している中国人学生たちの日本語がとても流暢で、中国語を話せるというだけではだめだということを実感しました。また、日本がどのような国なのかを外から考えられたこともいい経験になりました。百聞は一見に如かず。興味があったら実際に行ってみることが大切だと学んだ一年間でした。辛いこともたくさんありましたが、留学して本当によかったと心から思っています。



後期のクラスメイトと卒業式典後

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

留学報告書

文教育学部 人文科学科
学籍番号 1610106 伊藤真季江
北京外国語大学

1、 留学準備について

留学が決まった後、はじめに行ったのが北京外国語大学のホームページでのオンラインアプリケーションです。この際に、保護者のパスポートの写しが必要になりました。その後、派遣先の大学からお茶大にアクセプタンスレターが届きました。このアクセプタンスレターはビザの申請に必要になりました。ビザは、神谷町にあるビザ申請センターで申請と受け取りをしました。一年の留学の場合、国の医療機関もしくは日中友好病院での身体検査が必要で、検査を受けました。この検査の結果は、現地での居留証明の際に必要になりました。また、検査をした病院で予防接種を受けました。

上記の準備と並行して持ち物の準備をしていました。持ち物はスーツケース二つ（預け荷物）とボストンバッグ、リュック（機内持ち込み）になりました。あれもこれも持っていこうとした結果大荷物になってしまいましたが、実際には洋服も日用品もほとんど現地で入手可能です。持って行って良かったものは、化粧品、スキンケア用品、洗濯物を入れて置けるネットのかご、シャワーの時に使っていた 100 円ショップで買ったスパバッグ、S 字フック、ビニール袋、除菌ティッシュです。お金は、渡航後数日間は日本で換金した分（5 万円分）を使い、そ

の後は ATM で現地のお金を引き出して使っていました。

語学のスコアは必要ありませんでしたが、志望書を書くときとオンラインアプリケーションの際に、TOEFL（お茶大入学時に受験したもの）と HSK の持っている級を書きました。渡航後は、もう少し英語、中国語を勉強しておけばよかったなと思うことがありました。

2、 留学中の事に関して

留学中、月曜日から金曜日まで授業がありました。授業時間は日によって違いますが、50 分×2 の授業が一コマか二コマです。クラスは A（易）～G（難）クラスまであり、学期の初めにあるクラス分けテストで決まります。テストの形式は、最初にパソコンでのピンインのテストを受け、そのあと中国語での面接のテストがありました。私はお茶大で「基礎中国語 I～IV」「発展中国語 I、II」の授業を受けた程度の学力でテストを受け、テストの結果 C クラスになりました。このテストで分けられたクラスが自分にあわないと思った場合クラスを移動することも可能でした。

C クラスの生徒は「汉语」と「口语」の二つの授業を受講します。それぞれ別の先生に習います。クラスメイトは様々な国の人で構成されていて、当たり前ですが、それぞれ文化も考え方も違う人たちです。もちろん苦勞することもあります。積極的にコミュニケーションをとるようにすれば、半年で世界中に友達が

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

できます。それぞれの母国の文化などを紹介する機会もあり、とてもいい経験になりました。

授業が始まって最初に思ったのは、自分にはリスニング力がないということでした。テキストの課題文自体は少し易しいくらいでしたが、授業中先生の言っていることがわからず、はじめの一か月から二か月くらいはとても苦労しました。また、Cクラスだとまだ同じクラスの生徒もそれほど中国語で話せないの、生徒同士が英語で会話することもあり、英語もそれほど話せない私は会話に参加できずすこし寂しかったこともありました。それでも、二か月もすると徐々に先生の話していることもわかるようになり、クラスメイトとも中国語で会話するようになっていきました。

学期中に四回のテストを受けました。小テスト①、中間テスト、小テスト②、期末テストです。これらのテストで60点以上の成績をとると単位が取得でき、次の学期で一つ上のクラスで授業を受けることができます。また、すべてのテストで90点以上をとった生徒は、次の学期で二つ上のクラスに入ることができます。私は、Cクラスのテストですべて90点以上をとることができたので、後期からはEクラスで授業を受けました。Eクラスは「汉语」「口语」のほかに「读写」の授業もありました。Eクラスは課題や発表が多く大変でしたが、中国語のスキルは確実に上がったと思います。

また留学生は選択授業も受けることができます。受けることのできる授業はク

ラスごとに違います。HSK対策の授業などは受講者が多かったと思います。ほかにも、ビジネス中国語、中国文化、中国文学などの授業がありました。私は後期に中国史の授業を受けていました。内容はあまり専門的なものではありませんでしたが、先生もわかりやすい中国語で話してくれるので聞きやすく、また中国語で文献を読む練習にもなりました。

授業は午前中か遅くても三時までには終わるので、放課後や土日はそれぞれ好きなことをして過ごします。私も、クラスメイトや先生とご飯に行ったり、映画を見に行ったりしました。北京は交通費が安く済むので、いろいろなところに観光や買い物で行くことができます。買い物も銀行口座を開けば、微信支付や支付宝などのアプリで買い物ができて便利です。

授業時間外では、北京外国語大学で日本語を勉強している学生さんたちとも交流しました。みんなとても熱心に勉強していて、二年生の初めの時点ですでに日常会話程度なら話すことのできるくらいでした。彼女たちとの交流の中で、中国の学生の生活や、流行っているものなどを知ることができました。

連休や長期休暇の際には、旅行に行きました。ホテルも新幹線も日本より安いので手軽に色々な所に行くことができます。

3、 留学後の進路等について

留学していた間、自分の進路について考える事が多くありました。自分は何が

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

したいのだろう、なにができるのだろうなどなど、自分を見つめなおす機会にもなりました。留学前、私は特に就きたい職業がありませんでしたが、留学の志望書を出す段階で少し考え、とりあえず「中国と日本の橋渡しになりたい」と思いました。中国の歴史や文化、言語に興味はありましたが、この時私はそんな立派な職に就けるはずもないという気持ちと、本当にそのような仕事に就きたいという気持ちが半々でした。そして、留學生活の中で、様々な人と関わりました。特にクラスメイトや、中国人学生との交流は私の価値観やネガティブな考え方を変えてくれました。はじめは、自分の言いたいことも伝えるのが難しかったけれど、少しずつ中国語での表現が身についていって、ちょっとした冗談でクラスメイトが笑ってくれたり、ついてないことがあると励ましてくれたりするようになり、クラス皆で成長している感覚がありました。また、日本語を勉強している中国人学生との交流では、お互いの課題の手伝

いなどをしました。このような互いが互いから学び、お互いに尊敬し励ましあえる関係が出来上がりました。私は日本と中国もこのような関係になってほしいと思います。しかし、日本人が今中国や中国人に抱いている感情は必ずしも良いものではありません。私は、日本人に中国のことをもっと知ってほしいです。留学前思い描いていた「日本と中国の橋渡し」というのは、政治や交易等に関わる仕事につかないと成れないものだと思っていましたが、中国と日本の関係をよくするような仕事はもっと他にもたくさんあるのではないかと思うようになりました。今は、中国の文化や人々などをもっと身近に感じることができるよう、中国のことを紹介できる仕事に就きたいと考えています。



WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

派遣されていた期間

A さん：2017.9～2018.7

B さん：10 ヶ月

【留学前】

語学能力試験のための準備はどうしましたか？（必要だったスコアは？）

A さん：大学の授業（必要スコアは特になし）

B さん：特に必要なスコアはありませんでした

ビザの取得はどのようにしましたか？

A さん：一ヶ月ほど前にビザセンターに行って手続き

B さん：ビザ申請センターで申請、受け取りをしました

航空券の手配、海外旅行保険などの準備はどのようにしましたか？

A さん：航空券は JAL で往復を取り、大学に勧められた保険に加入

B さん：航空券、保険共にネットで申し込みました。

宿泊先はどのように選びましたか？

A さん：寮が安かったから

B さん：大学内の寮の方が安いので、寮に住んでいました。

【留学中】

居住形態と住み心地はどうでしたか？

A さん：特別良いわけではないが、まあまあ暮らせる

B さん：シャワーとトイレ以外はとてもよかったです。

1ヶ月の居住費はいくらくらいでしたか？（日本円で）

A さん：20000 円くらい

B さん：2 万円前後

1ヶ月の生活費はいくらくらいでしたか？また、物価は東京と比べてどうでしたか？

A さん：2 万 5 千円くらい。東京よりも安い。

B さん：1 ヶ月 4 万円から 6 万円くらいでした。物価は東京よりはるかに安いです。

勉強にかかる費用はどれくらいでしたか？

A さん：一年間で教科書代 5000 円くらい

B さん：教科書代が学期初めに 3000 円程度かかりますが、あとは特にありませんでした。

大学周辺の雰囲気はどうでしたか？

A さん：郊外で過ごしやすい

B さん：バス停、レストラン、パン屋さんなどが近くにあるので、とても過ごしやすい場所でした。

現地の気候はどうでしたか？

A さん：夏は過ごしやすいが、冬は寒く空気もあまり良くない

B さん：冬はすごく寒く、乾燥していて、雨が少ないです。たまに雪がふります。初夏になると、ゲリラ豪雨もありました。

生活する上で日本から持って行った方が良いものは？逆にいらぬものは？

A さん：必要:化粧品

不要:コート（北京は寒いので、日本で買ったコートでは足りない）ほとんどのものは中国でも買えます。自分のこだわりがあるものだけ持っていけばいいと

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

思います。

B さん：持って行ってよかったものは、化粧品、スキンケアグッズ、洗濯物を入れておくネット、スパバッグ、除菌ウェットで、いらなかったものはシャンプーとリンスです。

現地で注意した方が良かったことはありましたか？

A さん：安易に頷かない。特に相手が何を言っているかわからない時。

B さん：乾燥しているので、風邪を引きやすいと思います。

現地で語学学習に特化したクラスを受講しましたか？受講していた場合、クラスの形態（開催時期）・内容・レベルを教えてください。

A さん：九月から一月、三月から七月

世界各国から集まったクラスメイト約二十人と中国語の文法、スピーキング、リーディング、ライティングを行う。

B さん：語学学習のクラスを受講していました。クラスは 15 人から 20 人で、中国語のみを使って授業をしていました。レベルはクラスによって違いますが、初めて中国語を勉強する人から、難しいテーマのディスカッションをするクラスまであります。

学部または大学院での授業は自由に選択あるいは受講できましたか？また、制約があった場合、どのような制約でしたか？

A さん：中国語以外の授業も自由に受講できたが、単位にはならなかった。

B さん：選択科目があり、必修科目のクラスのレベルによって選べるものが違いました。

1 週間に何コマ履修していましたか？また、制度上何コマまで履修できますか？

A さん：50 分×2 を週に九コマ。何コマでも履修可能。

B さん：一週間に 11 コマ程度履修していました。必修は決まっていますが、選択科目に上限はなかったと思います。

授業についていくのは大変でしたか？また、授業のための準備や課題はどのようなものでしたか？

A さん：自分のレベルにあったクラスなので、そんなに大変ではなかった。プレゼンの準備や、単語テストの勉強などをした。

B さん：初めはリスニングが大変で、授業について行くのも大変でした。授業の準備は科目によって違いますが、あまり必要なく、課題の方が多かったです。課題は作文やプレゼン資料など様々でした。

授業内で現地の学生と親しくなる機会がありましたか？

A さん：あった。

B さん：アンケート調査をしたので、その時交流する機会がありましたが、普段はありません。

課外活動には参加しましたか？もし、参加していれば具体的に教えてください。また参加しなかったのならば、どうして参加しなかった・できなかったのかを教えてください。

A さん：大学生同士の交流会。日本語を勉強している学生と、中国に留学している日本人が交流して友達になる。

B さん：日本語を勉強している現地の学生と交流する企画に参加していました。

授業のない期間はどのように過ごしましたか？（週末あるいは長期休暇）

A さん：日本に一時帰国、旅行、友達とご飯に行く

B さん：旅行やテスト勉強をしていました。

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

何か大きなトラブルはありましたか?どのように対処しましたか?

Aさん: 特になし

Bさん: 親知らずが生えてきて大変でした。ずっと冷やしていました。

【留学後】

帰国する前に準備しておくことはありますか?

Aさん: 中国語のレベルを上げておく

Bさん: 特にありませんでした。

就職活動あるいは大学院入試のために現地でやっていたことはありますか?

Aさん: 特になし

Bさん: 特にありませんでした。

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

飛び込んでから、

いろんなことが動き出す!

生活科学部 人間・環境科学科

1530216 新倉梨加

ブッパタール大学 (ドイツ)

①留学概要

3年次後期の半年間の滞在で建築学部
に所属した。

②留学準備に関して

ビザは日本で事前にとることは出来ず、
現地にて大学の国際課の同伴・サポート
のもと役所にて手続きをし、円滑に行い
ました。英語は交換留学申請前に IELTS
を受験しました (準備1か月間/提出義務
はないが自身のスキルアップとして)。
またドイツ語スコアの提出義務もないで
すが、ブッパタール大学の学部の授業は
ほぼ全てドイツ語で開講されるため多少
のドイツ語を習得しておくと思い
ます。私は1年~2年次で基礎ドイツ語
を履修していましたが、忘れていたため
留学開始から勉強し直しになりました。

奨学金はトビタテ! 留学 JAPAN に参
加することで受給しました (7期)。合
格までの事前準備は国際教育センターの
先生方にご指導いただき、6期には不合
格になりましたが7期で採用になりました。
トビタテは受給額が大きいことは勿
論魅力の一つですが、加えて、かたい意
思を持って同時期に留学するたくさんの
同世代に出会えることが素晴らしいと思
います。事前研修では自分と同じ建築分
野で留学する人・ヨーロッパへ行く人と

いった様々な繋がりが生まれ、実際にヨ
ーロッパ内で旅行した際に訪ねたりしま
した。

③留学中のことに関して

<大学内>

滞在は大学寮 (本キャンパスから坂道
徒歩約5分) で、新しく、冬も快適でし
た。私の部屋は2人部屋で、ベッド・机
イス・クローゼット付きの個室と、共用
のキッチン・シャワー・洗面という構成
でした。私はルームメイトが同学科の同
期だったため不自由なく暮らせました。

(1人部屋もありました。) また、洗濯
は寮内のコインランドリーを使用してい
ました。

ドイツ語の語学コースは1週間のうち
平日に4日間、8:15-11:45で、語学能力
試験 Goethe-Institut の合格を目的とし
たもの。学期始めにクラス分けテストがあ
りましたが希望すればレベルの移動は可
能で、宿題の量はクラスによる印象でし
た。また節目ごとに Goethe-Institut の試
験があります。私は建築の授業に重きを
置きたかったため先生に頼んで出席を週
に3回にしていました。

建築の授業は1年生のものを3つ (ド
ローイング系2つ、建築史1つ) に参加
していました。どちらもドイツ語での開
講のため単位取得は困難と思い、履修申
請はせず課題のみに取り組んだり聴講し
たりしました。日本での学習方法と異な
り、手書きの仕方をみんなで複数実践し
てみることに始まり、その後は各自の部
屋という最も身近なものを題材として部

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

屋のスケッチや採寸をもとにした図面作成、模型製作、独創的な変形の模索など、非常に面白い授業展開でした。授業でわからないところは多々ありましたが、クラスで友達ができたので訳してもらったりしました。この子たちとは帰国後もコンタクトを取り続けており、とても大切な出会いでした。

<大学外>

トビタテ！留学 JAPAN7 期としての留学だったため、「飲食環境と建築・まちの関係を探る」という自身のテーマをもとに、地元のアレンベルクというエリアにおける住民主体の活動に参加しました。渡航前にはその存在を知らなかったため、飲食環境というのを広場など公共スペースにおける飲食店と飲食場所の在り方をいくつかの街において調査する計画でいました。ところがレストランデイという、一般の人々が自宅を開放するなどして手料理をふるまうイベントを偶然知り、参加した際に地元の人々と親しくなり、話を聞くうちに開催場所が空き家を改修したものであったことや、定期的にみんなで食事を囲みながら街のことに関するミーティングを行っていることを知り、これが「飲食環境とまち・建築」の在り方だと感じました。それ以降、街の人たちと時折コンタクトを取りながら話を伺ったり、別の持ち寄りパーティーには手巻き寿司を持参して参加したりし、最終的に伺ったことをスケッチと一緒に手製の地図にまとめてお渡ししました。

また、ある時美術館のカフェに行った

際、同じテーブルにいたドイツ人老夫婦が Tokyo、Japan... と話しているように聞こえたため声をかけてみたところ翌週から日本に旅行される予定だとおっしゃっていたので、日本の私の友人やおすすめの場所などを紹介しました。その後実際に日本でそれらを訪れてくれ、クリスマス頃には Aachen (アーヘン) ご自宅に招待して下さい、まち案内やドイツ料理の夕食を振る舞っていただくというとても心温まる経験をしました。

他にも数多の出会いがありましたが、そのすべてが話しかけることから始まっていました。日本では隣の人に話しかけることなんてなかなかできなかったけれど、自分が外国人である環境だったことが後押しとなり、ドイツ語があまり出来ない恥ずかしさなど全く頭にも浮かばず、ただ新しいワクワクに出会える期待と好奇心からたくさんの人とおしゃべりをしました。

学内外問わずこれらの経験から、「知らないもの・こと・ひと」に飛び込むことが、まだ見ぬワクワクの始まりになる！と強く感じました。

④留学後の進路について

渡航前から大学院進学をするつもりで、お茶大の卒業を遅らせたくなかったため、帰国後すぐに院試準備に取り掛からなければならぬことは分かっていたのですが、滞在中はその時しかできないことに集中したかったため特に院試勉強は行いませんでした。ただ、トビタテ！を通じて出会った他大学院の建築分野の先輩方から

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

それぞれの所属研究室の話などを伺うことが出来、進路決定に大きな助けとなりました。就職に関しては具体的に決まっていますが、建築意匠設計系に就きたいと考えているため大学院で学びを深めようと考えています。

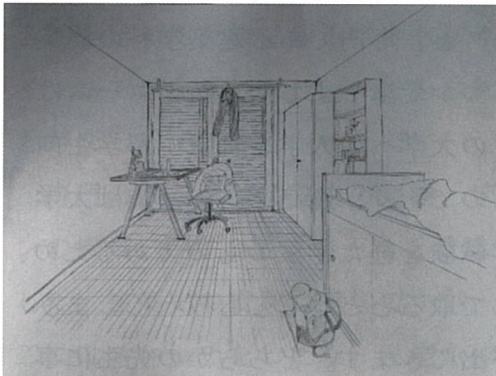
寮の自室 (課題でのスケッチ)



レストランでの出会い



語学コース



アーヘンのご夫婦宅でドイツのクリスマス

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

ドイツ留学を終えて

生活科学部 人間・環境科学科

1530214 千葉まどか

バーギシェ・ブッパタル大学(ドイツ)

1. 留学準備に関して

ビザ

日本のパスポートを持っていると、ドイツにはビザなしで3ヶ月間滞在できます。そのため、ビザの取得は渡航後でした。と言っても、事前に何もしなかったわけではありません。留学中の経費負担証明書や、保険加入の証明書など、ドイツ外務省のサイトに掲載されている必要書類を全て揃えてから出発しました。

ドイツに到着した後、先方の大学の国際課の方の指示に従ってビザを取得しました。手数料を支払う必要がありますが、全て国際課の方が代理で手続きをしてくださいました。その際、事前に準備していった書類はほとんど必要ありませんでした。

語学

ブッパタル大学へは、何のスコアも持たずに留学できます。そういう点で、留学へのハードルが低い大学と言えます。しかしながら、特に学部の授業はほとんど全てドイツ語で行われるため、希望の授業を取るためにも、ドイツ語の勉強をしていくに越したことはありません。また、留学生同士でコミュニケーションをとるときや、教授にドイツ語についていけない部分のフォローをしていただくときには英語を使うため、英語の勉強もしていくに越したことはありません。

恥ずかしながら、出発時の私のドイツ語力は中学1年生で習う英語程度、英語力もいわゆる受験英語しか知らない状態でした。留学中は、言いたいことが言えず、何を言われているのかもわからず苦勞する場面が多々ありました。それでも、身振り手振りや単語の羅列で何とかなりましたし、日々ドイツ語に触れることでメキメキ上達していくのも実感でき、とても楽しかったです。

結論として、語学力が不十分でも、とにかく飛び込んでしまえば何とかできます。できる範囲で事前に勉強した上で、足りない部分は楽観的に行きましょう。

2. 留学中のことに関して

学習面

私は平日午前中に行われるドイツ語語学コースと、専門である建築学科の授業をいくつか受講しました。語学コースはドイツの大学への入学を目指す留学生向けのものであり、建築学科の授業は大学の入学試験を経た学生のものであるため、平行して取るとどうしても被ってしまう時間が出てきます。どちらかの先生に事情を話して休ませてもらったり、友達に抜けた分を教えてもらったりしてやりく



(語学コース修了時のクラス集合写真)

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

りしていました。

語学コースは、先述した通り、DSH と呼ばれる、留学生在ドイツの大学に入学するために必要な語学資格を取得するためのコースです。最初に簡単なテストを受け、A1 から C1 までのクラスに振り分けられます。私は A2 から始め、最終的に DSH (C1 レベル) を取得することができました。A1、A2 のクラスはまさに語学コースといった趣で、ひたすら文法を習い、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングと、進級テストに向けた訓練を繰り返しました。B1 以上になると、簡単な数学を習ったり、グループを組んでプレゼンテーションをしたり、ドイツの歴史と文化について学ぶ合宿に行ったり、単純な語学だけではない授業も取り入れられました。この頃になると、当初と比べて英語に頼る割合も減り、ドイツ語でコミュニケーションを取ることが楽しくて仕方なかったです。

専門の授業は、建築史の授業、デザインの授業、CAD の授業の三つを受講しました。建築史の授業は座学ですが、他の二つはスケッチをしたり、模型を作ったり、図面を描いたりと実際に手を動かす機会が多く、楽しかったです。ドイツの大学は、日本の大学のように 1 コマ 90 分と縛られておらず、授業ごとに長短があります。私のとった中では、デザインの授業が朝から夕方までの長い時間で設定されていました。午前中に講義をして午後はアドバイスを受けながら作業をしたり、後述のセメスターチケットを利用して一日かけてスケッチ遠足に出かけた

りと、座学だけでは終わらない時間の使い方がなされていました。1 コマの中で多面的で深い学びができる良いシステムだと思いました。授業は全てドイツ語で行われますが、わからなかった部分を質問しに行くと、大抵の教授が英語で対応してくれます。特に留学当初はほとんど理解できなかったため、説明した課題の内容をもう一度はじめから英語で説明し直してくださるなど、大変手間をかけていただきました。

生活面



(留学生グループでピザレストランに行ったときの様子)



(授業中の作業風景)

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

大学付属の寮に住んでいました。大学のすぐ隣にあり、通いやすいです。大学は山沿いに立地しています。そのため、寮と大学間、寮と街間で坂を上り下りする必要があり、慣れるまでは大変でした。寮から五分歩けばスーパーマーケットがあり、二十分歩けば駅やショッピングモールがある街中に出られます。必要なものは大体揃えられるし、物価も日本に比べて安かったのが、暮らしやすい場所でした。

また、半期に一度、大学に三万円ほどお金を払わないといけないのですが、そうするとセメスターチケットと呼ばれるチケットがもらえます。これを持っていると、州内の公共交通機関を無料で利用することができます。ブッパタール大学の位置するノルトライン・ヴェストファーレン州はドイツの中でも大きな州であり、ケルン、デュッセルドルフ、ボン、アーヘンなど大きな都市や歴史ある都市

がたくさんあります。休日にはセメスターチケットを利用してこれらの色々な都市に出かけていました。

3. 留学後の進路について

この留学をきっかけに、例えば海外の大学院を目指したいとか、海外で就職したいとか、そういった将来の展望に対する変化は私の場合はありませんでしたが、留学中、自国で大学を卒業した後にドイツの大学に入り直している人、難民生活を経て大学入学を目指し頑張っている人、一旦就職した後により良い職を求めて再入学する人、半分働きながら半分院生をやっている人など、同じ大学内というフィールドでも様々な人と出会うことができました。日本で大学生をやっていると新卒就職というルートに縛られがちですが、本当は生き方って色々あるんだなあと感じたことが留学の大きな財産の一つになりました。

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート ブレーメン応用科学大学への 留学を終えて

理学部 物理学科 4 年

G1520220 三浦桃子

ブレーメン応用科学大学(ドイツ)

◆ 留学準備

宿泊先については、大学が提供しているサイトで探し大家さんに連絡をとってお部屋を借りました。選択肢には、ホームステイやルームシェアなどの形態もありましたが、私は一人部屋という形を選びました。

ドイツでは健康保険に必ず加入しなければならなかったもので、渡航前に TK という保険に加入しました。大学に留學生の TK 保険の管理をしてくださっている方がいたので、その方とメールでやり取りをして手続きを進めました。

また、日本国内でビザの取得が出来なかったもので、日本のドイツ大使館で経済負担証明書等の書類を取得し、現地でのビザ取得に必要な書類を用意しました。現地でのビザ取得場所は、ブレーメン大学のオフィスで、留学中にそこへ行き申請をしました。

現地に行くまで知らなかったことなど多々あったので、もっと情報収集をしておけばよかったと思いました。



◆ 現地での生活

ブレーメンは比較的治安が良く、大きな問題なく過ごすことが出来ました。日本よりはスリなどの犯罪は多いので、携帯電話やお財布の管理には気を付けていました。

物価については、日本とほとんど変わらなかったと思います。文房具など少し高いと感じる物もありましたが、日用品や食料品は比較的安く、質を求めなければ安価で購入することが出来ました。

ドイツ国内では、基本的に英語が通じるので、銀行開設及び諸手続きは英語で行うことが出来ました。しかし、やはりドイツ語が理解できないと、交通情報や郵便物など分からなくて不便なことも多くありました。

ドイツの人たちは一見怖そうに見え

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

ますが、話してみると優しい人も多く、コミュニケーションをとることが出来ました。比較的時間に厳しい人が多いので、日本と同様時間には気を付けて行動していました。

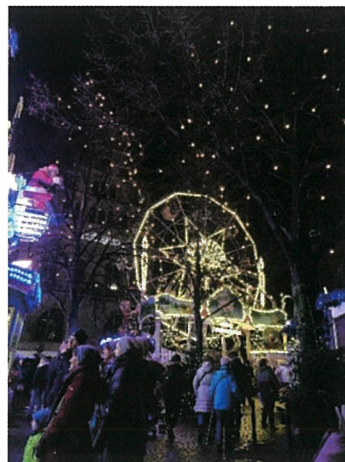


門に勉強しました。正直内容はとても難しかったですが、同じ講義をとっているインド人の友達と協力して課題をこなし、何とか頑張っていました。後半は、語学に重点を置いて受講しました。同じ学部には日本人はいませんが、他大学から20人ほど留学生として来ているようで、英語などの語学の授業ではちらほら見られました。

空いている時間は、現地でできた友達と会って食事をしたり勉強をしたりしました。特に中国の留学生たちと仲良くなったので、お家に招いてもらい休日を過ごすこともありました。友達とクリスマスマーケットへ行ったり、大家さんの家族の実家にお招きいただき、その親戚の方と共に伝統的なクリスマスを楽しんだりすることができました。長期期間中は、友達と旅行をし、イタリアやフランス、アイスランドへ行き、日本では見ることの出来ない景色やすることのできない経験を存分に楽しみました。

◆ 授業及び課外活動

お茶大では学部生ですが、現地では大学院生コースに入り、電気工学を専



WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

◆ 留学後の進路

留学によって具体的に将来の進路が決まったということはなかったですが、考え方には大きく影響がありました。外国に身を置き、客観的に自分を見ることで、また今までとは違う自分を発見し、自分自身及び日本という国への理解が深まりました。また、様々な経験をして色々な世界を見たことで、自分の無知さを強く実感し、広い分野のあらゆることを学びたいと思うようになりました。

◆ 留学を終えた感想

学部一年次にフランスへ約一か月の短期留学をした際、その一か月間は全

てのことが新鮮で本当に楽しかったのを覚えています。しかし、今回の約一年間の留学は、やはり辛いことの方が多く、留学中も日本へ帰りたいと何度も思いました。その分、現地で出会った友達とは濃い関係性を築くことが出来ましたし、また、良いものも悪いものも含め数多くの経験をする事ができました。この留学を通して私自身が良い方向へ変わったかというのは正直自信を持って言うことはできませんが、様々な感情をもってした経験は一生ものだと思うので、それらが活かされるよう、これからも精進していきたいと思えます。このような留学の機会を頂くことが出来たことに感謝します。

WHAT?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

派遣されていた期間

A さん：2017.10 月～2018.3 月

B さん：1 年間

C さん：2017.10 月～2018.6 月

【留学前】

語学能力試験のための準備はどうしましたか？（必要だったスコアは？）

A さん：IELTS 受験（準備 1 ヶ月/スコアは必須ではなかったが英語力向上のため）

B さん：お茶大のドイツ語の授業を受講しました。（留学前にスコアは特に必要ありませんでした）

C さん：英語については TOEIC や TOEFL のスコア、ドイツ語についてはドイツ語検定の証明書を提出しました。授業についていけるレベルということで、特に具体的なスコアは求められなかったように思います。

ビザの取得はどのようにしましたか？

A さん：現地大学の指示のもと現地にて取得（日本で取得は不可能だった）

B さん：ビザは現地に着いてから、先方の大学の国際科の方が日本人留学生の分をまとめて取ってくれました。

C さん：まず、日本のドイツ大使館で経済負担証明書を取得しました。そして、ドイツの大学内にある事務所へ行き、パスポート、経済負担証明書などを見せ、その場で記入した書類を提出し、ビザを取得することが出来ました。

航空券の手配、海外旅行保険などの準備はどのようにしましたか？

A さん：2 ヶ月前に航空券、保険に加入

B さん：航空券は HIS で取りました。保険は、お茶大で勧められた保険と、ビザ取得のための現地の保険 2 つに入りました。

C さん：往路の航空券については日本で、復路については留学中にインターネットで申し込みました。ドイツでは、健康保険の加入が必須だったので、それと共に日本の海外旅行保険にも加入しました。

宿泊先はどのように選びましたか？

A さん：入寮までの 1 泊、到着したデュッセルドルフ中心部のホテルに宿泊（日本で booking.com より予約）

B さん：先方の大学の寮に申し込みました。

C さん：派遣先大学が管理する宿泊先探しのウェブサイトにて、自分の希望に沿ったものを見つけました。私は、主に、通学の利便性や家具や電化製品の設備状況、家賃に注目し探しました。

【留学中】

居住形態と住み心地はどうでしたか？

A さん：非常に快適、大学まで至近

B さん：寮の形態は、完全に 1 人暮らし、もしくはキッチン、バスを共有する 2 人暮らしのどちらかでした。私は 2 人暮らしでしたが、寮は清潔で広く、また大学に近く、暮らしやすかったです。

C さん：下宿に近い形で、大家さんの家の部屋を借りて住んでいました。大家さんと会うことはほとんどなく、また一人部屋だったので快適に過ごすことが出来ました。

1 ヶ月の居住費はいくらくらいでしたか？（日本円で）

A さん：寮費 約€235（電気水道ネットなど諸費用込み）

食費は自炊で€200 程度

その他 交際費

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

B さん：電気、水道、インターネット込みで3万円ほどでした。

C さん：約4万円

1ヶ月の生活費はいくらくらいでしたか？また、物価は東京と比べてどうでしたか？

A さん：外食をしなければ格段に東京より安い

B さん：外食したり、休日に少し遠出をしたりする費用も込みで、月6万円ほどで生活していました。

C さん：平均すれば、物価は東京とほとんど変わらなかったと思います。

勉強にかかる費用はどれくらいでしたか？

A さん：ほぼゼロ。模型材料を買う程度

B さん：半年に1回、大学に3万円ほど支払う必要があります。これによって、セメスターチケットと呼ばれる、州内の公共交通機関に乗り放題のチケットがもらえます。また、それとは別に語学コースの費用として半年に1回3万円ほど必要でした。

C さん：一年間の参考書と語学の授業の費用で約2、3万くらいだと思います。

大学周辺の雰囲気はどうでしたか？

A さん：学生と家族世帯が多い。安全。

B さん：山沿いにあり、大学と学生寮しかないのが治安はとてもよいです。20分ほど歩くと街まで出られます。

C さん：非常に落ち着いていました。少し離れると中心街がありました。

現地の気候はどうでしたか？

A さん：冬学期だったため寒かった

B さん：冬は寒かったですが、夏は乾燥していて日本よりも過ごしやすいです。

C さん：夏の後半からだいぶ寒くなりました。冬は雪が降りマイナスの気温にもなり、防寒対策が必要だと感じました。夏は湿気は少ないものの、日差しでとても暑く感じました。

生活する上で日本から持って行った方が良いものは？逆にいらぬものは？

A さん：ダニ取り（滞在初期、支給された布団があまり綺麗でなく、ダニがいたようで嘔まれた）

B さん：自炊なので、菜箸があると便利でした。あと、折り紙を持って行くとちょっとしたプレゼントにしたり包み紙にしたり何かと使いました。

C さん：防寒着を多く持っていくべきだったと後悔しました。マスクやカイロなども便利だと思います。一方で、教材についてはかなり荷物になるので持っていく必要はないと思います。大抵のものは現地で手に入れることができます。

現地で注意した方がよいことはありましたか？

A さん：スリ。友人で被害多発。

B さん：特に思い浮かびません。

C さん：やはり日本に比べるとスリなどの犯罪は多いので、常に注意を払って行動していました。

現地で語学学習に特化したクラスを受講しましたか？受講していた場合、クラスの形態（開催時期）・内容・レベルを教えてください。

A さん：宿題あり（量にはクラス差あり）。A2に入るよう言われたが、先生が合わなかったのと建築の授業とトビタテ実践活動関連を優先させるために、クラスを下げてもらった。クラスメイトは国際色豊かでとても楽しかった。

B さん：朝8:15～11:45まで、週4回か5回の授業を受講していました。最初にテストがあってレベル別に振り分けられます。私はA2のクラスから始め、1年でC1を終

WHAT ?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

了するところまで行きました。リスニング、スピーキング、ライティング、リーディング、全てをがっちり鍛えてくれます。

Cさん：ドイツ語のA1.2、A2.1レベルの授業、英語のB1.2～B2.2の授業、また、フランス語のA1.1の授業を受けました。時間帯は、ほとんどが夕方から夜にかけて行われていました。

学部または大学院での授業は自由に選択あるいは受講できましたか？また、制約があった場合、どのような制約でしたか？

Aさん：ドイツ語授業のために午前の授業を履修できなかった。ドイツは学部が3年間のため、私は滞在時三年だったが、3年生は卒業研究や高レベルな授業であることから、3年生の授業は取れなかった。代わりに1年生の基礎的な授業に参加したが、それはそれで興味深く、楽しかった。

Bさん：選択は全く自由でしたが、ほぼ全ての授業がドイツ語のため、私は語学力の問題を考えて予定していたより易しい授業を取りました。

Cさん：自分の専門学問内ならば自由に選択して授業をとることが可能でした。

1週間に何コマ履修していましたか？また、制度上何コマまで履修できますか？

Aさん：ドイツ語 週3回（建築の授業のため、本来4回だが1日は許可をとって休んでいた）。建築3コマ。

Bさん：週に3コマ履修していました。制約はないので何コマでも可能ですが、語学の授業もあるため時間は結構厳しいです。

Cさん：前期は5,6コマ、後期は3,4コマ受講していました。制限はありませんでした。

授業についていくのは大変でしたか？また、授業のための準備や課題はどのようなものでしたか？

Aさん：ドイツ語

初学者向けのクラスのため、「使うこと」を重視した会話形のクラス。ドイツ語習得が目的ではなく、また半年しか滞在しない私にとっては、手取り早くドイツ語に馴染むのにちょうどよかった。

Bさん：私は専門が建築なので、建築史の授業、デザインの授業、CADの授業の3つを取りました。ドイツ語についていけない時は友達に通訳してもらったり、教授に英語で対応していただいたりしました。課題は模型を作ったりスケッチをしたりといったものが多く、楽しかったです。

Cさん：語学の授業は自分のレベルにあったものでしたが、専門科目は自分にはかなり難しかったです。今まで使ったことのないプログラムや機械などを扱うことがあり、それについては自力で勉強しなければなりませんでした。課題については、レポートやプリントなどがありました。

授業内で現地の学生と親しくなる機会がありましたか？

Aさん：インターナショナルサークルのようところが開催するイベントが多くあったが、ヨーロッパ人がヨーロッパ人同士で仲良くなる場という印象が強く、肌に合わなかったのであまり参加しなかった。初めのオリエンテーションで仲良くなった子友達になり、その子からまた新たな友達ができ…といった具合に輪は広がった。その友人たちと出かけたり、ルームパーティをしたりした。

Bさん：授業ではグループワークも多かったので、現地の学生とも親しくなれました。

Cさん：授業内で協力して課題に取り組む中で、他の学生と親しくなることが出来ました。また、休み時間中にコミュニケーションをとることが多かったです。

課外活動には参加しましたか？もし、参加していれば具体的に教えてください。また参加しなかったのならば、どうして参加しなかった・できなかったのかを教えてください。

Aさん：日本語タンドムには参加しなかった。他のことで日々けっこう疲れたため。

WHAT ?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

- Bさん：日本人留学生と、日本語を学ぶドイツ人学生との集まりに参加していました。勉強というよりは、おしゃべりしたりゲームをして遊んだりといったゆるい雰囲気でした。
- Cさん：課外活動には参加しませんでした。サッカーなどがあったようですが、私はあまり興味がありませんでした。しかし、留学生のために企画されたイベントには参加し、他の学生と親睦を深めたり、街を散策したりしました。

授業のない期間はどのように過ごしましたか？（週末あるいは長期休暇）

- Aさん：旅行
- Bさん：友達と遊んだり、近隣の国に旅行に行ったりしていました。
- Cさん：長期休暇は、現地ですでた友達と旅行をしました。また、週末もその友達と過ごすことが多かったです。

何か大きなトラブルはありましたか？どのように対処しましたか？

- Aさん：とくになし
- Bさん：特にありませんでした。
- Cさん：特にありませんでした。

【留学後】

帰国する前に準備しておくことはありますか？

- Aさん：なし
- Bさん：来る時よりも荷物が増えたので、二箱ほど先に荷物を送りました。住民登録の解除など、必要な手続きはいくつかありますが、全て国際科の方からメールで指示していただけるので心配はないです。
- Cさん：現地で契約したものを破棄したり、書類を集めたりするだけだと思います。

就職活動あるいは大学院入試のために現地でやっていたことはありますか？

- Aさん：院試を考えていたが、滞在中はここでしかできないことを存分に行い、勉強は帰ってから集中しよう決めていた。強いて言えば、TOEFLが院試に必要なため、単語帳アプリで単語暗記をしたり、友人と積極的に英語で会話するようにした。
- Bさん：特になし。
- Cさん：明確にそれらのためにしていたことはありませんが、今後自分自身が進んでいく方向性を考えながら学習していました。

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

タンペレでの留学生生活を

振り返って

文教育学部 人間社会科学科

グローバル文化学環

1510439 光野 静

タンペレ大学 (フィンランド)

1. 人に支えられた留学前の準備期間

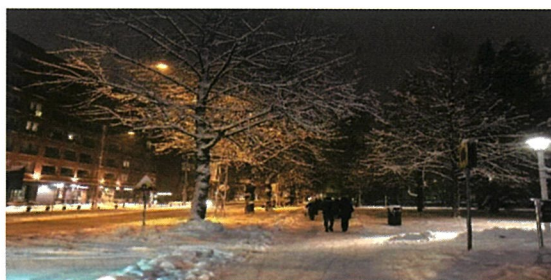
英語の勉強はもちろん必要でしたが、予想外に時間を使ったのがビザ申請で、それ以外に学生チューターの存在に助けられました。

・ビザ取得までの道のり

フィンランドのビザは、事前にオンライン申請すると取得までの日数が短縮されるので、渡航までの時間が短い留学生にはお勧めです。私の場合、オンライン申請後、実際に大使館に足を運ぶ際にパスポートを忘れるという痛恨のミスをしました。できるだけ早く申請しないと渡航までのビザ取得が厳しい時期だったので、その日中に申請しなければならず、大使館のスタッフの方の優しさで時間外の対応をしていただきました。1日に大使館と家を2往復したのですが、真夏の日的大使館までの坂道がかなりきつかったのが思い出深いです。さらに、もう一つ問題が起きました。ビザ申請には海外旅行保険の取得を証明しなければならなかったのですが、私の保険証書にはフィンランドで有効であることが明記されていませんでした。そのため、保険会社をお願いしてその一文を記載してもらった後に、修正された書類を別途大使館に郵送することになり、そのやり取り等に

時間を要しました。

- ・学生チューターに感謝！



<タンペレの雪景色>

留学前の準備で助けてくれたのが、現地のフィンランド人学生チューターです。留学先のアパートの鍵を事前に取りに行ってくれたり、空港までのお迎えを友達に頼んだりしてくれました。着いてすぐ、不安な時期と一緒に IKEA まで行って家具をそろえるところまで付き合ってもらい、本当に助かりました。どのくらいの関わりを持つかは人それぞれですが、私の場合は生活していてわからないことがあればよく聞いていました。拙い私の英語でも丁寧に聞いてくれて本当に安心できる存在でした。

新しい発見ばかりの留学生生活

- ・タンペレ大学の授業



<Cultural Conversation>

大学では、国際関係学・フィンランド語・異文化交流の授業を主に履修していました。お茶大の自由選択の単位はすでに取り終わっていたので、単位に執着せず気軽な気持ちで自分のペースで受けて

WHAT ?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

いました。一番困ったのは、専門用語の多い国際関係分野の授業です。自分の政治的な意見を表現するのも、新しい知識を英語でインプットするのも想像以上にハードで、政治英語に慣れるために定期的に海外のニュースサイトを見るようにしていました。フィンランド語の授業は、日常会話がメインで、日々の買い物やお出かけで役立ちますし、覚えた言葉を実際の生活で使える楽しさがありました。そして、異文化交流の” Cultural Conversation”の授業は、フィンランド人・中国人の女の子とグループを組んで、フィンランド料理を食べに出かけたり、それぞれの文化を紹介しあったりして、その活動を英語で記録するものでした。英語を自分から話す場にもなる上に、フィンランドの新たな面も知ることができる、私にとって魅力的な授業でした。

・初めてづくしの国内、海外旅行

大学の無い期間は、留学先の友達と旅行に行くことが多かったです。海外の友達と旅行に行くというのは私にとって初めての経験で、旅行中の時間の使い方や、盛り上がるポイントの違い、旅行先で暮らす人たちの雰囲気など、国によって文化は本当にそれぞれなんだなあ、と実感する瞬間が何度もありました。例えば、自分のやりたいことを主張しすぎて険悪なムードになることもあれば、オランダ人の女の子が旅行で知り合った男性をコテージに連れて帰ってくることもありました。文化の多様性を尊重する大切さは、授業等や一般論を通して認識していたつもりはあったのですが、いざその状況に

遭遇した時は驚いたし戸惑いました。でも文化や人によって価値観が違うことを実際に経験することで、理解を深められ、自分自身の他者への寛容性の幅が広がったと感じています。

1. 留学でつけた自信で、次のステップへ

今回の交換留学は、海外がもっと好きになると同時に、色々な人に支えられながらも海外生活への自信が付き、次のステップへの大きな契機となりました。もともと国際協力業界に関心があった私は、大学卒業後のキャリア選択について悩んでいました。タンペレでの生活が終わりに近づくにつれて、もっと海外での生活を経験したいという気持ちを持ち始め、せっかくなら途上国で活動をしているNPOの現場を見るためにインターンしようかと決断しました。その途上国でのNPOインターンは自分にとって刺激的で、新しい人や知識、世界との出会いの連続でした。インターンを経て、国際協力分野に限らず、独自のビジョン・ミッションを掲げて社会問題の解決に取り組んでいる人や団体、企業にとっても魅力を感じるようになり、自分のキャリア選択の軸を、ぼんやりとではあるものの見つけることができました。カンボジアに行こうと決断することができたのも、タンペレ生活のなかで異文化や様々な人との出会いから、海外生活の楽しさを知ることができ、

自信がついたからだと思います。



<仲良しメンバーで国内旅行>

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

派遣されていた期間

Aさん：2018年8月～2018年12月（5ヵ月）

Bさん：2017年8月～2018年6月

【留学前】

語学能力試験のための準備はどうしましたか？（必要だったスコアは？）

Aさん：IELTS6.5以上が必要だったが、勉強不足で5.5しか取得できなかった。しかし、英語の先生にサポートレターを書いていただき、留学することができた。

Bさん：IELTS 6.5の取得が必要でした。公式のテキストを購入し演習、またオンライン英会話を通してスピーキングの練習をしました。

ビザの取得はどのようにしましたか？

Aさん：オンラインで取得申請をしてから、実際に必要な書類をもって広尾にある大使館に行った。オンライン申請を先にした方が、発行するまでの時間が短縮される。

Bさん：フィンランド大使館のホームページに申請方法について詳しく記載があるので、そちらを参考に進めていきました。移民局のサイトから電子申請をした後、大使館に直接書類を提出しに行く必要があります。審査の後、在留許可カードは郵送で受け取ることができました。

航空券の手配、海外旅行保険などの準備はどのようにしましたか？

Aさん：航空券は、派遣先大学が進める arrival day に合わせて自分でとり、海外旅行保険は大学が推薦する保険に加入した。

Bさん：5月下旬にアクセプタンスレターを頂いてから、往復の航空券を予約しました。帰国日は未定だったので、帰国日が後から変更できるものを選びました。渡航海外保険は、Student Insurance Program(SIP)という海外のものを利用しました。

宿泊先はどのように選びましたか？

Aさん：タンペレにある留学生向けのアパート管理会社がもるアパートから値段の安さを軸に選んだ。

Bさん：大学と提携する、学生向けの住居を所有・管理する団体を通して応募しました。市内の留学生を含む大学生のほとんどが利用します。

【留学中】

居住形態と住み心地はどうでしたか？

Aさん：二人用ベッドルームが2つあり、計4人で生活した。ベッドルームをシェアということで、プライベート空間はなかったが、寝るとき以外はお互い家にいることがなかったので、そこまで苦ではなかった。フィンランドは寒いですが、お湯暖房で室内が一定の温度に保たれているので特に寒いという実感はなかった。

Bさん：最初の半年間は、個室以外を3人でシェアするフラットに住んでいました。家賃は少し高めでしたが、設備は充実していて、家でサウナも楽しむことができました。残りの期間は、キッチンだけをシェアするアパートに滞在していました。住人が多く、留学生同士の交流をより楽しむことができました。

1ヶ月の居住費はいくらくらいでしたか？（日本円で）

Aさん：3,1000円

Bさん：最初のフラットは約60,000円。二つ目のアパートは約35,000円。

1ヶ月の生活費はいくらくらいでしたか？また、物価は東京と比べてどうでしたか？

Aさん：約8万円。消費税がとても高いので、それに伴い物価も高い。

Bさん：4~5万円。スーパーで買い物する分にはあまり高いとは感じません。外食は東京と比べると少し高めですが、学生向けのディスカウントを提供するレストランや

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート
カフェも多いので、頻繁に利用していました。

勉学にかかる費用はどれくらいでしたか？

A さん：とくになし

B さん：テキスト代。一年を通して履修した語学のテキストがトータルで 5 千円ほど。

大学周辺の雰囲気はどうでしたか？

A さん：少し歩けば中心街まで行けた。でも全体的に都市というわけでもなく穏やかな街。

B さん：文化施設や公園があり、とても過ごしやすい雰囲気でした。街の中心からすぐのところにるので、買い物や駅に行くにもとても便利です。

現地の気候はどうでしたか？

A さん：夏頃は涼しくて過ごしやすかったが、11 月ころからぐっと寒くなった。氷点下になることもしばしば。でも室内はとても暖かいので、外さえしのげば大丈夫。あと凍った地面に足をとられて、滑って転ぶことも数回あった。

B さん：夏は短く、冬が長いです。寒い時には-20 度以下になることもありました。除雪などの道路整備やバスの路線は充実しているので、通学や外出に困ることはありませんが、しっかり防寒する必要があります。夏はとても穏やかで、暑すぎず過ごしやすいです。

生活する上で日本から持って行った方がよいものは？逆にいらぬものは？

A さん：ドライヤーやヘアアイロンなど。厚手のコートは現地で調達したほうがよい。持っていくのも大変だし、現地のものの方があたたかく実用的。家具などは IKEA で購入できるのでわざわざ持っていく必要はない。日本の調味料は現地で買うと高いので、余裕があれば持っていくのがおすすめ。

B さん：カイロやヒートテック、日本の調味料。アジア系のスーパーはありますが、かなり割高です。日用品はほとんどが現地でそろいます。8 月にはすでに秋らしい気候になってくるので、夏服はほとんど必要ありませんでした。

現地で注意した方がよいことはありましたか？

A さん：バスカードの紛失。1 か月乗り放題のバスカードをなくすととっても不便なので要注意。

B さん：玄関の鍵は扉を閉めると勝手に閉まってしまうので、鍵を持って出ないと開けられなくなります。

現地で語学学習に特化したクラスを受講しましたか？受講していた場合、クラスの形態（開催時期）・内容・レベルを教えてください。

A さん：フィンランド語。週に 2 コマ。レクチャーだか、授業中の実践を重視する先生だった。日常会話レベルの授業で、読み書きより、会話を重視していた。基本的な文法や挨拶などは習得できた。

B さん：フィンランド語の授業を毎ピリオド受講していました。クラスは 30 人ほど、文法中心ですが、会話やゲームなども楽しみました。レベルは段々上がっていくので、連続して受講する必要があります。

学部または大学院での授業は自由に選択あるいは受講できましたか？また、制約があった場合、どのような制約でしたか？

A さん：文系だったので必要なスキルもなく、自由に選択できた。大学院の授業も聴講できた。

B さん：所属する学部以外の授業は、専門の学生が優先、または履修ができないものもありましたが、基本的には自由な印象を受けました。

WHAT ?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

1 週間に何コマ履修していましたか？また、制度上何コマまで履修できますか？

A さん：何コマでもとれる。6～8 コマくらい。これだと予習復習をきちんとしようと思うと少し多いので、減らしてもよかった。

B さん：5～6 コマ

授業についていくのは大変でしたか？また、授業のための準備や課題はどのようなものでしたか？

A さん：英語を聞き取って自分の意見を英語で言わなければいけないので大変だった。予習は使用しているテキストを読み込んだりした。課題は、期末の時期のレポート提出が中心。

B さん：語彙力の不足から話についていくのが大変なこともありましたが、その都度調べて全体像を把握することを心がけていました。語学以外の授業の課題はエッセイが多かったです。

授業内で現地の学生と親しくなる機会がありましたか？

A さん：あまりなかった。留学生と仲良くなる方が多い。

B さん：留学生向けの授業を中心に履修していたので、授業内で会うことは少ないですが、Language Exchange のマッチングが積極的に行われていて、仲良くなる機会がありました。

課外活動には参加しましたか？もし、参加していれば具体的に教えてください。また参加しなかったのならば、どうして参加しなかった・できなかつたのかを教えてください。

A さん：日本人コミュニティのイベントに参加し、そこで日本に興味のあるフィンランド人と仲良くなった。一緒にゲームをしたり、ホームパーティや、language exchange などを行ったりした。

B さん：日本語を勉強するフィンランド人と、タンペレに在住する日本人のグループに参加していました。言語学習、文化交流やホームパーティーを楽しみました。また、バドミントンのグループに参加し、定期的に体を動かしていました。

授業のない期間はどのように過ごしましたか？（週末あるいは長期休暇）

A さん：留学生の友達と旅行に行った。

B さん：友人と近隣の国に旅行したり、友人のフィンランド人のお家に遊びに行ったりして過ごしていました。

何か大きなトラブルはありましたか？どのように対処しましたか？

A さん：とくになかった

B さん：特にありませんでした。

【留学後】

帰国する前に準備しておくことはありますか？

A さん：荷物の整理。スーツケースに入りきらない場合は、郵送しないといけない。

B さん：奨学金の書類に必要なサインをもらったり、成績証明書の郵送の手続きをしました。

就職活動あるいは大学院入試のために現地でやっていたことはありますか？

A さん：とくになし。

B さん：就職活動を見据えた自己分析。自分と向き合う時間が多くなるので、気づいたことなどはメモするようになっていました。

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

パリ・ディドロ大学

文教育学部言語文化学科
仏語圏言語文化コース四年
根建真衣子

私がフランスに留学しようと思った理由は、フランスで実際に生活しながら、文化や価値観を肌で感じたいと思ったからです。留学期間は半年間で、想像以上にあっという間に感じましたが、本当に貴重な経験ができました。

大学では社会学部に所属していました。社会学を勉強するのは初めてだったので、学部1年生向けの、「社会学入門」と、「人類学入門」の授業を履修していました。最初のうちは、先生や周りの学生たちが話すフランス語を聞き取り、ノートをとるのに必死でした。また、毎回授業の前に大量の文献を読み込まなければなりません。回によっては20ページほどの時もあり、よく図書館にこもってひたすら向き合っていました。とても骨が折れる作業でしたが、これを繰り返したことで長文を読むのに慣れ、語彙力もついたと思います。また、グループ発表の際には、メンバーと協力して無事乗り越えることができ、達成感を感じました。

次に生活面についてですが、入れると思っていた寮には入れず自力で探すことになり、決まるまでに一ヶ月以上かかりました。とにかくその時は常に住居のことばかり考えていました。最終的になんとか大学

近くのマンションに住むことができました。大家さんはとても優しい方で、何かと気にかけてくれました。また、チャイナタウンにも近かったので、日本の調味料や食品などが手に入りやすく、生活しやすい環境でした。

週末には、仲の良い友達と出かけたり、何回か旅行したりしました。一人でゆっくり散歩して公園や美術館まで足を運ぶことも多かったです。歩いてみることで、普段は気づかないような場所を見つけたこともあり、楽しみの一つになっていました。フランスでは日本よりも時間がゆっくりと流れている印象があり、それが自分にとって良かったのだと思います。その一方で、文化の違いを感じて戸惑ったこともありましたが、その経験を通じて日本にいた時よりも寛容になったと思います。また、何か予期せぬトラブルが起きた時など、「自分でどンドン動かなければ」と感じる事が多く、行動力がついたように思います。

留学中は楽しいことばかりではなく、大変なこともありましたが、全てがかけがえのない経験となりました。生活しているからこそ気づくこともありました。フランス語が伸びただけでなく、様々な価値観やバックグラウンドを持つ人たちと出会えたことは大きな財産です。本当に行って良かったと、心から思います。留学で得たものを、今後活かしていきたいです。



WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

パリ・ディドロ大学留学報告書

文教育学部言語文化学科

1510290 渡辺采香

パリ・ディドロ大学（フランス）

1. 留学準備

留学を決めた時に、私にとって第一の課題が語学の資格でした。パリ・ディドロ大学に留学するには DELF、TCF いずれかの試験の中級者以上のレベルを所持していなければならなかったため、マークシート方式である TCF の B1 レベル取得を目指しました。試験は年に数回しか開催されず、私は留学申し込み間に合う最後の回での受験となってしまいました。また、留学先に送るモチベーションレターや各書類の作成も期限までにしなければいけません。書き方をインターネットで調べたり、フランス語教師のサバティエ先生に添削して頂いたりして、無事に書類選考に通過し、留学が決まりました。

留学決定後は留学生向けのオリエンテーションに参加しながら準備をしていくことになっていました。主に住居探し、ビザの取得、航空券の取得が重要でした。住居は大学の留学生向けレジデンスの選考に落ちてしまったので、自分で探さなければなりません。以前フランスに住んでいた方にお話を伺いながら、フランスの日本人コミュニティサイト

(Jimomo Paris や Ovni など) に掲載されている物件から選びました。ビザの取得はフランス大使館のウェブサイトを参考にして、必要書類を集めて大使館で行

いました。幸運なことに申請後すぐビザがおりました。航空券もインターネットを通じて長期留学生向けの帰国日が変更可能なものを購入しました。

また、留学先での生活や授業の準備のために、サバティエ先生にフランス語会話や文法についての指導をして頂きました。フランスに滞在経験がある方から話を伺い、生活に対するアドバイスも頂きました。主に服装に関するものが多かったため、パリでの生活で危険な目に遭わないために目立たない、肌を隠す服を用意しました。

2. 留学生活

現地に着くとまず参加希望を出していたフランス語の夏期講習がありました。各国からの留学生とともにフランス語やフランス文化に関する授業を受けました。テストによりレベルが分けられ、授業は学生の希望を聞きながら進められました。ルーヴル美術館やセーヌ川のクルーズなど、学外授業も行われました。クラスメイト同士でご飯を食べたり、授業を受け持ってもらった先生とフォローというブラジルの踊りを踊りに行ったりと、授業外での交流も活発にありました。

新学期が始まると、通常授業としてフランス語のクラスと社会学のクラスを受講しました。フランス語のクラスは文法のクラスとその他自由に選択できるクラスがあり、私は前期にフランス語筆記、後期にはフランス・外国文化についての授業を受講しました。社会学の授業では学部1年生向けのものを選択しました。一つの授業につき大教室で行われる講義

WHAT ?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

形式のTDと小さな教室で発表やディスカッションをするCMの2コマで形成されていて、大抵の場合2つの評価が平均され成績がつきます。フランス語を母国語とする人たち向けの講義は理解が難しく、発言や発表を求められる授業には積極的に参加することができませんでした。1年を通して徐々にわかる表現も増え、他の学生との会話も増えました。学期末の試験では、問題に対して記述式で回答するものがほとんどでしたが、なんとか全ての科目で単位を取得することができました。授業では教科書は使用せず、テキストや問題文の入った冊子が配られました。後期の学期末は学生運動のため学校が閉鎖され、中止になった授業もいくつかありました。



課外活動としては、自由に参加できる日仏交流グループがありました。2回ほど交流会に参加しましたが、それきりほとんど参加しませんでした。しかし、そこで知り合った友人とはその後一緒に出かけたり、街を案内してもらったりしました。課外活動に参加しない分、現地について間もなく習い事を始めました。その一つがベリーダンスで、日本生まれの先生のもと、授業後や授業前にレッスンを受けました。生徒はほとんどフランス人の女性で、様々な年代、背景を持った方々

と知り合うことができました。先生も生徒の方々も快く私を受け入れてくださり、生活のあらゆる面で助けて頂きました。写真は生徒の一人が私の誕生日パーティーを自宅で開いてくれたときのものです。毎年5月にはショーをしているので、そのための準備にも参加しました。踊りだけでなく、脚本の翻訳や衣装や舞台づくりなど、様々なことに関わることができました。またイタリアでの公演やモロッコでのワークショップにも同行させて頂き、良い経験となりました。留学生同士だと共通の言語である英語を喋ってしまうことが多いのですが、ベリーダンスで知り合った方々とはフランス語で話したので、語学面でも非常に勉強になりました。彼女たちからはフランス人の生活やパリの街について多くのことを学びました。生活面では、あまり日本と変わりはありませんでした。食事は自炊をしたり、学食を利用したり、先生の家夕食を食べに行ったりしていました。スーパーもありますが、週に3回、午前中にマルシェが開催されているので新鮮な野



菜や肉はそこで買うこともできました。服は現地で購入したものを着ていました。

自由な時間には街を散策したり、買い物をしたり、映画館や美術館に行きました。EU内の学生は、国が運営する大抵の美術館は無料で、映画館は日本の半分ほ

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

どの値段で見ることができたのでよく利用しました。夏の暖かい時期には街中でサルサやロックを踊っている人たちもいるので、彼らに混ざって踊るのも日本とは違った感覚が新鮮で楽しかったです。パリではスリやひったくりが多く、特に日本人は危険だとよく聞いたのでメトロや歩いている間は自分の持ち物に気を配っていました。そのお陰か、危険な目にあったことはありませんでした。

3. 帰国後

留学前にフランス社会における移民問題について扱う授業を受けていましたが、留学中も移民についての授業を受け、生活の中でも移民の方々と接することが多く、日本で得た知識を確認し、複雑な問題について考え直すよい機会になりました。日本とフランスとの他国に対する距離感や考え方の違いなども肌で感じることができました。生活の中で、日本からは遠く感じる中東、マグレブなどのアラ

ブ諸国に対する興味も芽生えました。

また、フランス留学中に沢山の人の関わりを持つことができました。私が日本で生活している時には考えもつかなかったような人生を歩まれている方も多く、自由で柔軟な生き方に心を動かされました。

留学中に学んだ先生は夏に二ヶ月ほど来日しており、その際もワークショップやショーのお手伝いなどをさせて頂きました。フランスで会った人にその後も日本で会う機会があったり、数年前にイギリスやフランスで知り合った友人たちにフランスやイギリス、ノルウェーで再会することができたり、その時限りではない縁に恵まれた留学となりました。

知らない都市や生活、価値観に体当たりで触れていくことは非常に面白く、様々な面において実りある1年になりました。

WHAT?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

派遣されていた期間

2017 年 8 月から 2018 年 6 月

【留学前】

語学能力試験のための準備はどうしましたか？（必要だったスコアは？）

DELTA または TCF という試験で B1 レベルが必要。マークシートのみで TCF を受験し、対策としては過去問を解いた。

ビザの取得はどのようにしましたか？

フランス大使館に必要な書類を持って行く。予約や取得方法は大使館のウェブサイトから確認。

航空券の手配、海外旅行保険などの準備はどのようにしましたか？

父から紹介された長期留学生用の帰国の日付が変更可能な航空券をウェブサイトから手配。海外旅行保険はお茶大で紹介されたものに参加。

宿泊先はどのように選びましたか？

フランスの日本人コミュニティサイトで日本人が管理しているものに問い合わせ。

【留学中】

居住形態と住み心地はどうでしたか？

シャワーあり、家具付きの一人用ステュディオに滞在。周辺の地域の治安も良くとても過ごしやすい。

1ヶ月の居住費はいくらくらいでしたか？（日本円で）

9 万円程度（水道料金含む）

1ヶ月の生活費はいくらくらいでしたか？また、物価は東京と比べてどうでしたか？

5、6 万円程度。物価は大体同じくらいだが、外食、お弁当などの値段は高く、一方で野菜、乳製品の値段は安かった。

勉強にかかる費用はどれくらいでしたか？

教科書は使用しないので（冊子が配られる）新たに購入するのは文房具以外はほぼ無かった。

大学周辺の雰囲気はどうでしたか？

パリの隅の方で、近代的な街並み。公園、学生割引のある飲食店や大きな映画館もあり、明るく過ごしやすい。

現地の気候はどうでしたか？

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

湿度が低く、涼しい日が多い。冬は寒いですが雪は少なく、過ごしやすい。

生活する上で日本から持って行った方が良いものは？逆にいらぬものは？

特になし（家具付きの賃貸が一般的なので、必要なものは揃っている場合が多い）。大抵のものは購入可能。

現地で注意した方が良いことはありましたか？

クレジットカードしか使えない券売機などがあるので、クレジットカードは必須。

現地で語学学習に特化したクラスを受講しましたか？受講していた場合、クラスの形態（開催時期）・内容・レベルを教えてください。

夏休み中の二週間の集中講座、学期ごとのクラスを受講。テストでレベル分けされ、初級者レベルの授業を受けた。集中講座ではフランス語の表現や文化について学び、学外授業（セーヌ川のクルーズ）などもあった。学期での授業は文法のクラスと筆記とフランス文化のクラスに出席。

学部または大学院での授業は自由に選択あるいは受講できましたか？また、制約があった場合、どのような制約でしたか？

自由に選択可能だが、自分の所属学科の授業を指定数以上取らなければならなかった。

1週間に何コマ履修していましたか？また、制度上何コマまで履修できますか？

6コマ程度。何コマまで履修可能かは不明。一つの授業に2コマがあてがわれるケースが多く、時間も1時間半～2時間程度と日本の授業より長い。

授業についていくのは大変でしたか？また、授業のための準備や課題はどのようなものでしたか？

全て理解することは不可能だった。授業前にあらかじめ配られたテキストを読んでいた。

授業内で現地の学生と親しくなる機会がありましたか？

特になし。

課外活動には参加しましたか？もし、参加していれば具体的に教えてください。また参加しなかったのならば、どうして参加しなかった・できなかったのかを教えてください。

日仏の交流グループの交流会に2度ほど出席。友人はできたが肌に合わなかったので参加しなかった。

授業のない期間はどのように過ごしましたか？（週末あるいは長期休暇）

習い事の先生と親しくなったので、先生の手伝いをよくしていた。一人で買い物や美術館に行くことも多かった。

何か大きなトラブルはありましたか？どのように対処しましたか？

クレジットカードが不正利用された。クレジットカード会社、日本の家族に連絡して対処してもらった。

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

【留学後】

帰国する前に準備しておくことはありますか？

インターネット回線、電気、携帯電話、銀行口座などの解約。

就職活動あるいは大学院入試のために現地でやっていたことはありますか？

ない。

WHAT?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

本気の留学、

夢を追う覚悟を試された

文教育学部言語文化学科

グローバル文化学

g1410235 小山未空

ブカレスト大学 (ルーマニア)

① 留学準備に関して (語学スコア・ビザ申請)

渡航前、交換留学申請の段階において CEFR B2 以上の英語力があることを証明するスコアを提出するようにと国際課から連絡があり、英検準 1 級合格証明書を提出したが、受け入れ大学側が TOEFL あるいは IELTS での証明を要求しているとのことで急遽 IELTS を受験した。元から英語についての不安はなく、心配していなかった。また 10 月の派遣に先立ち春季語学研修に参加しカナダ・ケベックで 1 ヶ月間の仏語研修に参加しており、英仏でコミュニケーションが取れるように事前準備をしていた。(しかし実際には現地で仏語を話す人はほとんどおらず、英語に関しても現地の人々は自分の言いたいことを英単語で言える、といった程度だった。)

ビザ申請は困難の連続だった。ルーマニアは入国するにはビザが不要だが 90 日間以上滞在するためには現地の入国管理局でビザ申請手続きを行う必要がある。渡航前にビザを取得することはできず、必要書類は予告なく変更されることがあり (私の場合は健康診断書に指定の文言がないとのことで受付拒否された。翌日大学に相談に行くと 1 ヶ月前に規定変更

がなされたと伝えられた。) ルーマニア語の書類や受け入れ大学が発行する書類の原本の提出を求められる。書類提出前にビザ申請料金の払込を済ませる必要がある。オンライン申請は正常に機能しておらず、申請窓口の順番待ちでは横入りが行われており数日間かけて計 50 時間ほど順番待ちをして申請に至った。申請から発行までは 1 ヶ月かかり、それまでは引換券のような薄い紙切れ一枚を大切に保管する。指定された日に受け取りに行ったがまだ発行されていないとのことで 2 週間後に来るように言われた。実際に発行されたのは予定された発行日から 15 日後で予約していたフライトの前日だった。日本のパスポートは 90 日間のビザなし滞在猶予があるが、ビザを受け取ることができたのは滞在 89 日目だった。

ルーマニアの場合、正式には日本人に対してビザは発行されない。ビザ申請をしても発行されるのは滞在許可証だけでパスポートにビザが発行されることはないが、銀行で居住許可申請代金とビザ発行申請代金を支払わされる。

② 留学中のことに関して (学習・生活)

修士課程生としての学生生活は充実していた。学外から出張でやってきた先生方による講義は刺激的で、留学したことの意味を感じた時間だった。イタリア・ドイツ・スイスの出身の先生方と出会った。自分以外は全員正規のルーマニア人学生であり、前学期はブカレスト大学所属のルーマニア人の先生による講義が多かった。授業は英語でも休み時間や諸連絡事項はルーマニア語で済まされること

WHAT ?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

も多く、初めは疎外感を味わうことが多くあった。共産国時代の歴史や感覚についてはどうしても共感できないこともあった。授業の最終課題についてはルーマニア人を対象に構成されており、私にとっては取り組みにくいものばかりだったが、各学期ひとつ授業を選び教授に相談してテーマを設定してレポート課題に取り組んだ。そのほか授業内でのプレゼンや討論は現地の学生たちと同様に取り組み、最後にはクラスメイトと2人でひとつのプレゼンを作り上げて授業内で発表した。

生活は大学内の環境とは全く違い、英語がほぼ通じることがなかったためストレスを感じるが多かった。商品表示にスラブ語が併記されていたが英語や仏語がないことが多く、初めは買い物をするのに時間がかかった。寮の部屋がルームシェア・タイプで完全プライベートな空間を失ったことも相まってなかなか気が休まらなかった。日本や日本食がひどく恋しくなることはそれほどなかったが、思うように物事が進まず、しばしば悶々とした気分になり苛立つことがあった。ホームシックになれるような心の余裕がなかったという方が適切な表現かもしれない。渡航後の2017年はブカレスト市内で過ごし、クリスマス休暇に入って初めてルーマニアを離れて友人の実家で10日間お世話になった。この休暇がなければ初めの3ヶ月を乗り切ることはできなかったと思う。インターンシップ先も無事に年内に見つけた。元日はルーマニアに戻ったが、すぐに就職面接のために

再度出国した。2018年はフランス・ドイツ・チェコ・ポーランド・ハンガリーにそれぞれ用事があり、渡航した。クラスメイトとルーマニア国内を旅行して城を見たり丘登りをしたり、夏には学生の特権を大いに利用して運賃無料の国内列車で連日海沿いの街を訪れることもあった。首都のブカレストよりも地方都市の方が緑は多く、街並みも綺麗でどかな雰囲気と比較的新鮮な空気が味わえる。

③ 留学後の進路について

今後大学院生として研究を進めるか、あるいは調香師になるという夢を追うかという2つの将来像を持ちどちらが自分のにとって本当に選択したい未来なのかを見極めるために留学をした。1年間の準備期間を経て現地でさらに1年間全力で駆け抜けた結果リスクを背負って夢を追うことを選択した。留学を通しての1番の学びは自分の力ではどうしようもないこともある、ということだった。違う国に住むということ、それが日本のような先進国でなければ尚更のこと苦労は多い。政府が国民の信用を得ず、何よりも人間関係がモノをいう国の実態を肌で知った。日常生活の中で現地の言語を少しずつ習得し、人に裏切られながらも現地での人間関係構築に全力を注いだ。それでも変えられない偏見やアジアに対する先入観、現地の人々の考え方や自分とは相容れない生活文化があった。以前の自分なら必死に努力して成果が出なければ徹底的に自分を責めていたと思う。今はどうしようもないこと、として処理する選択肢を自分の中で獲得した。できないことを嘆

WHAT?

2017年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

くよりも現状で全力を尽くすこと、それでもどうにもならなかったらそれまでのことだと思えるようになった。全てのことにに関して思えるわけではないが、以前は皆無であった感覚を習得できたことは

自分にとって大きな学びとなったと思う。



1年間お世話になった哲学部のキャンパス。(入口からの写真)

2階建てで1階には小さな附属図書館がある。学内wifiは日によって繋がらないこともあり、図書館内には電波が届いていない。

手前にはベンチのある庭があり夏には赤いバラを始めカラフルな花々が咲く。

連日海沿いの街に連れて行ってくれたルーマニア人のクラスメイト。

(海沿いの散歩道での写真) 真夏日35℃炎天下の中で散歩。前日は黒海のビーチで海水浴と日光浴で一緒に夏を満喫した。

時折風が吹くとピンク色のミモザの魔法のようにほのかな甘い香りが辺りに漂う。



WHAT?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート
派遣されていた期間

2017/10/01-2018/6/30

【留学前】

語学能力試験のための準備はどうしましたか？（必要だったスコアは？）

(CEFR B2)英検準 1 級を持っていたが、派遣先に配慮して IELTS を受験した。

ビザの取得はどのようにしましたか？

渡航後に現地の入国管理局に通った。

航空券の手配、海外旅行保険などの準備はどのようにしましたか？

航空券は自分でインターネットで手配した。海外旅行保険はお茶大の斡旋するものに参加した。

宿泊先はどのように選びましたか？

渡航直後は 1 週間ほど安宿に宿泊したが、その後は大学の所有する相部屋の寮に部屋をもらえるように事前に申請した。

【留学中】

居住形態と住み心地はどうでしたか？

最大 3 人ひと部屋のルームシェア・タイプ。安全面の不安と共用スペースにある洗濯機の故障を除けば比較的快適だが入居する部屋による。

1 ヶ月の居住費はいくらくらいでしたか？（日本円で）

8000 円

1 ヶ月の生活費はいくらくらいでしたか？また、物価は東京と比べてどうでしたか？

35000 円。物価は 1/2～1/3。

勉強にかかる費用はどれくらいでしたか？

0 円。インターネットを使用することが多かった。

大学周辺の雰囲気はどうでしたか？

哲学部のキャンパスは寮のすぐ隣で比較的静かだった。

現地の気候はどうでしたか？

乾燥しており季節による寒暖差が激しく、降水量が少なかった。

生活する上で日本から持って行った方が良いものは？逆にいらぬものは？

愛読書 2.3 冊、高機能な下着、洗濯ネット。食品は要らないと思う。

WHAT?

2017 年度交換留学派遣生 留学報告書&アンケート

現地で注意した方が良かったことはありましたか？

治安をはじめ諸々

現地で語学学習に特化したクラスを受講しましたか？受講していた場合、クラスの形態（開催時期）・内容・レベルを教えてください。

受講しなかった。

学部または大学院での授業は自由に選択あるいは受講できましたか？また、制約があった場合、どのような制約でしたか？

年間 60 単位の制限を設けられた。授業は自由に選択できた。

1 週間に何コマ履修していましたか？また、制度上何コマまで履修できますか？

ウィークリーの授業はなく、全て不定期開講だった。

授業についていくのは大変でしたか？また、授業のための準備や課題はどのようなものでしたか？

特に苦労はしなかった。予習は資料を読むこともあれば、プレゼンを準備したりすることもあった。課題はレポートや筆記試験、インタビュー形式など教授によって様々だった。

授業内で現地の学生と親しくなる機会がありましたか？

なかった。

課外活動には参加しましたか？もし、参加していれば具体的に教えてください。また参加しなかったのならば、どうして参加しなかった・できなかったのかを教えてください。

参加できなかった。大学院生はほぼ全員が社会人学生のため、学外での繋がりがなかった。

授業のない期間はどのように過ごしましたか？（週末あるいは長期休暇）

図書館で読書をしたり、他国に渡航し就職面接をうけたりしていた。

何か大きなトラブルはありましたか？どのように対処しましたか？

トラブル続きだった。あの手この手を使ってどうにか乗り越えた。

【留学後】

帰国する前に準備しておくことはありますか？

上京・入寮準備と計画、留学の振り返りと報告書の執筆開始。

就職活動あるいは大学院入試のために現地でやっていたことはありますか？

就職活動と就職面接。

発行日：2019年3月25日
発 日：お茶の水女子大学国際教育センター
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
TEL/FAX：03-5978-5913
監 修：森山 新（国際教育センター長）
編 集：松田 デレク、長塚 尚子、西村 友里



Study Abroad Annual Report 2017 Experiencing the world



GO ABROAD...